

2010 年静岡県NPO法人実態調査
報告書

2010 年 12 月
静岡県くらし・環境部県民生活課

目次

1. 目的と趣旨	2
(1) 調査の目的	2
(2) 提案の趣旨	2
2. 調査の概要	2
(1) 事業名	2
(2) 提案者	2
(3) 業務実施者	2
(4) 調査地域	2
(5) 調査対象	2
(6) 調査基準日	2
(7) 調査の方法	2
(8) 調査票の作成	2
(9) 調査員研修	2
(10) 調査期間	3
3. 調査の結果	4
(1) 発送・回収状況	4
(2) 法人の属性	4
(3) 内 容	12
I.法人化について	12
II.組織運営	35
III.財 務	64
IV.行政のNPO施策	90
V.協働について	97
VI.思想・理念・ミッションなど	110
4. 資料編	125
記述式回答の結果	126
調査票	343

1. 目的と趣旨

(1) 調査の目的 本調査は、県内NPO法人の活動実態、NPO法人のニーズや課題等を調査することにより、NPO推進施策に役立てることを目的とする。

(2) 提案の趣旨 静岡県では、平成 18 年 9 月に県内 606 のNPO法人(当時)とNPO法人以外の市民活動団体 300 を対象に、「静岡県NPO法人等実態調査」を実施し、255 のNPO法人、91 の市民活動団体から回答を得て調査結果を取りまとめている。調査後の 4 年間でNPO法人の認証数は 317 増加し平成 22 年 3 月末で 923 となった。

特定非営利活動促進法は、NPO法人は市民の監督の下、市民が育てていくものであるとの考え方を基本とし、市民は所轄庁に法人から提出された事業報告書などから法人の活動内容を確認する状況となっているが、実態として、その活動状況の詳細や運営者の意識を、事業報告書の記載内容だけで市民が判断することはなかなか難しいのではないかと考えられる。

今回の提案は、NPO法人認証数が 1000 に近づこうとしている状況の中で、県内で初めて、NPO法人に特化した調査を実施することで、その運営の実態や当事者の意識について全体的な傾向などを確認するとともに、平成 18 年度の調査項目に加え、財務状況などを確認する設問項目などを新たに設けて、より具体的な法人の実態把握に努め、これらの結果を整理することで最終的には行政、市民及び企業等の、NPO法人へ一層の理解促進を図ることを目的として提案を行った。

2. 調査の概要

(1) 事業名 静岡県緊急雇用創出事業(平成 21 年度第3期民間提案)

(2) 提案者 株式会社ナショナルサービスコーポレーション

(3) 業務実施者 株式会社ナショナルサービスコーポレーション

(4) 調査地域 静岡県全域

(5) 調査対象 静岡県内のNPO法人(内閣府認証の法人を除く)923 団体

(6) 調査基準日 平成 22 年4月1日

(7) 調査の方法 調査票事前郵送による調査員面接調査

(8) 調査票の作成 平成 18 年実施の調査票を基に、NPO関係者・学識経験者で検討し作成

(9) 調査員研修

①日時 平成 22 年6月 22、23 日

②場所 静岡市番町市民活動センター

③内容 22 日 特定非営利活動促進法について
静岡県の NPO 法人の活動
NPO 活動の県政の中での位置づけ・協働事業など
調査のねらい
市民活動の歩みと現状、課題
NPO についての質疑応答
23 日 勤務のことについて

調査の流れについて
調査票について
調査についての質疑応答
訪問調査のロールプレイング

(10)調査期間 平成22年6月15日～9月30日

3. 調査の結果

(1) 発送・回収状況

静岡県内のNPO法人 923 のうち、735 の法人から調査期間内に回答を得た。

表1 回収状況

(上段:法人数,下段:%)

発送件数	回収総数	回収方法の内訳			連絡不能件数	回答辞退・拒否件数	回収期限切れ
		訪問回収	郵送回収	Eメール回収			
923	735	688	41	6	26	159	3
100%	79.6%	74.5%	4.4%	0.7%	2.8%	17.2%	0.3%

※平成18年の調査では906団体へ調査協力の依頼をし、346団体、38.2%(NPO法人255、その他91)の回収結果であった。

表2 認証年別回答数と回答率

認証年(年)	全法人数	回答法人		非回答法人	
		回答数	割合	回答数	割合
1999～2000	78	57	73.1%	21	26.9%
2001～2002	134	108	80.6%	26	19.4%
2003～2004	184	138	75.0%	46	25.0%
2005～2006	215	168	78.1%	47	21.9%
2007～2008	205	170	82.9%	35	17.1%
2009～2010	107	94	87.9%	13	12.1%
合計	923	735	79.6%	188	20.4%

表3 回答を得た法人の主な活動分野と法人数

主な活動分野	法人数	割合
保健医療福祉	237	32.2%
社会教育	47	6.4%
まちづくり	81	11.0%
学芸スポ	89	12.1%
環境の保全	103	14.0%
災害救援	3	0.4%
地域安全	12	1.6%
人権擁護平和	6	0.8%
国際協力	10	1.4%
男女共同参画	7	1.0%
子どもの健全育成	80	10.9%
情報化社会	8	1.1%
科学技術	5	0.7%
経済活動	9	1.2%
職業能力	16	2.2%
消費者	6	0.8%
連絡	14	1.9%
無回答	2	0.3%
合計	735	100.0%

(2) 法人の属性

◆活動分野

回答した735法人を活動分野別にみると、『保健医療福祉』が最も多く237法人(32.2%)となっている。

次いで『環境の保全』103法人(14.0%)、『学術・文化・芸術・スポーツの振興』89法人(12.1%)、『まちづくり』81法人(11.0%)、『子どもの健全育成』80法人(10.9%)、『社会教育』47法人(6.4%)となっており、これらが上位6分野を占めている。

次いで『環境の保全』102法人(13.9%)、『学術・文化・芸術・スポーツの振興』90法人(12.2%)、『まちづくり』81法人(11.0%)、『子どもの健全育成』80法人(10.9%)、『社会教育』47法人(6.4%)となっており、これら上位6分野が他の11分野〔最多が『職業能力』の16(2.2%)、最小が『科学技術』の5(0.7%)〕に比べて、多いグループとなっている。(表3)

※なお、主な活動分野については、各法人の定款にある分野の中で法人の選択したものと、目的・活動実態とが乖離しているものも若干あった。

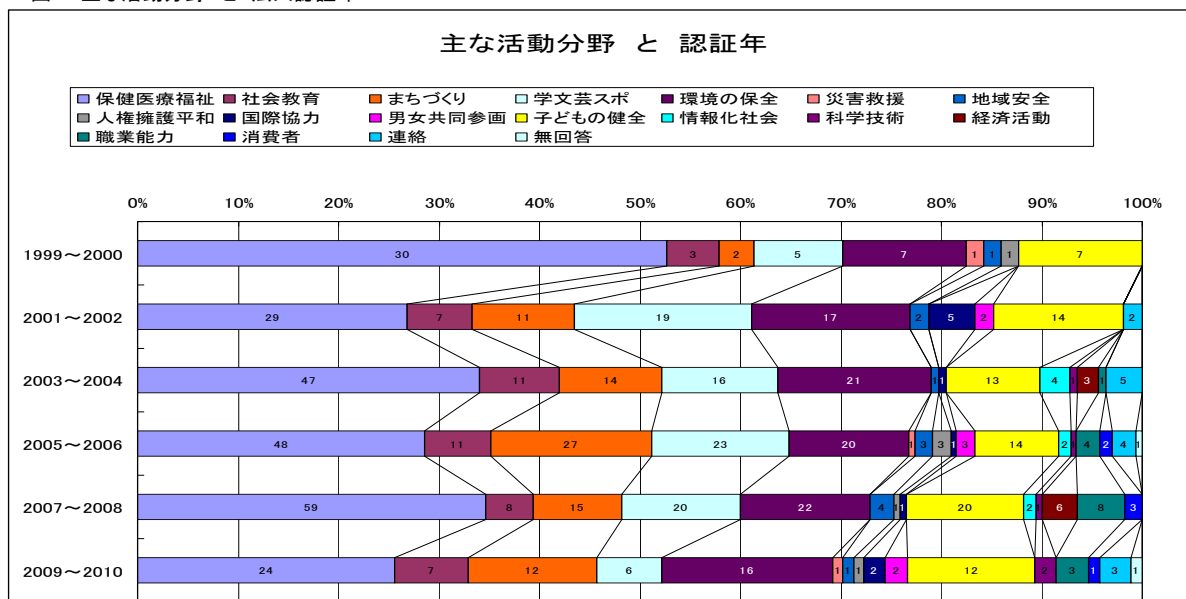
法人の主な活動分野を認証年別にみると、ほとんどの分野で2003～2008年の間に設立のピークがあるが、『国際協力』だけは『2001～2002年』に5(50%)が設立されている。どの時期でも『保健医療福祉』が最も多いが、その割合が当初(『2001～2002年』)に比べると減少し、ほかの分野の法人の割合が増えている。(表4、図4)。

表4 主な活動分野 と 法人認証年

上段:法人数, 下段:%

	1999～2000	2001～2002	2003～2004	2005～2006	2007～2008	2009～2010	合計
保健医療福祉	30 (12.7%)	29 (12.2%)	47 (19.8%)	48 (20.3%)	59 (24.9%)	24 (10.1%)	237
社会教育	3 (6.4%)	7 (14.9%)	11 (23.4%)	11 (23.4%)	8 (17%)	7 (14.9%)	47
まちづくり	2 (2.5%)	11 (13.6%)	14 (17.3%)	27 (33.3%)	15 (18.5%)	12 (14.8%)	81
学文芸スポ	5 (5.6%)	19 (21.3%)	16 (18%)	23 (25.8%)	20 (22.5%)	6 (6.7%)	90
環境の保全	7 (6.8%)	17 (16.5%)	21 (20.4%)	20 (19.4%)	22 (21.4%)	16 (15.5%)	102
災害救援	1 (33.3%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (33.3%)	0 (0%)	1 (33.3%)	3
地域安全	1 (8.3%)	2 (16.7%)	1 (8.3%)	3 (25%)	4 (33.3%)	1 (8.3%)	13
人権擁護平和	1 (16.7%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (50%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	6
国際協力	0 (0%)	5 (50%)	1 (10%)	1 (10%)	1 (10%)	2 (20%)	10
男女共同参画	0 (0%)	2 (28.6%)	0 (0%)	3 (42.9%)	0 (0%)	2 (28.6%)	7
子どもの健全育成	7 (8.8%)	14 (17.5%)	13 (16.3%)	14 (17.5%)	20 (25%)	12 (15%)	80
情報化社会	0 (0%)	0 (0%)	4 (50%)	2 (25%)	2 (25%)	0 (0%)	8
科学技術	0 (0%)	0 (0%)	1 (20%)	1 (20%)	1 (20%)	2 (40%)	5
経済活動	0 (0%)	0 (0%)	3 (33.3%)	0 (0%)	6 (66.7%)	0 (0%)	8
職業能力	0 (0%)	0 (0%)	1 (6.3%)	4 (25%)	8 (50%)	3 (18.8%)	16
消費者	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (33.3%)	3 (50%)	1 (16.7%)	6
連絡	0 (0%)	2 (14.3%)	5 (35.7%)	4 (28.6%)	0 (0%)	3 (21.4%)	14
無回答	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	1 (50%)	2
合計	57 (7.8%)	108 (14.7%)	138 (18.8%)	168 (22.9%)	170 (23.1%)	94 (12.8%)	735

図4 主な活動分野 と 法人認証年



法人の主な活動分野を地域別で見ると、全体的には傾向に大きな違いはないが、『まちづくり』は 12%を超えている東部、西部に比べ、中部では 8.5%と少なく、『情報化社会』は、東部 0.5%、西部 0%と比べ、中部が 2.5%と、高くなっている。また『連絡』が西部地区では、低くなっている。

10 法人以上の回答を得た 20 市町で見ると、『保健医療福祉』16、『環境の保全』4、『学術・文化・芸術・スポーツの振興』、『子どもの健全育成』が2市町で、最も多い分野(同数1位はそれぞれの分野で1位と数えた)となった。(表5)

表5 主な活動分野 と 主たる事務所のある住所

上段：法人数、下段：%

		保健医療福祉	社会教育	まちづくり	学芸文芸	環境の保全	災害救援	地域安全	人権擁護平和	国際協力	男女共同参画	子どもの健全育成	情報化社会	科学技術	経済活動	職業能力	消費者	連絡	無回答	合計	
東部	東伊豆町	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0	
	松崎町	0 0%	0 0%	1 100%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	1
	西伊豆町	1 100%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	1
	河津町	0 0%	0 0%	1 50%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	1 50%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	2
	南伊豆町	1 20%	0 0%	1 20%	0 0%	2 40%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	1 20%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	5
	長泉町	0 0%	0 0%	0 0%	2 66.7%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	1 33.3%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	3
	小山町	0 0%	0 0%	1 25%	1 25%	2 50%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	4
	下田市	1 20%	1 20%	1 20%	1 20%	0 0%	0 0%	1 20%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	5
	函南町	3 30%	0 0%	1 10%	2 20%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	2 20%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	1 10%	1 10%	0 0%	0 0%	10
	裾野市	3 27.3%	0 0%	1 9.1%	1 9.1%	2 18.2%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	1 9.1%	3 27.3%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	11
	伊豆の国市	1 14.3%	0 0%	2 28.6%	0 0%	3 42.9%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	1 14.3%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	7
	清水町	4 44.4%	0 0%	0 0%	4 44.4%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	1 11.1%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	9
	伊豆市	4 28.6%	1 7.1%	1 7.1%	4 28.6%	2 14.3%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	2 14.3%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	14
	御殿場市	3 21.4%	1 7.1%	0 0%	2 14.3%	4 28.6%	0 0%	1 7.1%	0 0%	0 0%	0 0%	1 7.1%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	14.3%	0 0%	0 0%	0 0%	14
	熱海市	5 35.7%	2 14.3%	2 14.3%	1 7.1%	2 14.3%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	1 7.1%	0 0%	0 0%	1 7.1%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	14
	富士宮市	9 50%	3 16.7%	1 5.6%	1 5.6%	3 16.7%	0 0%	1 5.6%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	18
	伊東市	6 24%	1 4%	1 4%	4 16%	5 20%	1 4%	1 4%	0 0%	0 0%	0 0%	4 16%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	2 8%	0 0%	0 0%	0 0%	25
	三島市	5 22.7%	1 4.5%	3 13.6%	2 9.1%	7 31.8%	0 0%	0 0%	0 0%	1 4.5%	0 0%	0 0%	1 4.5%	0 0%	0 0%	1 4.5%	0 0%	0 0%	0 0%	1 4.5%	22
	富士市	16 35.6%	2 4.4%	8 17.8%	3 6.7%	5 11.1%	0 0%	1 2.2%	0 0%	0 0%	0 0%	6 13.3%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	2 4.4%	0 0%	4.4%	0 0%	45
	沼津市	15 30.6%	2 4.1%	8 16.3%	8 16.3%	1 2%	1 2%	0 0%	2 4%	1 2%	1 2%	0 0%	6 12.2%	0 0%	0 0%	2 4.1%	1 2%	0 0%	6.1%	3 6.1%	49
東部小計	77 29.7%	14 5.4%	33 12.7%	36 13.9%	38 14.7%	2 0.8%	5 1.9%	1 0.4%	2 0.8%	1 0.4%	29 11.2%	1 0.4%	0 0.0%	3 1.2%	7 2.7%	3 1.2%	6 2.3%	1 0.4%	259		
中部	川根本町	0 0%	0 0%	1 100%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	1	
	吉田町	0 0%	0 0%	1 33.3%	0 0%	1 33.3%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	33.3%	0 0%	0 0%	0 0%	3	
	牧之原市	1 16.7%	2 33.3%	1 16.7%	0 0%	1 16.7%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	1 16.7%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	6	
	島田市	8 53.3%	0 0%	2 13.3%	1 6.7%	3 20%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	1 6.7%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	15
	焼津市	11 52.4%	1 4.8%	2 9.5%	2 9.5%	0 0%	0 0%	0 0%	4.8%	0 0%	0 0%	3 14.3%	0 0%	0 0%	0 0%	1 4.8%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	21
	藤枝市	10 43.5%	1 4.3%	0 0%	4 17.4%	2 8.7%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	4 17.4%	0 0%	1 4.3%	0 0%	4.3%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	23
	静岡市	64 29.9%	17 7.9%	17 7.9%	26 12.1%	29 13.6%	0 0%	1.9%	0.5%	1.9%	4 1.9%	21 9.8%	7 3.3%	1 0.5%	3 1.4%	6 2.8%	3 1.4%	7 3.3%	0 0%	0 0%	214
	中部小計	94 33.2%	21 7.4%	24 8.5%	33 11.7%	36 12.7%	0 0%	4 1.4%	2 0.7%	4 1.4%	4 1.4%	30 10%	7 2.5%	2 0.7%	3 1.1%	9 3.2%	3 1.1%	7 2.5%	0 0%	283	
	西部	森町	3 100%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	3
御前崎市		2 22.2%	1 11.1%	3 33.3%	1 11.1%	2 22.2%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	9	
菊川市		3 27.3%	2 18.2%	0 0%	0 0%	3 27.3%	1 9.1%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	2 18.2%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	11	
湖西市		1 10%	0 0%	1 10%	3 30%	1 10%	0 0%	1 10%	0 0%	0 0%	0 0%	3 30%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	10	
袋井市		5 38.5%	1 7.7%	2 15.4%	1 7.7%	0 0%	0 0%	1 7.7%	0 0%	0 0%	0 0%	3 23.1%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	13	
掛川市		3 18.8%	2 12.5%	3 18.8%	2 12.5%	4 25%	0 0%	1 6.3%	0 0%	1 6.3%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	16	
磐田市		10 50%	0 0%	1 5%	3 15%	3 15%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	3 15%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	20	
浜松市		39 35.1%	6 5.4%	14 12.6%	10 9%	16 14.4%	0 0%	0 0%	3 2.7%	3 2.7%	2 1.8%	10 9%	0 0%	3 2.7%	3 2.7%	0 0%	0 0%	1 0.9%	1 0.9%	111	
西部小計		66 34.2%	12 6.2%	24 12.4%	20 10.4%	29 15.0%	1 0.5%	3 1.6%	3 1.6%	4 2.1%	2 1.0%	21 10.9%	0 0%	3 1.6%	3 1.6%	0 0%	0 0%	1 0.5%	1 0.5%	193	
合計		237 32.2%	47 6.4%	81 11%	89 12.1%	103 14%	3 0.4%	12 1.6%	6 0.8%	10 1.4%	7 1%	80 10.9%	8 1.1%	5 0.7%	9 1.2%	16 2.2%	6 0.8%	14 1.9%	2 0.3%	735	

◆活動地域

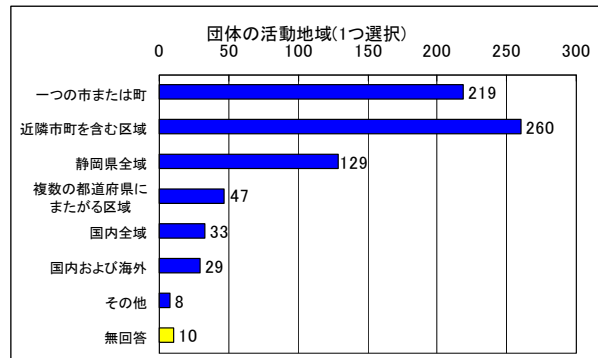
各法人の活動地域をみると、『近隣市町を含む区域』が260(35.4%)で最も多く、次いで『一つの市または町』が219(29.8%)、『静岡県全域』が129(17.6%)の順となっている。国内外を活動範囲とする法人も29(3.9%)ある。(表6)

※ 『その他』として、政令市の区または複数の区、市町の中の地区、あるいはもっと小さな地域を対象とした活動としたものがあつたが、『一つの市または町』に含めた。ちなみに「その他」には、「東部中部」、「海外」などの回答があつた。

表6 活動範囲と法人数

団体の活動範囲	法人数	%
一つの市または町	219	29.8%
近隣市町を含む区域	260	35.4%
静岡県全域	129	17.6%
複数の都道府県にまたがる区域	47	6.4%
国内全域	33	4.5%
国内および海外	29	3.9%
その他	8	1.1%
無回答	10	1.4%
合計	735	100.0%

図2 活動範囲と法人数



法人の「主たる事務所のある市町」と「活動地域」を見ると、東、中、西の3地域別では、『近隣市町を含む区域』の割合が、東部、西部では40%を超えているのに対し、中部では23.3%となっている。それに対し『静岡県全域』を活動地域とする法人が中部は30.7%であるが、東部7.7%、西部では11.4%となっている。これは静岡市に県庁があることと、県中央部という立地が影響していると思われる。

「市町」でみると、『複数の都道府県にまたがる区域』を対象とする法人は浜松市に最も多い。それ以外はすべて静岡市に主たる事務所を置く法人が最も多い。また静岡市、焼津市、吉田町では、『静岡県全域』を活動地域とする法人が、他の範囲を活動地域とする法人よりも多くなっている。(表7)

表7 主たる事務所のある住所 と 団体の活動地域

上段：法人数，下段：%

		一つの市 または町	近隣 市町 を含 む区 域	静岡県全域	複数の都 道府県にま たがる区域	国内全域	国内および 海外	その他	無回答	合計
東部	東伊豆町	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0
	松崎町	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1
	西伊豆町	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1
	河津町	0 (0%)	2 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2
	南伊豆町	2 (40%)	2 (40%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (20%)	5
	長泉町	1 (33.3%)	1 (33.3%)	0 (0%)	1 (33.3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3
	小山町	3 (75%)	1 (25%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	4
	下田市	2 (40%)	3 (60%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	5
	函南町	2 (20%)	7 (70%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	10
	裾野市	6 (54.5%)	4 (36.4%)	1 (9.1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	11
	伊豆の国市	1 (14.3%)	6 (85.7%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	7
	清水町	2 (22.2%)	4 (44.4%)	0 (0%)	1 (11.1%)	0 (0%)	2 (22.2%)	0 (0%)	0 (0%)	9
	伊豆市	4 (28.6%)	6 (42.9%)	1 (7.1%)	2 (14.3%)	0 (0%)	1 (7.1%)	0 (0%)	0 (0%)	14
	御殿場市	5 (35.7%)	8 (57.1%)	0 (0%)	1 (7.1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	14
	熱海市	4 (28.6%)	3 (21.4%)	1 (7.1%)	1 (7.1%)	3 (21.4%)	1 (7.1%)	1 (7.1%)	0 (0%)	14
	富士宮市	5 (27.8%)	7 (38.9%)	1 (5.6%)	3 (16.7%)	1 (5.6%)	1 (5.6%)	0 (0%)	0 (0%)	18
	伊東市	5 (20%)	8 (32%)	4 (16%)	6 (24%)	2 (8%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	25
	三島市	1 (4.5%)	11 (50%)	4 (18.2%)	1 (4.5%)	1 (4.5%)	2 (9.1%)	0 (0%)	2 (9.1%)	22
	富士市	18 (40%)	18 (40%)	3 (6.7%)	4 (8.9%)	1 (2.2%)	0 (0%)	1 (2.2%)	0 (0%)	45
	沼津市	12 (24.5%)	21 (42.9%)	5 (10.2%)	3 (6.1%)	4 (8.2%)	3 (6.1%)	1 (2%)	0 (0%)	49
東部小計	73 (28.2%)	114 (44%)	20 (7.7%)	23 (8.9%)	12 (4.6%)	11 (4.2%)	3 (1.2%)	3 (1.2%)	259	
中部	川根本町	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1
	吉田町	1 (33.3%)	0 (0%)	2 (66.7%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3
	牧之原市	3 (50%)	3 (33.3%)	0 (0%)	1 (16.7%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	6
	島田市	7 (46.7%)	7 (46.7%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (6.7%)	15
	焼津市	4 (19%)	6 (28.6%)	9 (42.9%)	1 (4.8%)	0 (0%)	1 (4.8%)	0 (0%)	0 (0%)	21
	藤枝市	8 (34.8%)	7 (30.4%)	3 (13%)	1 (4.3%)	2 (8.7%)	1 (4.3%)	0 (0%)	1 (4.3%)	23
	静岡市	66 (30.8%)	43 (20.1%)	73 (34.1%)	6 (2.8%)	9 (4.2%)	10 (4.7%)	3 (1.4%)	4 (1.9%)	214
	中部小計	89 (31.4%)	66 (23.3%)	87 (30.7%)	9 (3.2%)	11 (3.9%)	12 (4.2%)	3 (1.1%)	6 (2.1%)	283
西部	森町	1 (33.3%)	2 (66.7%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3
	御前崎市	1 (11.1%)	7 (77.8%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (11.1%)	0 (0%)	0 (0%)	9
	菊川市	3 (27.3%)	6 (54.5%)	1 (9.1%)	1 (9.1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	11
	湖西市	4 (40%)	4 (40%)	0 (0%)	1 (10%)	1 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	10
	袋井市	3 (23.1%)	8 (61.5%)	0 (0%)	1 (7.7%)	0 (0%)	1 (7.7%)	0 (0%)	0 (0%)	13
	掛川市	8 (50%)	5 (31.3%)	2 (12.5%)	0 (0%)	1 (6.3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	16
	磐田市	7 (35%)	8 (40%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (15%)	1 (5%)	1 (5%)	0 (0%)	20
	浜松市	30 (27%)	40 (36%)	19 (17.1%)	12 (10.8%)	5 (4.5%)	3 (2.7%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	111
西部小計	57 (29.5%)	80 (41.5%)	22 (11.4%)	15 (7.8%)	10 (5.2%)	6 (3.1%)	2 (1%)	1 (0.5%)	193	
合計	219 (29.8%)	260 (35.4%)	129 (17.6%)	47 (6.4%)	33 (4.5%)	29 (3.9%)	8 (1.1%)	10 (1.4%)	735	

主な活動分野別で活動地域を見ると、『国際協力』以外のすべての分野で、県内より狭い活動地域のも
 が最も多くなっている。

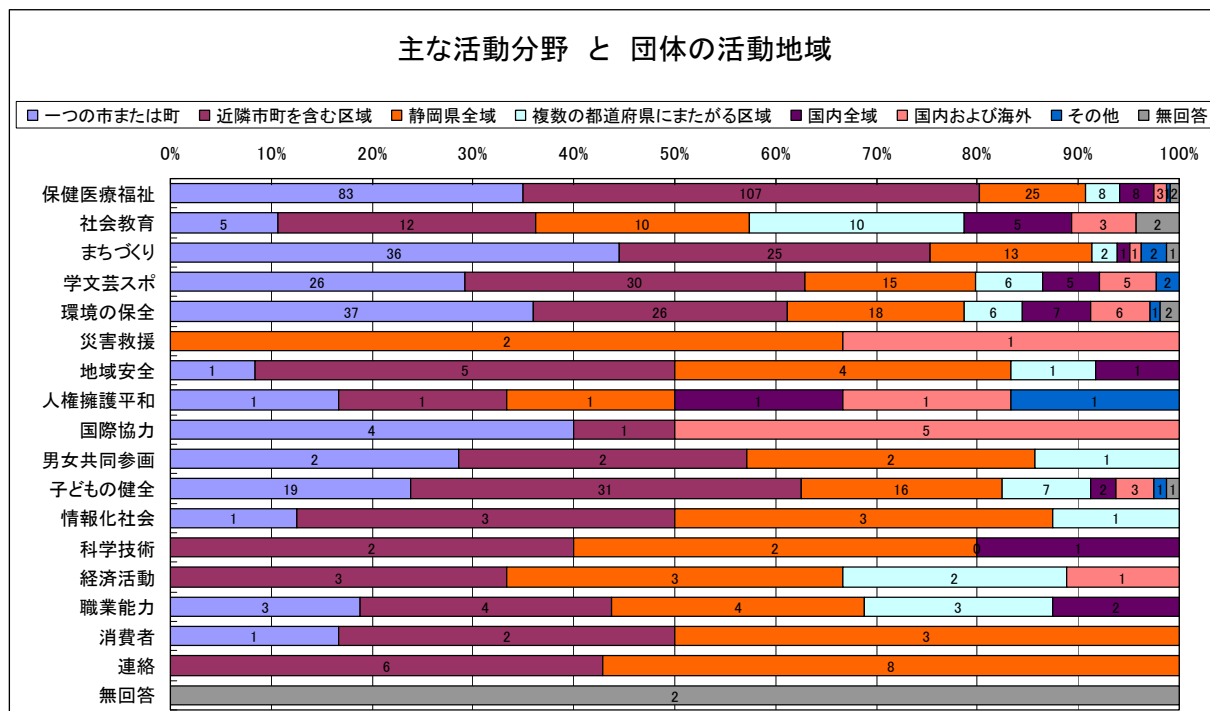
『保健医療福祉』、『社会教育』、『学術・文化・芸術・スポーツの振興』、『子どもの健全育成』などでは、『近
 隣市町を含む区域』を対象としている法人が最も多く、『まちづくり』、『環境の保全』などでは、『一つの市また
 は町』を活動地域とするものが最も多い。(表8、図3)

表8 主な活動分野 と 法人の活動地域

上段:法人数, 下段:%

	一つの市 または町	近隣市町 を含む区 域	静岡県全域	複数の都 道府県に またがる 区域	国内全域	国内およ び海外	その他	無回答	合計
保健医療福祉	83 (35%)	107 (45.1%)	25 (10.5%)	8 (3.4%)	8 (3.4%)	3 (1.3%)	1 (0.4%)	2 (0.8%)	237
社会教育	5 (10.6%)	12 (25.5%)	10 (21.3%)	10 (21.3%)	5 (10.6%)	3 (6.4%)	0 (0%)	2 (4.3%)	47
まちづくり	36 (44.4%)	25 (30.9%)	13 (16%)	2 (2.5%)	1 (1.2%)	1 (1.2%)	2 (2.5%)	1 (1.2%)	81
学芸スポ	26 (29.2%)	30 (33.7%)	15 (16.9%)	6 (6.7%)	5 (5.6%)	5 (5.6%)	2 (2.2%)	0 (0%)	89
環境の保全	37 (35.9%)	26 (25.2%)	18 (17.5%)	6 (5.8%)	7 (6.8%)	6 (5.8%)	1 (1%)	2 (1.9%)	103
災害救援	0 (0%)	0 (0%)	2 (66.7%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (33.3%)	0 (0%)	0 (0%)	3
地域安全	1 (8.3%)	5 (41.7%)	4 (33.3%)	1 (8.3%)	1 (8.3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	12
人権擁護平和	1 (16.7%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	0 (0%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	0 (0%)	6
国際協力	4 (40%)	1 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	10
男女共同参画	2 (28.6%)	2 (28.6%)	2 (28.6%)	1 (14.3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	7
子どもの健全育成	19 (23.8%)	31 (38.8%)	16 (20%)	7 (8.8%)	2 (2.5%)	3 (3.8%)	1 (1.3%)	1 (1.3%)	80
情報化社会	1 (12.5%)	3 (37.5%)	3 (37.5%)	1 (12.5%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	8
科学技術	0 (0%)	2 (40%)	2 (40%)	0 (0%)	1 (20%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	5
経済活動	0 (0%)	3 (33.3%)	3 (33.3%)	2 (22.2%)	0 (0%)	1 (11.1%)	0 (0%)	0 (0%)	9
職業能力	3 (18.8%)	4 (25%)	4 (25%)	3 (18.8%)	2 (12.5%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	16
消費者	1 (16.7%)	2 (33.3%)	3 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	6
連絡	0 (0%)	6 (42.9%)	8 (57.1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	14
無回答	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (100%)	2
合計	219 (29.8%)	260 (35.4%)	129 (17.6%)	47 (6.4%)	33 (4.5%)	29 (3.9%)	8 (1.1%)	10 (1.4%)	735

図3 主な活動分野 と 法人の活動地域



(3) 内容

I. 法人化について

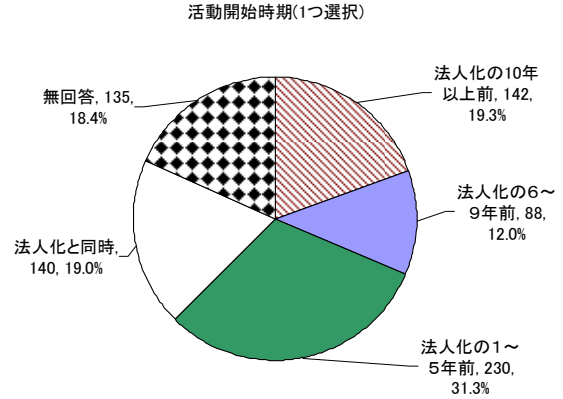
ここでは、団体がNPO法人となることの意味を調査した。

問1. 活動を始めた時期

活動を始めたのはいつからですか。該当するものを1つ選び、その番号に○をつけてください。

『法人化の1～5年前』との回答が230(31.3%)と最も多く、次いで『10年以上前から』142(19.3%)、『法人化と同時』140(19.0%)となっている。

認証年別でみると、『法人化の10年以上前』は、「1999～2000」に最多数だが、その後は『法人化の1～5年前』が最も多く、近年は『法人化と同時』よりも少なくなっている。(表I-1、図I-1)

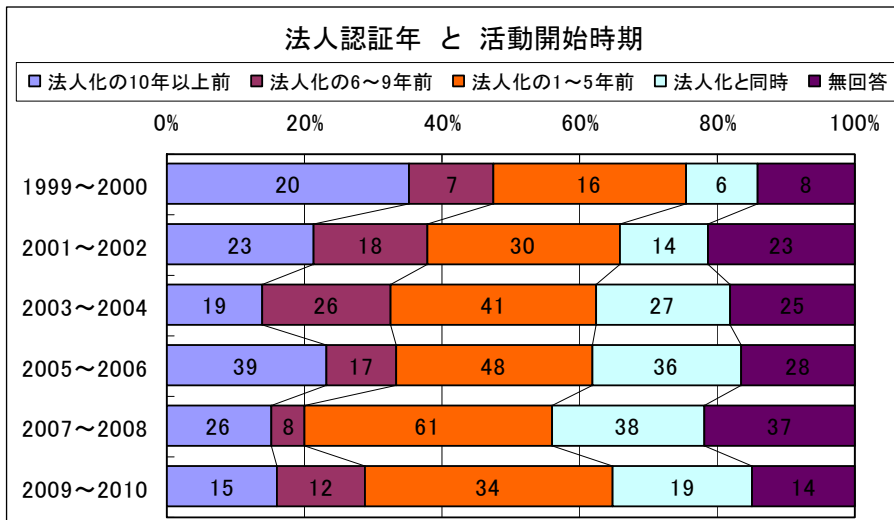


表I-1 法人認証年 と 活動開始時期

上段: 法人数, 下段: %

	法人化の10年以上前	法人化の6～9年前	法人化の1～5年前	法人化と同時	無回答	合計
1999～2000	20 (35.1%)	7 (12.3%)	16 (28.1%)	6 (10.5%)	8 (14%)	57
2001～2002	23 (21.3%)	18 (16.7%)	30 (27.8%)	14 (13%)	23 (21.3%)	108
2003～2004	19 (13.8%)	26 (18.8%)	41 (29.7%)	27 (19.6%)	25 (18.1%)	138
2005～2006	39 (23.2%)	17 (10.1%)	48 (28.6%)	36 (21.4%)	28 (16.7%)	168
2007～2008	26 (15.3%)	8 (4.7%)	61 (35.9%)	38 (22.4%)	37 (21.8%)	170
2009～2010	15 (16%)	12 (12.8%)	34 (36.2%)	19 (20.2%)	14 (14.9%)	94
無回答	142 (19.3%)	88 (12%)	230 (31.3%)	140 (19%)	135 (18.4%)	735
合計	20 (35.1%)	7 (12.3%)	16 (28.1%)	6 (10.5%)	8 (14%)	57

図I-1 法人認証年 と 活動開始時期

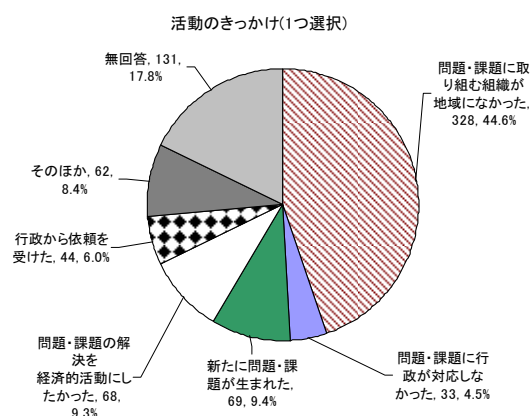


問2. 活動を始めたきっかけ・目的

活動を始めたきっかけ・目的は何ですか。該当するものを1つ選び、その番号に○をつけてください。

『問題・課題に取り組む組織が地域になかった』との回答が328(44.6%)と最も多く、全体の3分の1以上を占める。次いで『新たに問題・課題が生まれた』69(9.4%)、並んで『問題・課題の解決を経済的活動にしたかった』68(9.3%)となっている。一方、『行政から依頼を受けた』44(6.0%)のように活動が行政主導で始められたものも少なからずあった。『そのほか』の内容としては、「社会貢献するため」7、「高齢者のため」6などがあった。

活動分野別でみると、各分野とも『問題・課題に取り組む組織が地域になかった』が最も多く、法人数の多いものの中では「子どもの健全育成」では、53.8%とその比率は半数を超える。法人数が少ないものでは「情報化社会」62.5%、「科学技術」60.0%が半数を超えている。(表I-2-1, 図I-2-1)

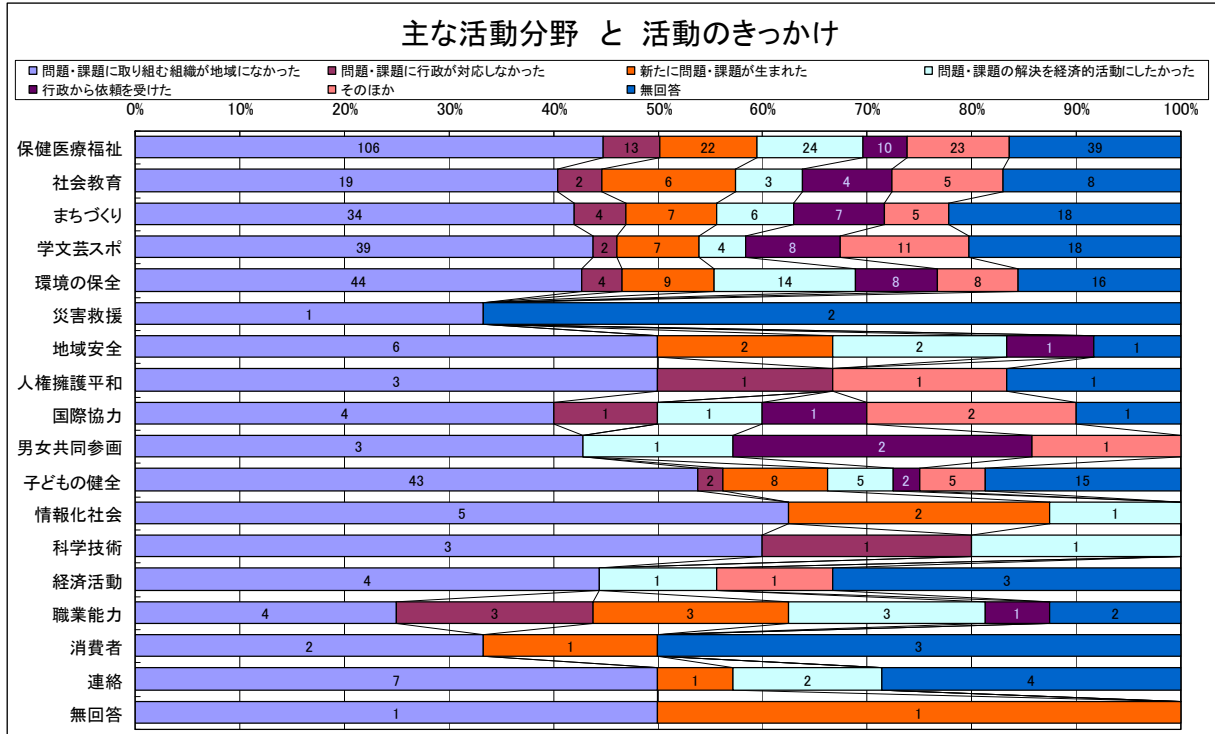


表I-2-1 主な活動分野と活動のきっかけ

上段:法人数, 下段:%

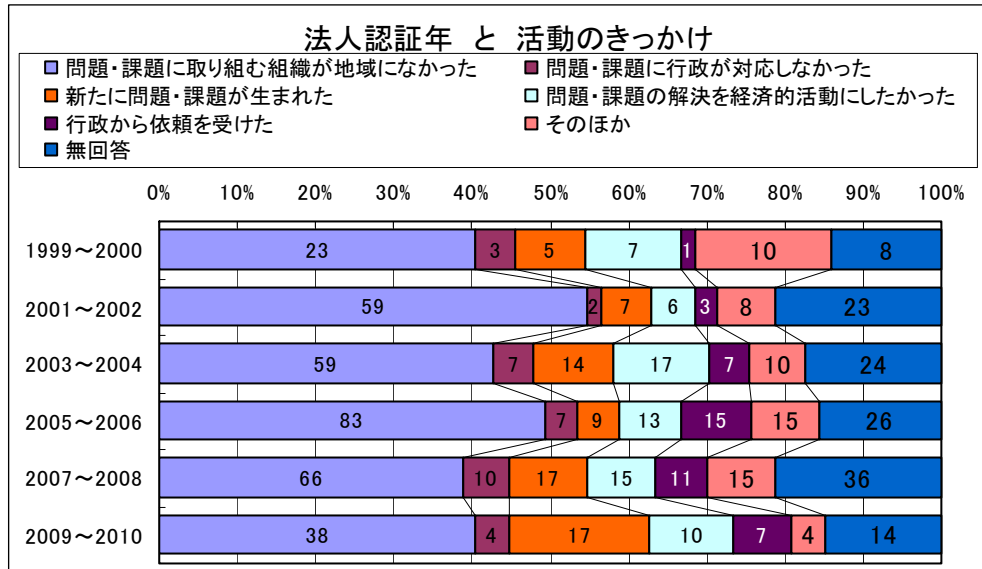
	問題・課題に取り組む組織が地域になかった	問題・課題に行政が対応しなかった	新たに問題・課題が生まれた	問題・課題の解決を経済的活動にしたかった	行政から依頼を受けた	そのほか	無回答	合計
保健医療福祉	106 (44.7%)	13 (5.5%)	22 (9.3%)	24 (10.1%)	10 (4.2%)	23 (9.7%)	39 (16.5%)	237
社会教育	19 (40.4%)	2 (4.3%)	6 (12.8%)	3 (6.4%)	4 (8.5%)	5 (10.6%)	8 (17%)	47
まちづくり	34 (42%)	4 (4.9%)	7 (8.6%)	6 (7.4%)	7 (8.6%)	5 (6.2%)	18 (22.2%)	81
学芸スポ	39 (43.8%)	2 (2.2%)	7 (7.9%)	4 (4.5%)	8 (9%)	11 (12.4%)	18 (20.2%)	89
環境の保全	44 (42.7%)	4 (3.9%)	9 (8.7%)	14 (13.6%)	8 (7.8%)	8 (7.8%)	16 (15.5%)	103
災害救援	1 (33.3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (66.7%)	3
地域安全	6 (50%)	0 (0%)	2 (16.7%)	2 (16.7%)	1 (8.3%)	0 (0%)	1 (8.3%)	12
人権擁護平和	3 (50%)	1 (16.7%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	6
国際協力	4 (40%)	1 (10%)	0 (0%)	1 (10%)	1 (10%)	2 (20%)	1 (10%)	10
男女共同参画	3 (42.9%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (14.3%)	2 (28.6%)	1 (14.3%)	0 (0%)	7
子どもの健全育成	43 (53.8%)	2 (2.5%)	8 (10%)	5 (6.3%)	2 (2.5%)	5 (6.3%)	15 (18.8%)	80
情報化社会	5 (62.5%)	0 (0%)	2 (25%)	1 (12.5%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	8
科学技術	3 (60%)	1 (20%)	0 (0%)	1 (20%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	5
経済活動	4 (44.4%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (11.1%)	0 (0%)	1 (11.1%)	3 (33.3%)	9
職業能力	4 (25%)	3 (18.8%)	3 (18.8%)	3 (18.8%)	1 (6.3%)	0 (0%)	2 (12.5%)	16
消費者	2 (33.3%)	0 (0%)	1 (16.7%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (50%)	6
連絡	7 (50%)	0 (0%)	1 (7.1%)	2 (14.3%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (28.6%)	14
無回答	1 (50%)	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2
合計	328 (44.6%)	33 (4.5%)	69 (9.4%)	68 (9.3%)	44 (6%)	62 (8.4%)	131 (17.8%)	735

図 I-2-1 主な活動分野 と 活動を始めたきっかけ



法人の認証年別で見ると、ほとんどの項目が、法人認証件数が多かった 2005～2008 年をピークに減少しているのに対し、『新たに問題・課題が生まれた』は近年、増加傾向にある。(図 I-2-2)

図 I-2-2 法人認証年 と 活動のきっかけ



『問題・課題の解決を経済的活動にしたかった』をきっかけとする法人数を割合で見ると、「1999～2000」、「2003～2004」の12.3%が最も多いが、「2005～2006」に7.7%まで落ちた後、増えていっている。

『問題・課題に取り組む組織が地域になかった』を活動のきっかけとする法人を、活動分野別で見ると多くの分野で1999年から2002年の間に法人として認証を受けているが、「人権擁護平和」、「消費者」の2分野は2005年以降の認証となっている。(図I-2-4)

『新たに問題・課題が生まれた』をきっかけとする法人を、活動分野別で見ると、このきっかけの割合が比較的高い「社会教育」では時期的特徴は特に見られないが、「職業教育」では2005年以降に集まっている。(図I-2-6)

『問題・課題に行政が対応しなかった』、『問題・課題の解決を経済的活動にしたかった』、『行政から依頼を受けた』を活動のきっかけとする法人を、活動分野別でそれぞれみたが、標本数も少ないこともあり、特記すべきことはなかった。(図I-2-5、図I-2-7、図I-2-8)

図I-2-4 主な活動分野 と 法人認証年 と 活動を始めたきっかけ
『問題・課題に取り組む組織が地域になかった』

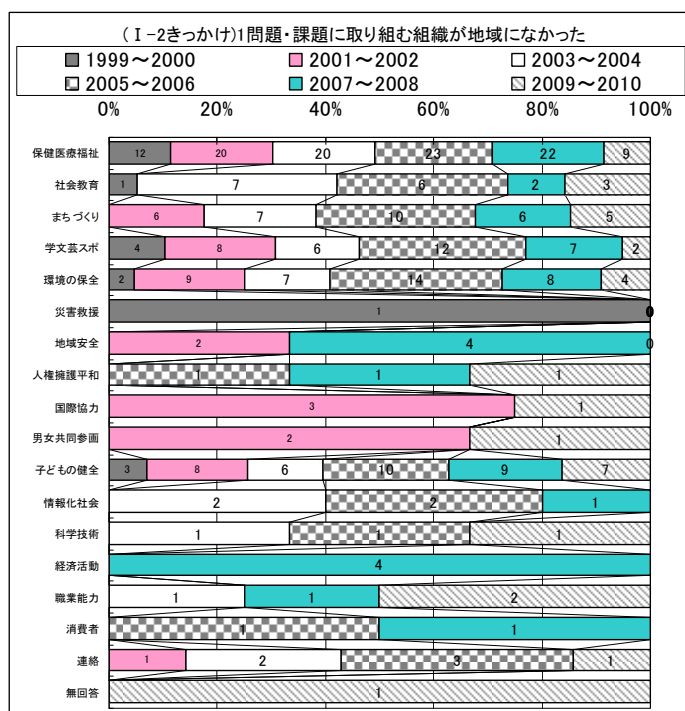


図 I-2-5 主な活動分野 と 法人認証年 と 活動を始めたきっかけ
『問題・課題に行政が対応しなかった』

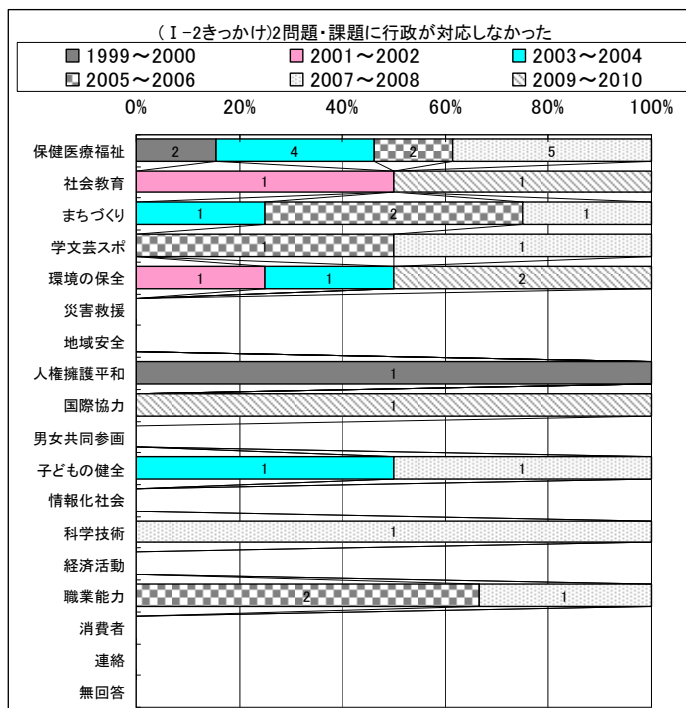


図 I-2-6 主な活動分野 と 法人認証年 と 活動を始めたきっかけ
『新たに問題・課題が生まれた』

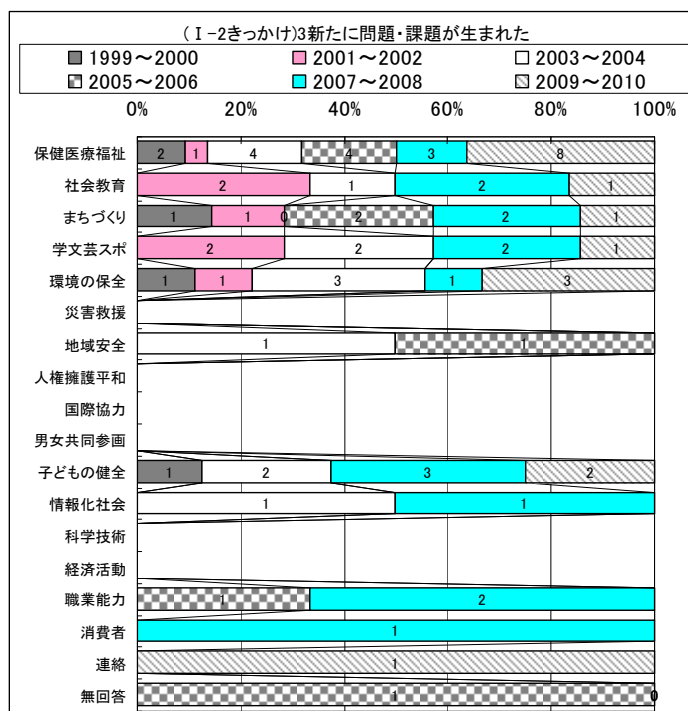


図 I-2-7 主な活動分野 と 法人認証年 と 活動を始めたきっかけ
『問題・課題の解決を経済的活動にしたかった』

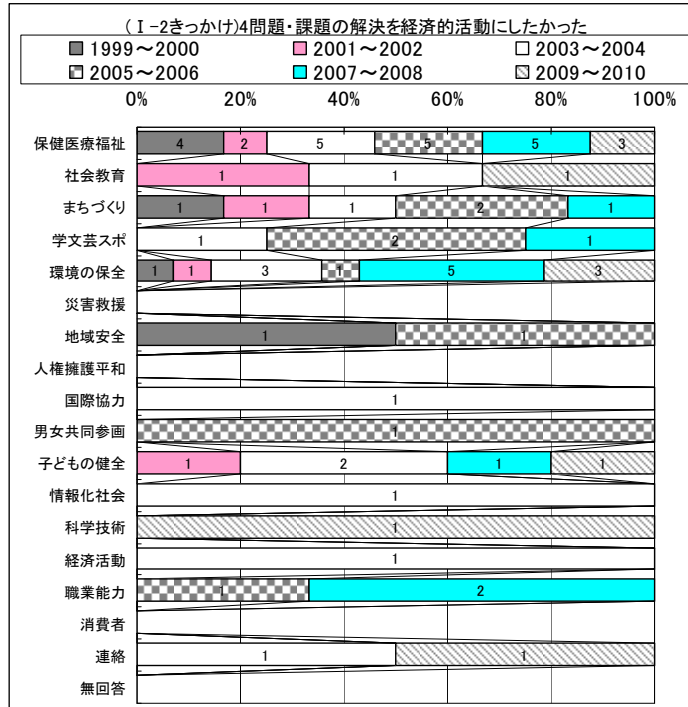
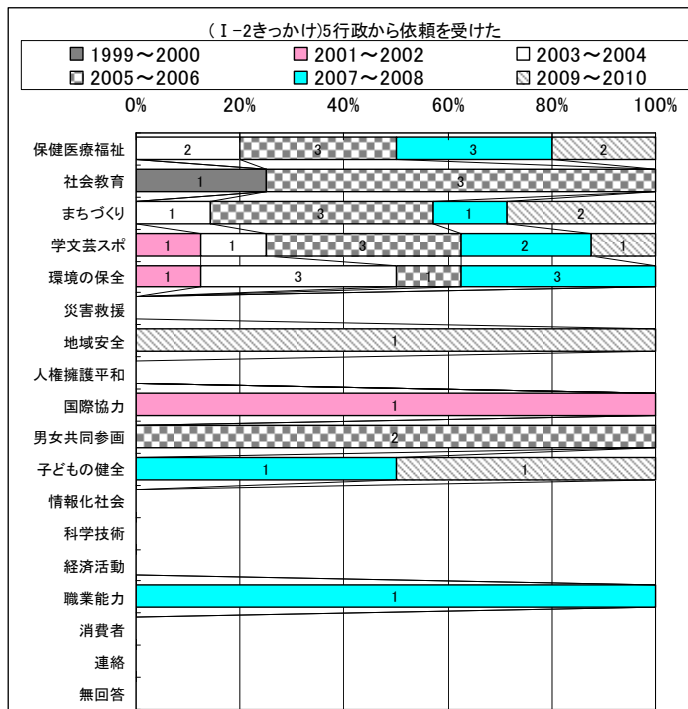


図 I-2-8 主な活動分野 と 法人認証年 と 活動を始めたきっかけ
『行政から依頼を受けた』



問 2-2. 問題・課題を具体的に記入してください。

福祉系の課題と環境系の課題が顕著であり、「障害者をサポートするサービス・施設が地域になかった」が 84 で最も多く、「自然・環境の保護に取り組みたかった」51、「高齢者をサポートするサービス・施設が地域になかった」32 などがあった。(表1-2-2)

表 I-2-2 問題・課題の具体例

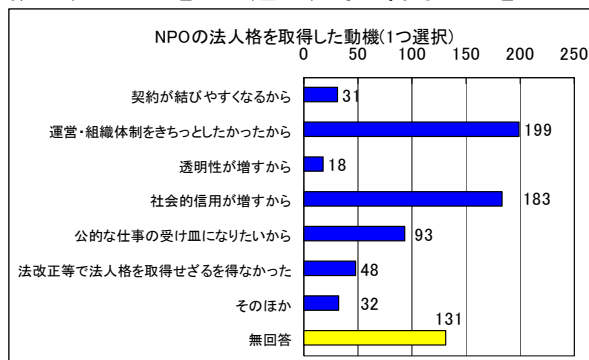
障害者をサポートするサービス・施設が地域になかった	84
自然・環境の保護に取り組みたかった	51
高齢者をサポートするサービス・施設が地域になかった	32
スポーツ振興関係	28
町の活性化・町づくり・少子高齢化対策	22
法人化そのものが目的・信用を得たい・組織改革	22
子どもの健全育成	19
国際化・外国人・外国語	14
治療・医療・病気	14
教育・相談	13
ゴミ・リサイクル	13
インターネット・パソコン・情報化	12
芸術・音楽	10
歴史・文化財・伝統継承	10
子育て支援	9
住宅	9
就職支援・引きこもり対策	8
行政の補完	8
女性支援・男女共同参画	6
場づくり	6
移動支援	5
防災・災害時支援	5
防犯・事故防止	4
ボランティア	3
食育	3
提言	3
高齢者の生きがい	2
観光	2
ペット	2
NPO支援	1
詳しいことがわからない	1
その他	38
分野など不明	13
計	472

問3. 法人格取得の理由・動機

NPOの法人格を取得した理由・動機は何ですか。該当するものを1つ選び、その番号に○をつけてください。

『運営・組織体制をきちっとしたかったから』が199(27.1%)で最も多く、次いで『社会的信用が増すから』183(24.9%)、『公的な仕事の受け皿になりたいから』93(12.7%)の順となっている。

『そのほか』32(4.4%)に記入された具体的な動機としては、「法人化を勧められた、求められた」が6、助成金などの「財源獲得」が5などであった。

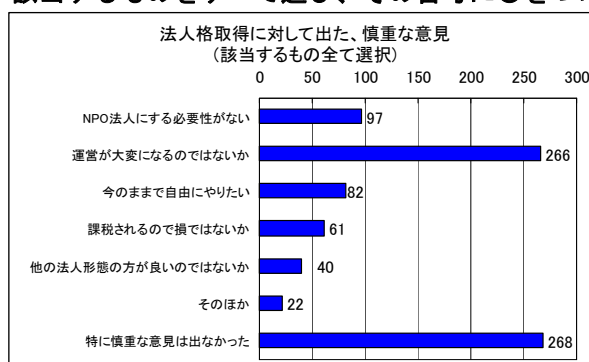


問4. 法人格取得について出た慎重な意見

法人格取得について、組織内で出た慎重な意見で、該当するものをすべて選び、その番号に○をつけてください。

法人格取得にあたって、組織内で出た慎重意見については『特に慎重な意見は出なかった』が268と最も多く、次いで『運営が大変になるのではないかな』が266、『NPO法人にする必要性がない』97、『今のままで自由にやりたい』82の順となっている。

『他の法人形態の方が良いのではないかな』40の中で、名前があがった法人としては、「社会福祉法人」9、「株式会社」5、「有限会社」4があった。(表I-4-2)



表I-4-2 法人化検討の際、組織内の意見に出たNPO以外の法人格

社会福祉法人	9
社会福祉法人の傘下へ参入	1
社会福祉法人or社団法人	1
社会福祉法人、株式会社	1
株式会社	5
有限会社	4
協同組合	2
一般社団法人	1
社団法人	1
会社	1
企業組合	1
財団法人	1
公益各種法人	1
無回答	11
計	40

問5. 法人格取得の手続きを学んだ場所

申請方法など法人格取得の手続きは、どこで学びましたか。該当するものをすべて選び、その番号に○をつけてください。

『県や市のNPOセンターで』との回答が284と最も多く、次いで『県の担当課から』176、『NPO 設立アドバイザーから』128、『インターネットの情報で』124、『市町の担当課から』115が続く。

『そのほか』としては、「行政書士から」12が最も多く、法人設立の経験者など「NPO 経験者から」6などがあった。(表 I-5)

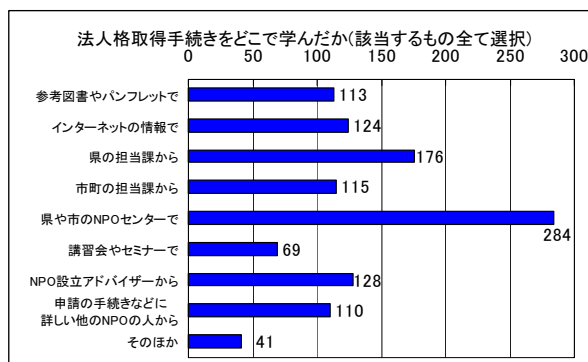


表 I-5 法人格取得手続きをどこで学んだか(そのほか)

行政書士	12
司法書士	4
NPO 経験者	6
詳しい知り合いから	6
独学	5
その他	5
無記入	3
計	41

認証年別で見ると、「2003～2004」から最も多いものが、『県の担当課から』から『県や市のNPOセンターから』へと、移っている。(表 I-5-1)

活動分野別で見ると、『県や市のNPOセンターから』の回答は各分野で多く、NPOセンターが設立時に大きな役割を果たしていることがわかる。「国際協力」では『参考図書やパンフレットで』の回答が最も多かった。(表 I-5-2)

表 I-5-1 法人認証年 と 法人格取得手続きをどこで学んだか(複数選択)

上段: 法人数, 下段: %

	参考図書 やパンフ レットで	インテ ーネッ トの情 報で	県の担 当課か ら	市町の 担当課 から	県や市の NPOセン ターで	講習会や セミナー で	NPO 設立 アドバイザ ーから	申請の手 続きなど に詳しい 他のNPO の人から	その他	合計
1999～2000	12 (14.6%)	6 (7.3%)	24 (29.3%)	3 (3.7%)	15 (18.3%)	6 (7.3%)	2 (2.4%)	8 (9.8%)	6 (7.3%)	82
2001～2002	18 (12.5%)	11 (7.6%)	35 (24.3%)	11 (7.6%)	31 (21.5%)	13 (9%)	8 (5.6%)	14 (9.7%)	3 (2.1%)	144
2003～2004	16 (7.7%)	24 (11.5%)	43 (20.6%)	14 (6.7%)	56 (26.8%)	16 (7.7%)	16 (7.7%)	20 (9.6%)	4 (1.9%)	209
2005～2006	35 (12.3%)	25 (8.8%)	41 (14.4%)	26 (9.2%)	62 (21.8%)	15 (5.3%)	44 (15.5%)	28 (9.9%)	8 (2.8%)	284
2007～2008	17 (6.3%)	35 (13.1%)	20 (7.5%)	38 (14.2%)	80 (29.9%)	9 (3.4%)	32 (11.9%)	27 (10.1%)	10 (3.7%)	268
2009～2010	15 (8.7%)	23 (13.3%)	13 (7.5%)	23 (13.3%)	40 (23.1%)	10 (5.8%)	26 (15%)	13 (7.5%)	10 (5.8%)	173
合計	113 (9.7%)	124 (10.7%)	176 (15.2%)	115 (9.9%)	284 (24.5%)	69 (5.9%)	128 (11%)	110 (9.5%)	41 (3.5%)	1160

表 I-5-2 主な活動分野 と 手続きをどこで学んだか (複数選択)

上段: 法人数, 下段: %

	参考図書 やパンフ レットで	インター ネットの 情報で	県の担当 課から	市町の担 当課から	県や市の NPOセン ターで	講習会や セミナーで	NPO設立 アドバイ ザーから	申請の手 続きなど に詳しい 他のNPO の人から	その他か	合計
保健医療福祉	35 (9.2%)	36 (9.5%)	50 (13.2%)	32 (8.4%)	99 (26.1%)	21 (5.5%)	44 (11.6%)	43 (11.3%)	20 (5.3%)	380
社会教育	6 (9%)	8 (11.9%)	13 (19.4%)	6 (9%)	14 (20.9%)	2 (3%)	9 (13.4%)	8 (11.9%)	1 (1.5%)	67
まちづくり	15 (11.6%)	13 (10.1%)	20 (15.5%)	17 (13.2%)	29 (22.5%)	10 (7.8%)	13 (10.1%)	6 (4.7%)	6 (4.7%)	129
学芸スポ	8 (6%)	13 (9.7%)	23 (17.2%)	12 (9%)	35 (26.1%)	8 (6%)	17 (12.7%)	16 (11.9%)	2 (1.5%)	134
環境の保全	20 (12.3%)	17 (10.4%)	34 (20.9%)	9 (5.5%)	36 (22.1%)	13 (8%)	16 (9.8%)	11 (6.7%)	7 (4.3%)	163
災害救援	1 (50%)	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2
地域安全	0 (0%)	0 (0%)	6 (42.9%)	2 (14.3%)	3 (21.4%)	0 (0%)	1 (7.1%)	2 (14.3%)	0 (0%)	14
人権擁護平和	2 (22.2%)	2 (22.2%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (33.3%)	0 (0%)	1 (11.1%)	1 (11.1%)	0 (0%)	9
国際協力	4 (30.8%)	1 (7.7%)	2 (15.4%)	1 (7.7%)	1 (7.7%)	2 (15.4%)	0 (0%)	2 (15.4%)	0 (0%)	13
男女共同参画	3 (15%)	2 (10%)	3 (15%)	3 (15%)	5 (25%)	3 (15%)	0 (0%)	1 (5%)	0 (0%)	20
子どもの健全育成	8 (6.5%)	13 (10.5%)	13 (10.5%)	16 (12.9%)	33 (26.6%)	7 (5.6%)	19 (15.3%)	11 (8.9%)	4 (3.2%)	124
情報化社会	1 (6.7%)	3 (20%)	2 (13.3%)	1 (6.7%)	5 (33.3%)	1 (6.7%)	2 (13.3%)	0 (0%)	0 (0%)	15
科学技術	0 (0%)	2 (20%)	0 (0%)	2 (20%)	5 (50%)	0 (0%)	1 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	10
経済活動	1 (6.7%)	3 (20%)	1 (6.7%)	5 (33.3%)	4 (26.7%)	0 (0%)	1 (6.7%)	0 (0%)	0 (0%)	15
職業能力	4 (10.8%)	6 (16.2%)	3 (8.1%)	5 (13.5%)	9 (24.3%)	1 (2.7%)	2 (5.4%)	7 (18.9%)	0 (0%)	37
消費者	1 (14.3%)	1 (14.3%)	1 (14.3%)	3 (42.9%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (14.3%)	7
連絡	4 (22.2%)	4 (22.2%)	4 (22.2%)	1 (5.6%)	2 (11.1%)	1 (5.6%)	0 (0%)	2 (11.1%)	0 (0%)	18
無回答	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (33.3%)	0 (0%)	2 (66.7%)	0 (0%)	0 (0%)	3
合計	113 (9.7%)	124 (10.7%)	176 (15.2%)	115 (9.9%)	284 (24.5%)	69 (5.9%)	128 (11%)	110 (9.5%)	41 (3.5%)	1160

問6. 法人格取得後、直面した困難な問題・課題(組織運営や財政的なもの以外)

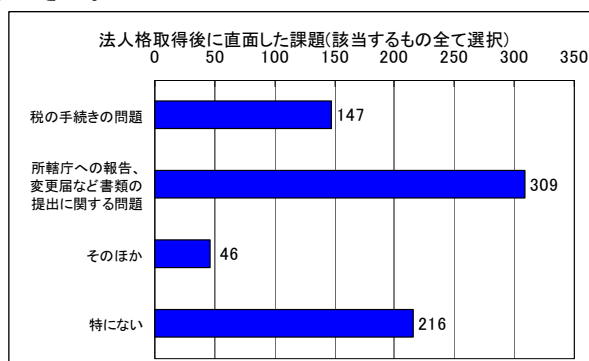
法人格を取得してから、組織運営や財政的なもの以外で直面した困難な問題・課題がありますか。該当するものをすべて選び、その番号に○をつけてください。

『所轄庁への報告、変更届など書類の提出に関する問題』が309と最も多く、次いで『特にない』216、『税の手続きの問題』147の順となった。

『そのほか』の内容では、「会計などの事務処理」の問題が13、「行政など周辺の理解」が6、またこの設問では除外されている運営面10、財政面6での問題・課題を記入したものも見られた。

認証年別でみると、『2009～2010』年で『特にない』の回答比率が高くなっている。(表I-6-1)

認証年度が早いほど、『税の手続きの問題』の割合が低く、逆に『所轄庁への報告、変更届など書類の提出に関する問題』は、認証年度が早い方が高いという傾向がある。新しい法人ほど、ITのスキルが高い傾向があるのではないかと推測される。



表I-6-1 法人認証年と法人格取得後に直面した課題 (複数選択) 上段:法人数, 下段:%

	税の手続きの問題	所轄庁への報告、変更届など書類の提出に関する問題	そのほか	特にない	合計
1999～2000	9 (15.5%)	23 (39.7%)	5 (8.6%)	21 (36.2%)	58
2001～2002	19 (18.3%)	52 (50%)	4 (3.8%)	29 (27.9%)	104
2003～2004	24 (17.9%)	61 (45.5%)	11 (8.2%)	38 (28.4%)	134
2005～2006	37 (22%)	72 (42.9%)	10 (6%)	49 (29.2%)	168
2007～2008	39 (23.9%)	71 (43.6%)	12 (7.4%)	41 (25.2%)	163
2009～2010	19 (20.9%)	30 (33%)	4 (4.4%)	38 (41.8%)	91
合計	147 (20.5%)	309 (43%)	46 (6.4%)	216 (30.1%)	718

活動分野別でみると、「国際協力」、「職業能力」、「子どもの健全育成」などで『所轄庁への報告、変更届など書類の提出に関する問題』が50%を越えている。『税の手続きの問題』は「男女共同参画」で『所轄庁への報告、変更届など書類の提出に関する問題』と同数で並んでいる。(表I-6-2、図I-6-1)

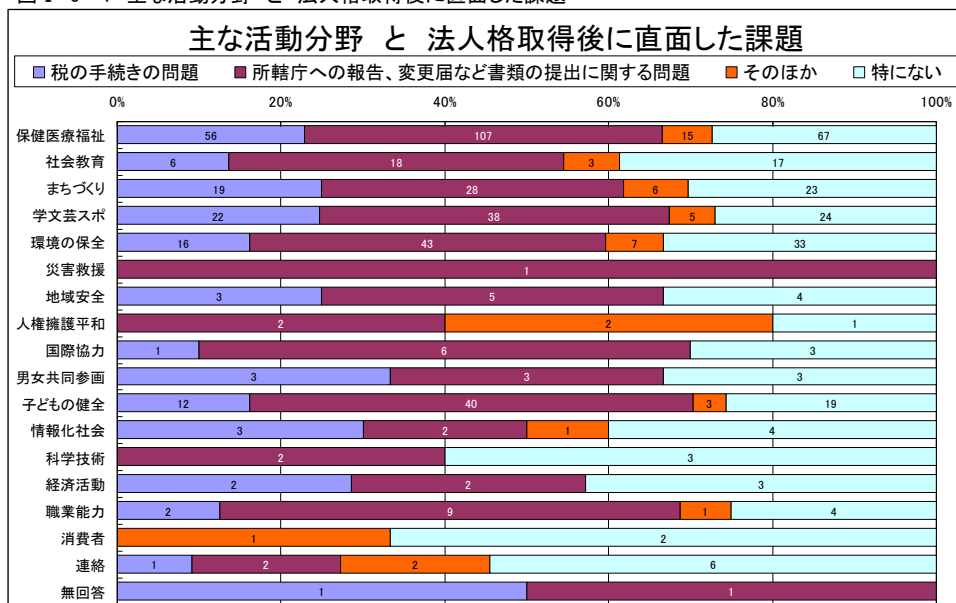
表 I-6-2 主な活動分野 と 法人格取得後に直面した課題

(複数選択)

上段:法人数, 下段:%

	税の手続きの問題	所轄庁への報告、変更届など書類の提出に関する問題	そのほか	特にない	合計
保健医療福祉	56 (22.9%)	107 (43.7%)	15 (6.1%)	67 (27.3%)	245
社会教育	6 (13.6%)	18 (40.9%)	3 (6.8%)	17 (38.6%)	44
まちづくり	19 (25%)	28 (36.8%)	6 (7.9%)	23 (30.3%)	76
学芸スポ	22 (24.7%)	38 (42.7%)	5 (5.6%)	24 (27%)	89
環境の保全	16 (16.2%)	43 (43.4%)	7 (7.1%)	33 (33.3%)	99
災害救援	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	1
地域安全	3 (25%)	5 (41.7%)	0 (0%)	4 (33.3%)	12
人権擁護平和	0 (0%)	2 (40%)	2 (40%)	1 (20%)	5
国際協力	1 (10%)	6 (60%)	0 (0%)	3 (30%)	10
男女共同参画	3 (33.3%)	3 (33.3%)	0 (0%)	3 (33.3%)	9
子どもの健全	12 (16.2%)	40 (54.1%)	3 (4.1%)	19 (25.7%)	74
情報化社会	3 (30%)	2 (20%)	1 (10%)	4 (40%)	10
科学技術	0 (0%)	2 (40%)	0 (0%)	3 (60%)	5
経済活動	2 (28.6%)	2 (28.6%)	0 (0%)	3 (42.9%)	7
職業能力	2 (12.5%)	9 (56.3%)	1 (6.3%)	4 (25%)	16
消費者	0 (0%)	0 (0%)	1 (33.3%)	2 (66.7%)	3
連絡	1 (9.1%)	2 (18.2%)	2 (18.2%)	6 (54.5%)	11
無回答	1 (50%)	1 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	2
合計	147 (20.5%)	309 (43%)	46 (6.4%)	216 (30.1%)	718

図 I-6-1 主な活動分野 と 法人格取得後に直面した課題



問7. 法人格を取得して良かったこと

あなたの団体がNPO法人格を取得して良かったことは何ですか。該当するものを3つまで選び、その番号に○をつけてください。

『組織や活動について信用を得ることができた』が392と最も多く、次いで『行政から助成金を受けることができた』129、『契約の主体となることができた』128、『活動が活発になった』121、『適正な会計処理ができるようになった』117、『民間から助成金を受けることができた』111となった。

『契約の主体となることができた』128の具体的契約内容では、「行政や企業からの事業受託」をあげたものが最も多く42件、そのうちで「指定管理者」が11件あった。

「良かったこと」を団体の対外的なもの、内部的なものに分けると、対外的が925と、内部的が381となった。

平成18年の調査では、『組織や活動について信用を得ることができた』が64.7%と最も多かったが、今回は減少したものの53.3%と、他の項目より高い。前回2番目だった『契約の主体となれた』は32.5%→17.4%と大きく減少し、『行政から助成金を受けることができた』は20.0%→17.6%へと減少している。逆に如実に増加しているのものでは、『民間から助成金を受けることができた』が、12.9%→15.1%だった。(表I-7-1)

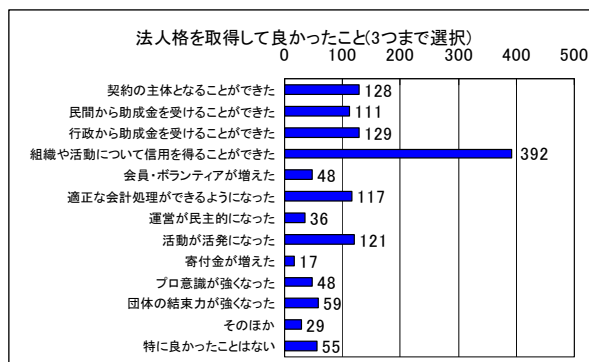


表 I-7-1 法人格を取得して良かった事

	平成 18 年		平成 22 年	
	法人数	割合	法人数	割合
組織や活動について信用を得ることができた	165	(64.7%)	392	(53.3%)
契約の主体となることができた	83	(32.5%)	128	(17.4%)
活動が活発になった	55	(21.6%)	121	(16.5%)
行政から助成金を受けることができた	51	(20.0%)	129	(17.6%)
適正な会計処理ができるようになった	39	(15.3%)	117	(15.9%)
民間から助成金を受けることができた	33	(12.9%)	111	(15.1%)
団体の結束力が強くなった	25	(9.8%)	59	(8.0%)
プロ意識が強くなった	23	(9.0%)	48	(6.5%)
特に良かったことはない	21	(8.2%)	55	(7.5%)
会員・ボランティアが増えた	19	(7.5%)	48	(6.5%)
運営が民主的になった	11	(4.3%)	36	(4.9%)
その他	9	(3.5%)	29	(3.9%)
寄付金が増えた	7	(2.7%)	17	(2.3%)
基数(法人数)	255		735	

※注 表 I-7-2 の%は回答数に占める割合のため、この表の%とは数値が異なる。

認証年別でみると、どの年代でも『組織や活動について信用を得ることができた』が最も多いのは変わらないが、『2009～2010』は25.9%と他の年代と比べて低く、『活動が活発になった』の割合が高い。(表 I-7-2)

表 I-7-2 法人認証年と法人格取得をして良かった事(3つ選択)

上段: 法人数, 下段: %

	契約の主体となることができた	民間から助成金を受けることができた	行政から助成金を受けることができた	組織や活動について信用を得ることができた	会員・ボランティアが増えた	適正な会計処理ができるようになった	運営が民主的になった	活動が活発になった	寄付金が増えた	プロ意識が強くなった	団体の結束力が強くなった	その他	特に良かったことはない	合計
1999～2000	12 (11.4%)	10 (9.5%)	9 (8.6%)	35 (33.3%)	3 (2.9%)	8 (7.6%)	3 (2.9%)	6 (5.7%)	2 (1.9%)	5 (4.8%)	3 (2.9%)	6 (5.7%)	3 (2.9%)	105
2001～2002	24 (11.9%)	22 (10.9%)	19 (9.4%)	62 (30.7%)	8 (4%)	20 (9.9%)	6 (3%)	15 (7.4%)	1 (0.5%)	10 (5%)	9 (4.5%)	3 (1.5%)	3 (1.5%)	202
2003～2004	26 (10.7%)	23 (9.5%)	29 (11.9%)	73 (30%)	7 (2.9%)	17 (7%)	4 (1.6%)	25 (10.3%)	1 (0.4%)	9 (3.7%)	11 (4.5%)	7 (2.9%)	11 (4.5%)	243
2005～2006	29 (9.5%)	25 (8.2%)	29 (9.5%)	96 (31.4%)	10 (3.3%)	35 (11.4%)	7 (2.3%)	20 (6.5%)	5 (1.6%)	11 (3.6%)	17 (5.6%)	6 (2%)	16 (5.2%)	306
2007～2008	26 (9.1%)	24 (8.4%)	30 (10.5%)	88 (30.7%)	11 (3.8%)	26 (9.1%)	11 (3.8%)	33 (11.5%)	3 (1%)	8 (2.8%)	12 (4.2%)	3 (1%)	12 (4.2%)	287
2009～2010	11 (7.5%)	7 (4.8%)	13 (8.8%)	38 (25.9%)	9 (6.1%)	11 (7.5%)	5 (3.4%)	22 (15%)	5 (3.4%)	5 (3.4%)	7 (4.8%)	4 (2.7%)	10 (6.8%)	147
合計	128 (9.9%)	111 (8.6%)	129 (10%)	392 (30.4%)	48 (3.7%)	117 (9.1%)	36 (2.8%)	121 (9.4%)	17 (1.3%)	48 (3.7%)	59 (4.6%)	29 (2.2%)	55 (4.3%)	1290

問 8. 法人格を取得して良くなかったこと

あなたの団体がNPO法人格を取得して良くなかったことは何ですか。該当するものを1つ選び、その番号に○をつけてください。

『事務処理が煩雑になった』が231(31.4%)で最も多く、次いで『特に良くなかったことはない』が173(23.5%)、『総会など運営手続きが面倒だ』82(11.2%)となっている。

『その他』22(3.0%)の内容では、「アンケートが増えた」をあげたものが3件あった。

平成18年の調査と比較すると、大きな変化はみえないが、最も多い、『事務処理が煩雑になった』は34.9%→31.4%に減少、次に多い『特に良くなかったことはない』は18.8%→23.5%へと増えた。3番目の『総会など運営手続きが面倒だ』も8.6%→11.2%に増えた。

このほか、減少したものでは『納税が負担となっている』7.5%→3.5%、増加したものでは、『期待したほどメリットがなかった』3.9%→6.8%が目だった変化である。(表 I-8-1)

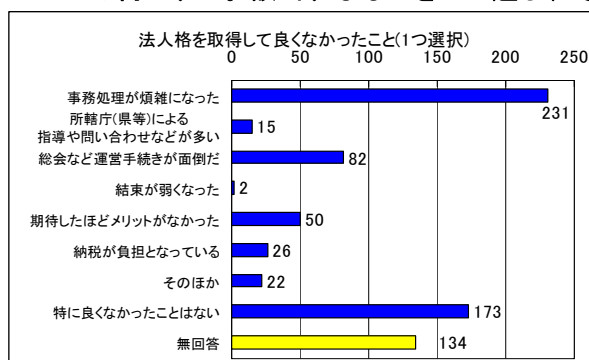


表 I-8-1 法人格を取得して良くなかった事

	平成 18 年		平成 22 年	
	法人数	割合	法人数	割合
事務処理が煩雑になった	89	(34.9%)	231	(31.4%)
所轄庁(県等)による指導や問い合わせなどが多い	11	(4.3%)	15	(2.0%)
総会など運営手続きが面倒だ	22	(8.6%)	82	(11.2%)
結束が弱くなった	0	(0.0%)	2	(0.3%)
期待したほどメリットがなかった	10	(3.9%)	50	(6.8%)
納税が負担となっている	19	(7.5%)	26	(3.5%)
そのほか	6	(2.4%)	22	(3.0%)
特に良くなかったことはない	48	(18.8%)	173	(23.5%)
無回答・無効回答	50	(19.6%)	134	(18.2%)
基数	255		735	

問 9. 法人化後の会員の意識・活動の変化

法人化以前と比べて、法人化後に活動のありかたや会員の意識などに変化はありましたか。該当するものをすべて選び、その番号に○をつけてください。

『組織運営を真剣に考えるようになった』が 276 で最も多く、次いで『ネットワークが広がった』204、『組織運営が煩雑になった』115 となっている。

『そのほか』75 の内容としては、「法人化=活動開始のため変化無し」25 とするものや「特になし」29 というものが多かった。

活動分野別でみると、「男女共同参画」では『組織運営を真剣に考えるようになった』が 40.0%と高い比率となった。

『一般の参加者・利用者が増えた』は「連絡」で14.3%、「職業能力」12.5%、「環境の保全」11.0%で比率が高かった。

『ネットワークが広がった』は、「科学技術」50.0%、「消費者」50.0%で比率が高かった。

『資金確保のための活動が増えた』は、「人権擁護平和」33.3%、「環境の保全」22.3%、「国際協力」20.0%で高くなっている。(表 I-9、図 I-9-1、図 I-9-2、図 I-9-3)

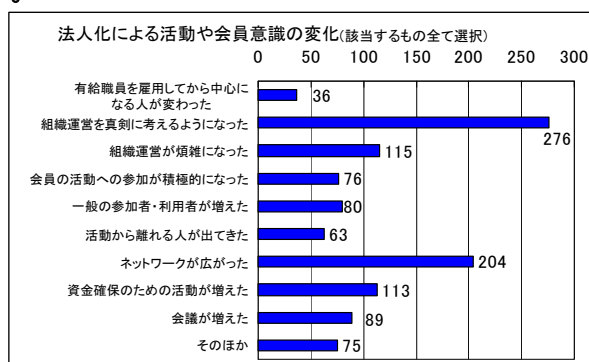


表 I-9 主な活動分野 と 法人化後の変化

上段: 法人数, 下段: %

	有給職員を雇用してから中心になる人が変わった	組織運営を真剣に考えるようになった	組織運営が煩雑になった	会員の活動への参加が積極的になった	一般の参加者・利用者が増えた	活動から離れる人が出てきた	ネットワークが広がった	資金確保のための活動が増えた	会議が増えた	その他	合計
保健医療福祉	18 (5.1%)	92 (26.1%)	35 (9.9%)	15 (4.2%)	22 (6.2%)	19 (5.4%)	51 (14.4%)	39 (11%)	35 (9.9%)	27 (7.6%)	353
社会教育	2 (3.2%)	12 (19%)	9 (14.3%)	5 (7.9%)	1 (1.6%)	5 (7.9%)	12 (19%)	7 (11.1%)	6 (9.5%)	4 (6.3%)	63
まちづくり	6 (4.6%)	24 (18.3%)	11 (8.4%)	10 (7.6%)	11 (8.4%)	10 (7.6%)	26 (19.8%)	14 (10.7%)	5 (3.8%)	14 (10.7%)	131
学文芸スポ	6 (4.4%)	39 (28.7%)	14 (10.3%)	15 (11%)	6 (4.4%)	5 (3.7%)	22 (16.2%)	11 (8.1%)	11 (8.1%)	7 (5.1%)	136
環境の保全	2 (1.1%)	45 (24.7%)	17 (9.3%)	15 (8.2%)	20 (11%)	10 (5.5%)	31 (17%)	23 (12.6%)	13 (7.1%)	6 (3.3%)	182
災害救援	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2
地域安全	0 (0%)	3 (15%)	7 (35%)	1 (5%)	1 (5%)	2 (10%)	1 (5%)	1 (5%)	2 (10%)	2 (10%)	20
人権擁護平和	0 (0%)	2 (18.2%)	1 (9.1%)	1 (9.1%)	1 (9.1%)	0 (0%)	3 (27.3%)	2 (18.2%)	0 (0%)	1 (9.1%)	11
国際協力	0 (0%)	3 (18.8%)	4 (25%)	0 (0%)	1 (6.3%)	0 (0%)	4 (25%)	2 (12.5%)	1 (6.3%)	1 (6.3%)	16
男女共同参画	0 (0%)	6 (40%)	2 (13.3%)	1 (6.7%)	0 (0%)	2 (13.3%)	1 (6.7%)	1 (6.7%)	2 (13.3%)	0 (0%)	15
子どもの健全育成	0 (0%)	32 (25.2%)	8 (6.3%)	8 (6.3%)	11 (8.7%)	8 (6.3%)	31 (24.4%)	12 (9.4%)	10 (7.9%)	7 (5.5%)	127
情報化社会	1 (7.7%)	3 (23.1%)	1 (7.7%)	1 (7.7%)	1 (7.7%)	0 (0%)	4 (30.8%)	0 (0%)	2 (15.4%)	0 (0%)	13
科学技術	0 (0%)	2 (33.3%)	1 (16.7%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	6
経済活動	1 (12.5%)	2 (25%)	1 (12.5%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (37.5%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (12.5%)	8
職業能力	0 (0%)	7 (29.2%)	4 (16.7%)	2 (8.3%)	3 (12.5%)	1 (4.2%)	3 (12.5%)	1 (4.2%)	2 (8.3%)	1 (4.2%)	24
消費者	0 (0%)	1 (25%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (25%)	4
連絡	0 (0%)	2 (14.3%)	0 (0%)	1 (7.1%)	2 (14.3%)	1 (7.1%)	6 (42.9%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (14.3%)	14
無回答	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (50%)	2
合計	36 (3.2%)	276 (24.5%)	115 (10.2%)	76 (6.7%)	80 (7.1%)	63 (5.6%)	204 (18.1%)	113 (10%)	89 (7.9%)	75 (6.7%)	1127

図 I-9-1 主な活動分野 と 法人化後『一般の参加者・利用者が増えた』

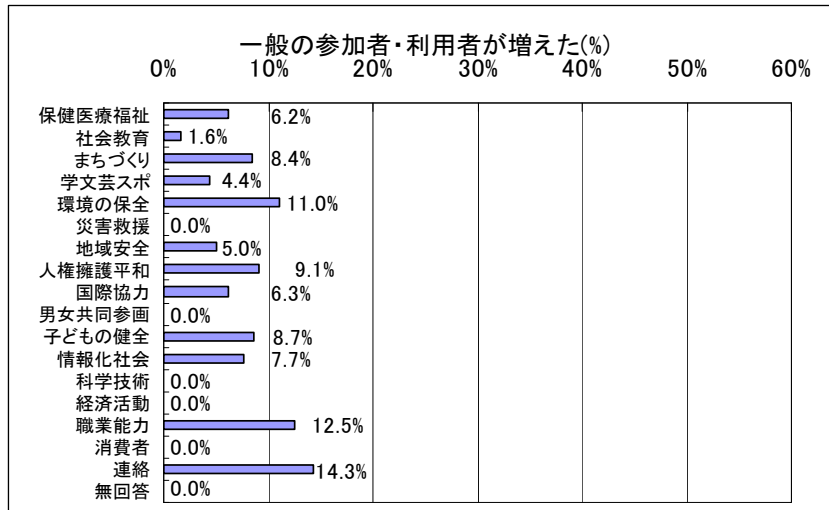


図 I-9-2 主な活動分野 と 法人化後『ネットワークが広がった』

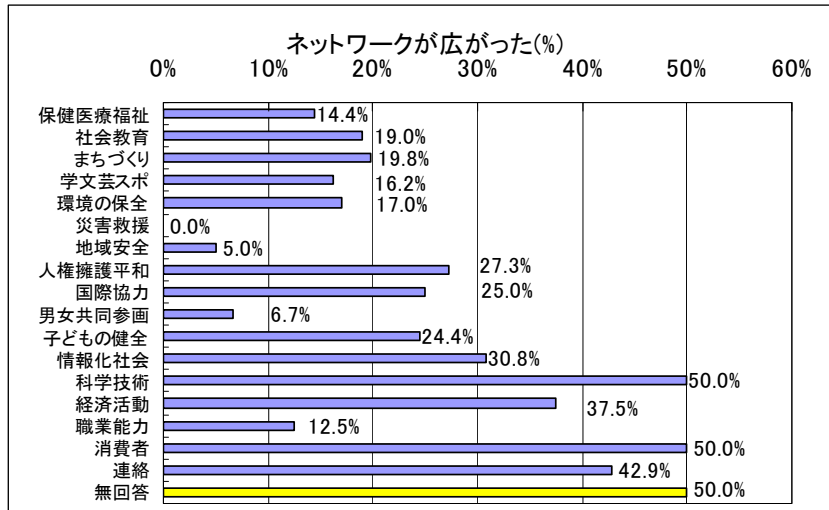
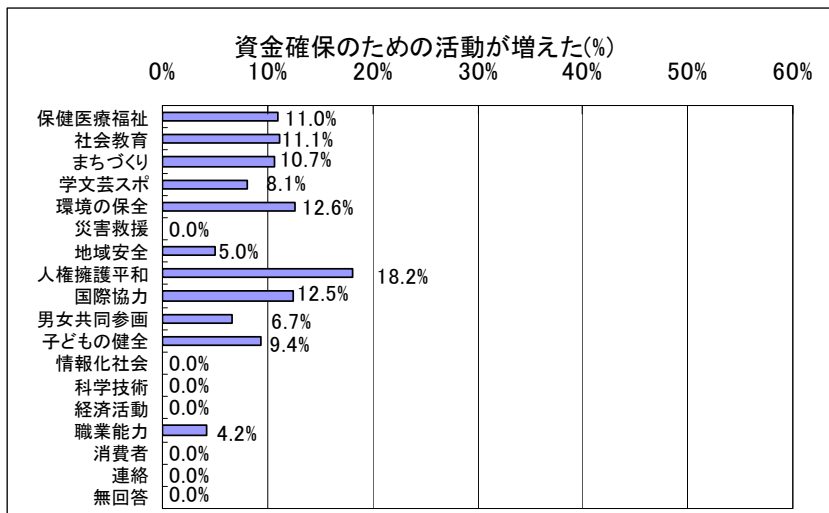


図 I-9-3 主な活動分野と法人化後『資金確保のための活動が増えた』

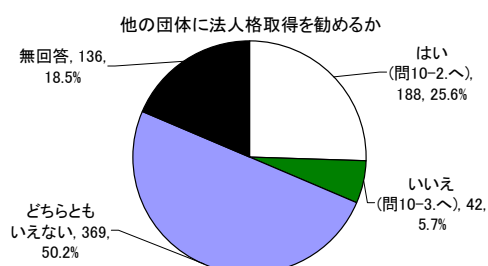


問 10. 法人格取得を勧めるか

他の団体から相談を受けた場合、法人格取得を勧めますか。該当するものを1つ選び、その番号に○をつけてください。

『はい』が 188 (25.6%)、『どちらともいえない』が 369 (50.2%)、『いいえ』は 42 (5.7%)となった。

全体で見れば、法人化を「勧める」傾向が強い結果となったといえるだろう。



問 10-2. 法人格取得を勧める理由

「はい」の理由は何ですか。最も近いものを1つ選び、その番号に○をつけてください。

『運営・組織体制がきちっとするから』70 (37.2%) が最も多く、次いで『信用が増すから』63 (33.5%) となり、この2つが多かった。

『信用が増すから』と回答した 63 のうち、I の問7の【法人格を取得して良かったこと】で、『組織や活動についての信用を得ることができた』と回答したものは 79.4% あった。(図 I-10-2-1)

またこの設問で、『運営・組織体制がきちっとするから』と回答した 70 の中で、I の問7で『適正な会計処理ができるようになった』、『団体の結束力が強くなった』、『プロ意識が強くなった』と回答したのは、図 I-10-2-2 の通りで、強い相関関係は認められなかった。

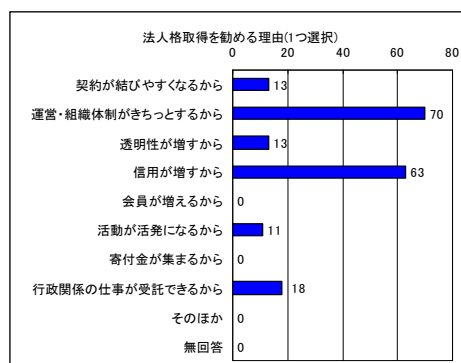


図 I-10-2-1

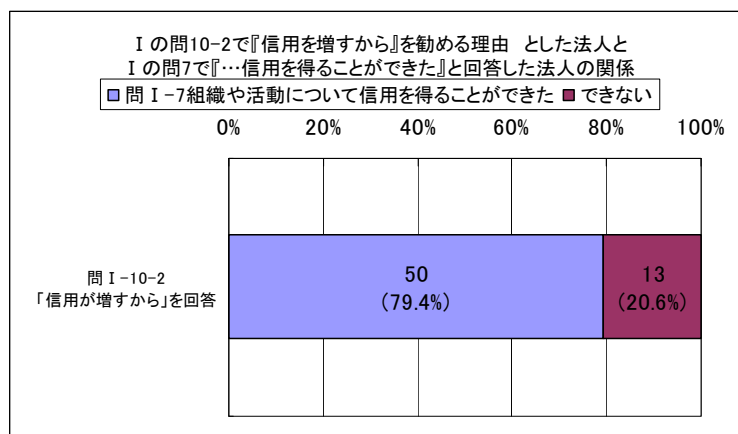
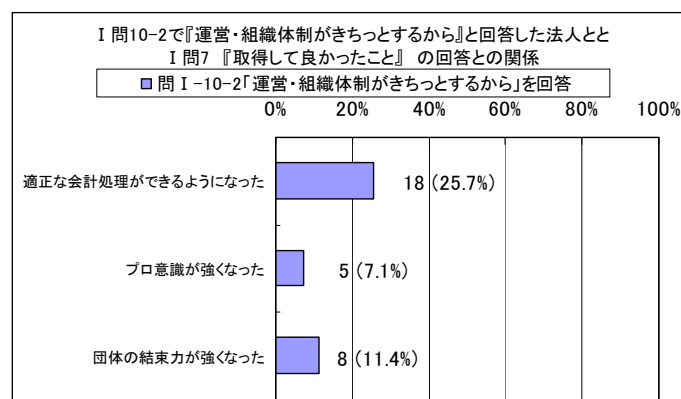


図 I-10-2-2



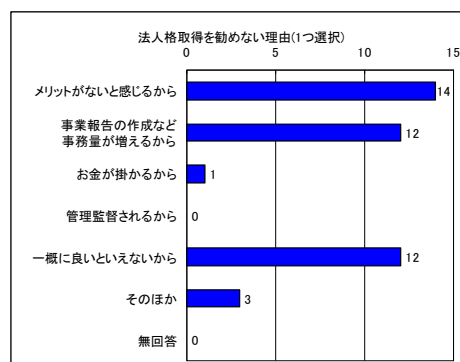
問10-3. 法人格取得を勧めない理由

「いいえ」の理由は何ですか。最も近いものを1つ選び、その番号に○をつけてください。

『メリットがないと感じるから』14(33.3%)が最も多く、次いで『事業報告の作成など事務量が増えるから』12(28.6%)、『一概に良いといえないから』12(28.6%)となった。

『そのほか』の内容には、「会社運営と同じだから」、「動ける人がいない」、「必要かどうか、メリット、デメリットを良く考えて」などがあつた。

『事業報告の作成など事務量が増えるから』が2位の多さだが、I問8の【法人格を取得して良くなかったこと】の回答でも『事務処理が煩雑になった』が多かつた。

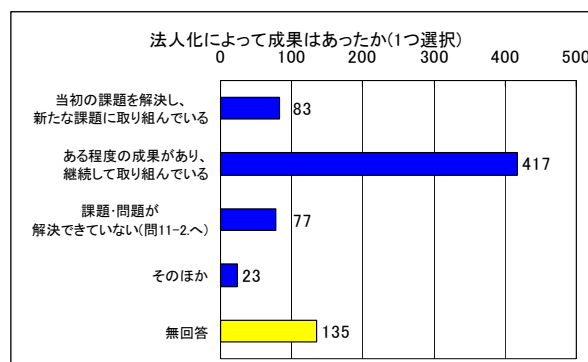


問11. 法人化による当初の目的に対する成果

法人化して活動したことで、当初の目的に対する成果はありましたか。該当するものを1つ選び、その番号に○をつけてください。

『ある程度の成果があり、継続して取り組んでいる』が最も多く417(56.7%)、次いで『当初の課題を解決し、新たな課題に取り組んでいる』83(11.3%)となった。一方、『課題・問題が解決できていない』も77(10.5%)あつた。

『そのほか』23(3.1%)の内容としては、「法人化して間がないので、その成果がまだ見えない」とするものが4件あつた。



活動分野別でみると、『当初の課題を解決し、新たな課題に取り組んでいる』と『ある程度の成果があり、継続して取り組んでいる』を合わせて、100%となっている「男女共同参画」、「情報化社会」をはじめ、多くの分野で成果を上げている法人が80%以上となっている。「地域安全」、「科学技術」、「職業能力」、「連絡」、「社会教育」では80%に達せず、「地域安全」では50.0%となっている。(表 I-11-1, 図 I-11-1)

認証年別でみると、歴史の古い法人ほど、全体としては成果が上がっている傾向がある。(図 I-11-2)

表 I-11-1 主な活動分野と成果の有無

上段：法人数，下段：%

	当初の課題を 解決し、新たな 課題に取り組ん でいる	ある程度の成果 があり、継続して 取り組んでいる	課題・問題が解 決できていない	その他	無回答	合計
保健医療福祉	42 (17.7%)	128 (54%)	19 (8%)	7 (3%)	41 (17.3%)	237
社会教育	2 (4.3%)	26 (55.3%)	8 (17%)	3 (6.4%)	8 (17%)	47
まちづくり	8 (9.9%)	45 (55.6%)	8 (9.9%)	1 (1.2%)	19 (23.5%)	81
学芸文スポ	8 (9%)	53 (59.6%)	8 (9%)	1 (1.1%)	19 (21.3%)	89
環境の保全	5 (4.9%)	65 (63.1%)	13 (12.6%)	4 (3.9%)	16 (15.5%)	103
災害救援	0 (0%)	1 (33.3%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (66.7%)	3
地域安全	1 (8.3%)	5 (41.7%)	5 (41.7%)	0 (0%)	1 (8.3%)	12
人権擁護平和	0 (0%)	4 (66.7%)	0 (0%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	6
国際協力	1 (10%)	7 (70%)	1 (10%)	0 (0%)	1 (10%)	10
男女共同参画	3 (42.9%)	4 (57.1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	7
子どもの健全育成	11 (13.8%)	44 (55%)	7 (8.8%)	3 (3.8%)	15 (18.8%)	80
情報化社会	1 (12.5%)	7 (87.5%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	8
科学技術	0 (0%)	3 (60%)	2 (40%)	0 (0%)	0 (0%)	5
経済活動	0 (0%)	6 (66.7%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (33.3%)	9
職業能力	1 (6.3%)	9 (56.3%)	4 (25%)	0 (0%)	2 (12.5%)	16
消費者	0 (0%)	2 (33.3%)	0 (0%)	1 (16.7%)	3 (50%)	6
連絡	0 (0%)	7 (50%)	2 (14.3%)	1 (7.1%)	4 (28.6%)	14
無回答	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	2
合計	83 (11.3%)	417 (56.7%)	77 (10.5%)	23 (3.1%)	135 (18.4%)	735

図 I-11-1 主な活動分野と成果の有無

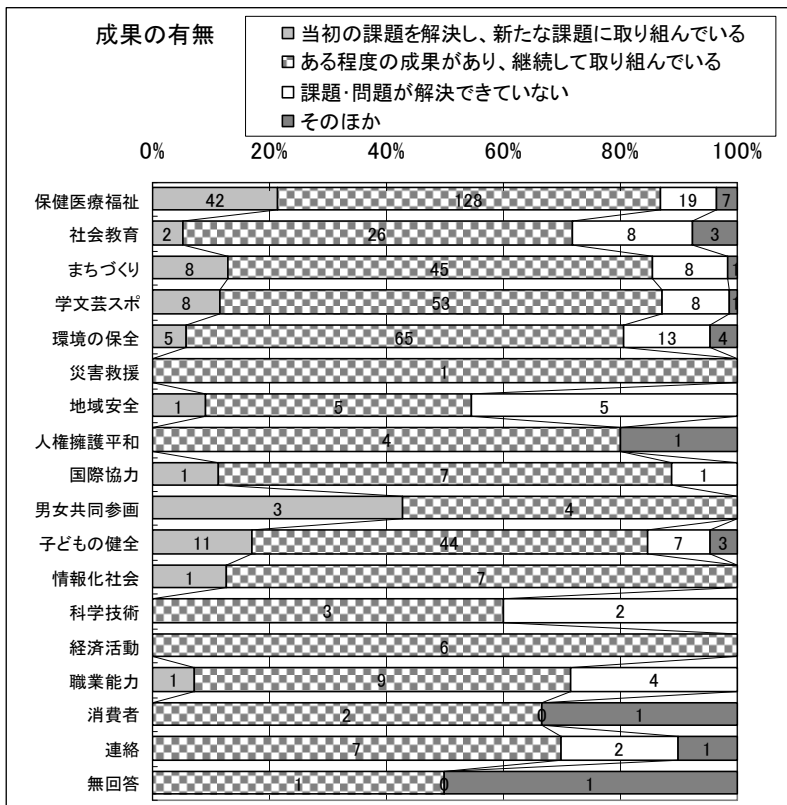
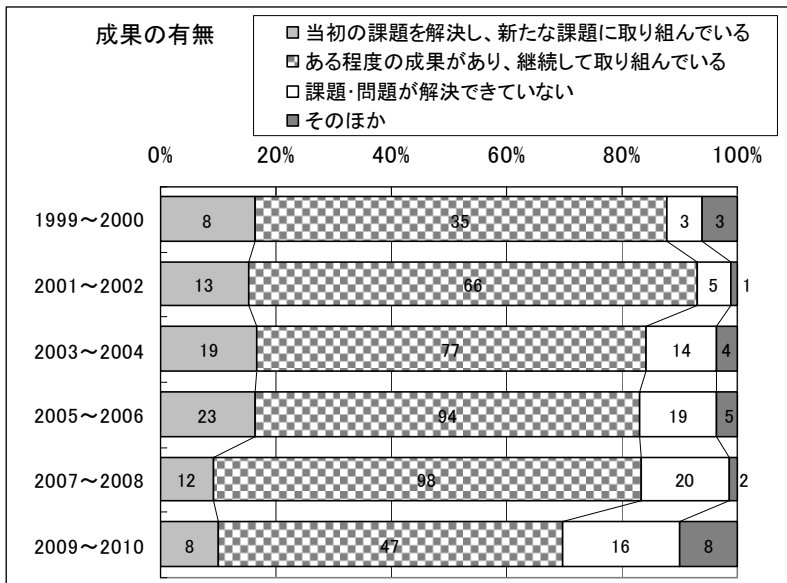


図 I-11-2 法人認証日 と 成果の有無



問11-2. 解決できない原因

解決できない原因は何ですか。該当するものを1つ選び、その番号に○をつけてください。

前問で『課題・問題が解決できていない』と答えた77法人のうち、その原因として『資金不足』をあげるものが31(40.3%)と最も多く、『人材不足』23(29.9%)、『そのほか』11(14.3%)、『制度の問題』7(9.1%)となった。

『そのほか』としては、「行政の理解・協力の不足」が3あった。

活動分野別でみると、『資金不足』と『人材不足』がともに多いのは「保健医療福祉」、「環境の

保全」の2つ。「保健医療福祉」は『制度の問題』も大きい。「まちづくり」、「子どもの健全育成」では『資金不足』に、「社会教育」では『人材不足』に片寄った回答結果となっている。(表 I-11-2)

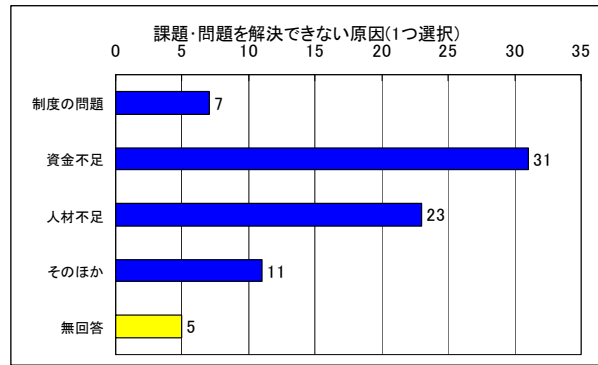


表 I-11-2 主な活動分野 と 問題解決できない原因

上段:法人数, 下段:%

	制度の問題	資金不足	人材不足	そのほか	無回答	合計
保健医療福祉	4 (21.1%)	5 (26.3%)	6 (31.6%)	2 (10.5%)	2 (10.5%)	19
社会教育	1 (12.5%)	2 (25%)	5 (62.5%)	0 (0%)	0 (0%)	8
まちづくり	0 (0%)	5 (62.5%)	1 (12.5%)	2 (25%)	0 (0%)	8
学芸スポ	2 (25%)	4 (50%)	2 (25%)	0 (0%)	0 (0%)	8
環境の保全	0 (0%)	4 (30.8%)	5 (38.5%)	3 (23.1%)	1 (7.7%)	13
災害救援	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0
地域安全	0 (0%)	3 (60%)	2 (40%)	0 (0%)	0 (0%)	5
人権擁護平和	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0
国際協力	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1
男女共同参画	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0
子どもの健全育成	0 (0%)	4 (57.1%)	2 (28.6%)	0 (0%)	1 (14.3%)	7
情報化社会	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0
科学技術	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	2
経済活動	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0
職業能力	0 (0%)	2 (50%)	0 (0%)	1 (25%)	1 (25%)	4
消費者	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0
連絡	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (100%)	0 (0%)	2
無回答	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0
合計	7 (9.1%)	31 (40.3%)	23 (29.9%)	11 (14.3%)	5 (6.5%)	77

II. 組織運営

ここでは、事務所、運営の人員体制、会議、人材、コミュニケーションなど、静岡県内のNPO法人が実際にどのように運営されているかを調査した。前章で法人化自体について肯定的な回答が多かったが、Ⅱ問17の結果を見ると、『特に困ったことはない』法人は11%に過ぎず、人材面や資金面での多様な問題・課題を抱えている法人も多い。

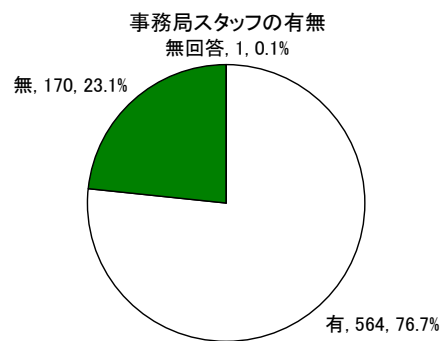
問1. 団体の運営や活動を担当する事務局スタッフの有無 現在、あなたの団体の運営や活動を担当する事務局スタッフはどのようになっていますか。

事務局スタッフが『いる』法人は 564(76.7%)、
『いない』法人は 170(23.1%)となった。

活動分野別でみると、17分野のうち、「人権・平和」、「災害救援」、「消費者」、「科学技術」の法人で、事務局スタッフがいる割合は5割以下となった。これら4分野では「人権・平和」が6、「災害救援」、「消費者」、「科学技術」が5と、いずれも静岡県内の法人数も少ない。

平成 18 年の調査では、事務局スタッフのいる団体は 63.3%(任意団体も含む)だった。

活動分野別でみると、「連絡」、「学文芸スポ」、「保健医療福祉」、「子どもの健全育成」、「国際協力」で 80%以上の法人に事務局スタッフがいる。「科学技術」では 20.0%と有の比率が低く、「災害救援」は0%だった。
(表Ⅱ-1、図Ⅱ-1)

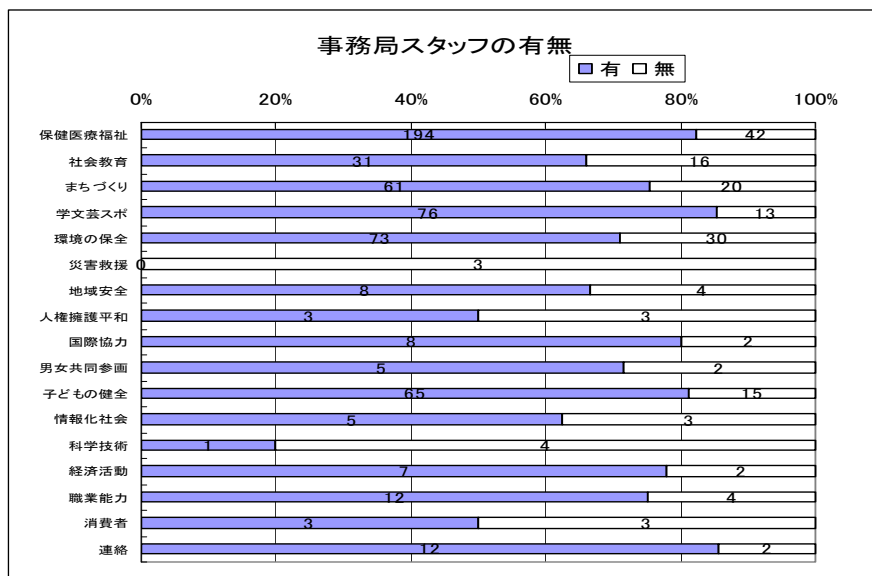


表Ⅱ-1 主な活動分野 と 事務局スタッフの有無

上段:法人数, 下段:%

	有	無	無回答	合計
保健医療福祉	194 (81.9%)	42 (17.7%)	1 (0.4%)	237
社会教育	31 (66%)	16 (34%)	0 (0%)	47
まちづくり	61 (75.3%)	20 (24.7%)	0 (0%)	81
学文芸スポ	76 (85.4%)	13 (14.6%)	0 (0%)	89
環境の保全	73 (70.9%)	30 (29.1%)	0 (0%)	103
災害救援	0 (0%)	3 (100%)	0 (0%)	3
地域安全	8 (66.7%)	4 (33.3%)	0 (0%)	12
人権擁護平和	3 (50%)	3 (50%)	0 (0%)	6
国際協力	8 (80%)	2 (20%)	0 (0%)	10
男女共同参画	5 (71.4%)	2 (28.6%)	0 (0%)	7
子どもの健全育成	65 (81.3%)	15 (18.8%)	0 (0%)	80
情報化社会	5 (62.5%)	3 (37.5%)	0 (0%)	8
科学技術	1 (20%)	4 (80%)	0 (0%)	5
経済活動	7 (77.8%)	2 (22.2%)	0 (0%)	9
職業能力	12 (75%)	4 (25%)	0 (0%)	16
消費者	3 (50%)	3 (50%)	0 (0%)	6
連絡	12 (85.7%)	2 (14.3%)	0 (0%)	14
無回答	0 (0%)	2 (100%)	0 (0%)	2
合計	564 (76.7%)	170 (23.1%)	1 (0.1%)	735

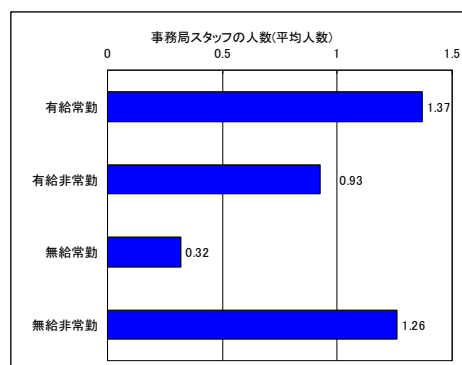
図Ⅱ-1 主な活動分野 と 事務局スタッフの有無



◆事務局スタッフの人数

平均すると、『有給常勤』1.37、『無給非常勤』1.26、『有給非常勤』0.93、『無給常勤』0.32 となった。事務局スタッフがいる全法人の平均では、約 3.9 人であった。

活動分野別にみると、『有給常勤』が平均で最も多いのが「男女共同参画」で 4.80 人、次いで「消費者」3.00 人、「連絡」3.45 人となった。『有給非常勤』では、最も多いのが「消費者」で 20.50 人、次いで「人権擁護平和」2.00 人、「連絡」1.82 人となった。『無給常勤』では、最も多いのが「人権擁護平和」1.00 人、次いで「環境の保全」0.72 人、「子どもの健全育成」0.51 人となった。『無給非常勤』では、最も多いのが、「人権擁護平和」3.00 人、次いで「地域安全」2.67 人、「子どもの健全育成」1.83 人となった。(表Ⅱ-1-1)



※分母は事務局スタッフが有と回答した法人数
※今回の調査での常勤とは、『週5日程度勤務する事務局スタッフ』

表Ⅱ-1-1 主な活動分野 と 事務局スタッフの平均人数

人

	有給常勤	有給非常勤	無給常勤	無給非常勤	平均の合計
保健医療福祉	1.79	1.25	0.16	0.93	4.13
社会教育	0.35	0.32	0.30	1.62	2.59
まちづくり	0.89	0.84	0.34	1.69	3.76
学芸スポ	1.36	0.73	0.22	1.07	3.37
環境の保全	1.54	0.61	0.72	1.62	4.49
災害救援	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
地域安全	0.78	0.00	0.11	2.67	3.56
人権擁護平和	0.67	2.00	1.00	3.00	6.67
国際協力	1.50	1.17	0.17	0.67	3.50
男女共同参画	4.80	0.60	0.00	0.20	5.60
子どもの健全育成	0.66	0.60	0.51	1.83	3.60
情報化社会	0.29	0.00	0.00	0.57	0.86
科学技術	0.00	0.00	0.00	1.00	1.00
経済活動	1.17	0.00	0.67	0.17	2.00
職業能力	1.00	0.42	0.25	0.83	2.50
消費者	3.00	20.50	0.50	1.00	25.00
連絡	3.45	1.82	0.55	0.36	6.18
合計	1.37	0.93	0.32	1.26	3.88

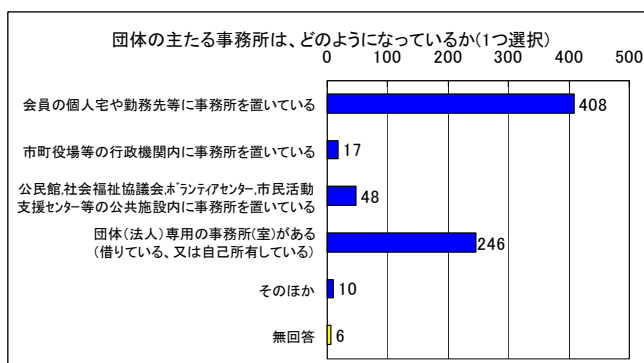
問2. 主たる事務所の場所。

現在、あなたの団体の主たる事務所は、どのようになっていますか。該当するものを1つ選び、その番号に○をつけてください。

『会員の個人宅や勤務先等に事務所を置いている』が 408(55.5%)と最も多く、次いで『団体(法人)専用の事務所(室)がある』が 246(33.5%)となっている。

『そのほか』10(1.4%)としては、他団体の事務所の中にデスクを置いているため、選択肢の中に該当がないものがあげられている。

平成18年の調査結果と比べると、事務所のある場所の傾向には、大きな変化はなかった。(表Ⅱ-2)



表Ⅱ-2 「主たる事務所のある場所」平成18年調査との比較

	平成18年		平成22年	
	団体数	割合	法人数	割合
会員の個人宅や勤務先等に事務所を置いている	196	(56.6%)	408	(55.5%)
市町役場等の行政機関内に事務所を置いている	6	(1.7%)	17	(2.3%)
公民館、社会福祉協議会、ボランティアセンター、市民活動支援センター等の公共施設内に事務所を置いている	18	(5.2%)	48	(6.5%)
団体(法人)専用の事務所(室)がある(借りている、又は自己所有している)	107	(30.9%)	246	(33.5%)
そのほか	12	(3.5%)	10	(1.4%)
無回答	7	(2.0%)	6	(0.8%)
基数	346		735	

問3. 会員（社員）の人数

あなたの団体の現在の会員（社員）の人数について、該当するものを1つ選び、その番号に○をつけてください。

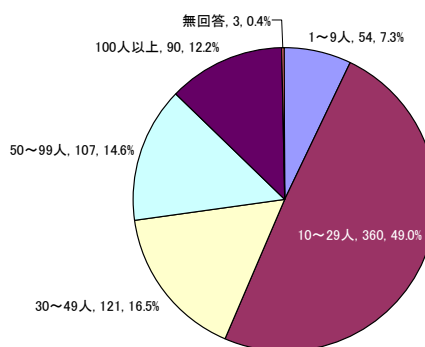
『10～29人』が360(49.0%)と最も多く、法人認証の条件である10人を下回る『1～9人』の法人も54(7.3%)あった。

また、100人以上の会員を持つ法人には、「総会での議決権」のない会員(サービスの提供を受ける権利を持つという意味での会員)も含んでいるのでは、と推測されるものもあった。

平成18年の調査では『1～9人』が6.6%だったが今回は7.3%と増加し、また『50～99人』と『100人以上』をあわせると34.1%だったが、今回は26.8%にとどまっている。

NPO法人に特化した今回の調査では、会員数は、全体に縮小化している。(表II-2-1)

法人の会員(社員)の人数(1つ選択)



表II-2-1 「法人(団体)の社員の人数」平成18年調査との比較

	平成18年		平成22年	
	団体数	割合	法人数	割合
1～9人	23	(6.6%)	54	(7.3%)
10～29人	156	(45.1%)	360	(49.0%)
30～49人	45	(13.0%)	121	(16.5%)
50～99人	61	(17.6%)	107	(14.6%)
100人以上	57	(16.5%)	90	(12.2%)
無回答	4	(1.2%)	3	(0.4%)
計	346		735	

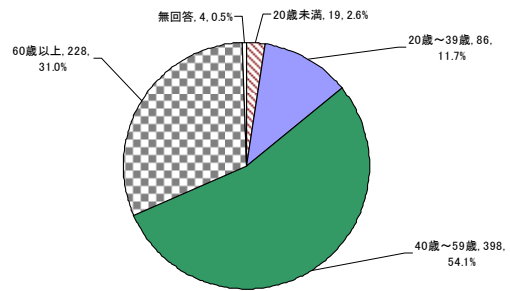
問4. 会員（社員）の最も多い年齢層

あなたの団体の会員（社員）の最も多い年齢層について、該当するものを1つ選び、その番号に○をつけてください。

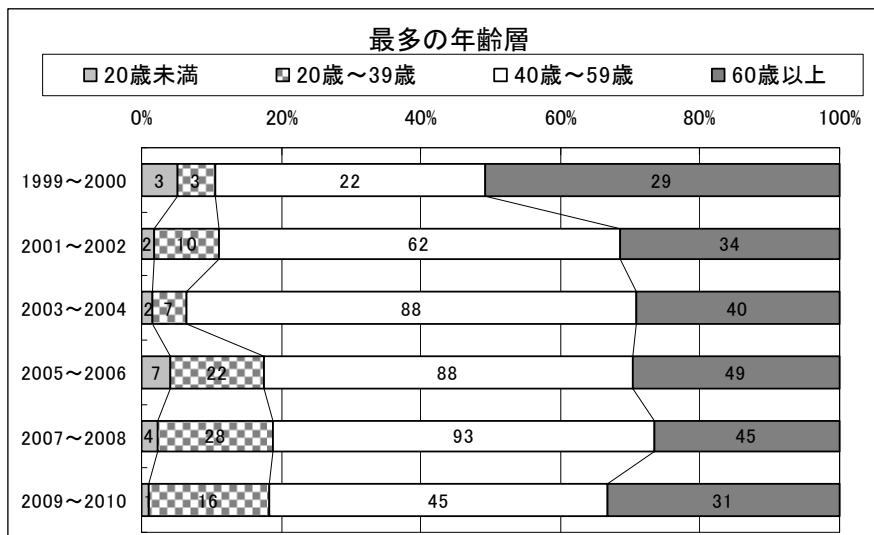
『40歳～59歳』を中心とする法人が398(54.1%)と最も多く、次いで『60歳以上』が228(31.0%)、『20歳～39歳』が86(11.7%)となった。

平成18年の調査では、『40歳～59歳』を中心とする団体が54.6%と今回とほぼ同じ割合だったが、『20歳～39歳』が8.7→11.7%、『60歳以上』が29.2→31.0%、『20歳未満』が0.3→2.6%と伸びている。

認証年で最多年齢層をみると、認証年の早い『1999～2000』で『60歳以上』の法人の比率は高い。しかしより新しい『2009～2010』で、『60歳以上』が他年代より低いわけでもなく、『20歳～39歳』と『40歳～59歳』が高いということもない。(図II-4)



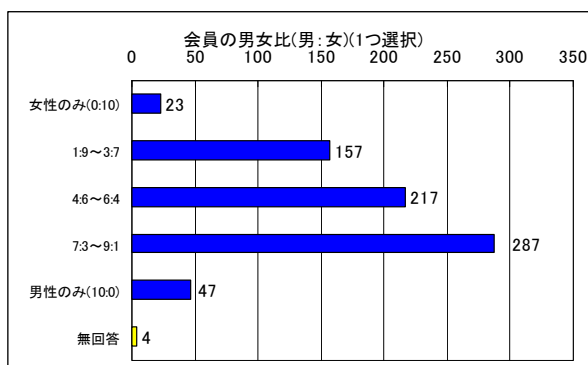
図II-4 法人認証年 と 最多の年齢層



問5. 会員（社員）の男女比

あなたの団体の会員（社員）の男女比について、記入例のように大まかな整数比でお答えください。

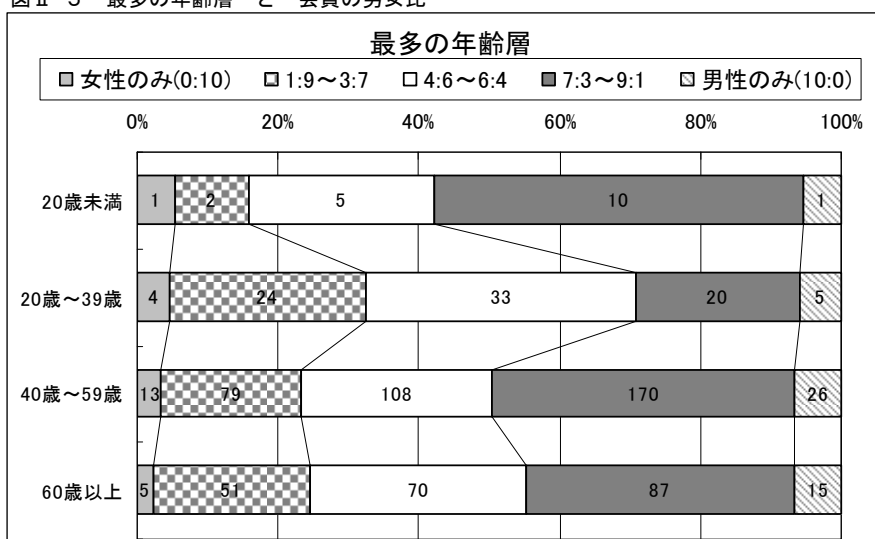
会員の男女比については、『7:3~9:1』が 287 (39.0%)と最も多かった。次いで『4:6~6:4』217 (29.5%)、『1:9~3:7』157 (21.4%)となった。会員が『男性のみ』47 (6.4%)、『女性のみ』23 (3.1%)の法人もあった。



平成 18 年の調査では、『女性比率の高い』団体が半数近くを占める結果が出た。今回の調査では『男性比率の高い』団体の方が多い結果となっている。

前問の「会員の最も多い年齢層」と合わせてみると、『20歳未満』で男性比率が高く、『20歳~39歳』で女性比率が高い傾向にある。また『20歳~39歳』の法人のグループでは、『4:6~6:4』を頂点に双方向に減少するのに対し、他の年齢層ではいずれも『7:3~9:1』に頂点がある。(図II-5)

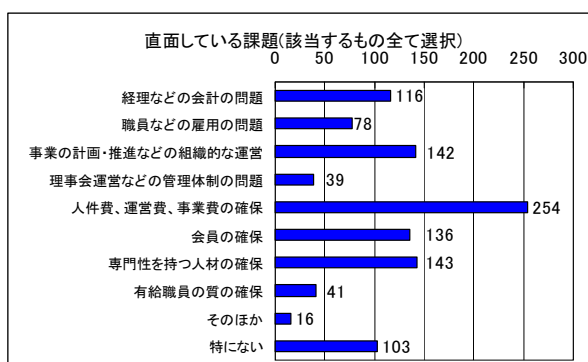
図II-5 最多の年齢層 と 会員の男女比



問6. 直面する困難な問題・課題

現在、直面している困難な問題・課題がありますか。該当するものをすべて選び、その番号に○をつけてください。

『人件費・運営費、事業費の確保』の財政的な課題をあげた回答が 254 (34.6%)と最も多かった。次いで『専門性を持つ人材の確保』143 (19.5%)、『事業の計画・推進などの組織的な運営』142 (19.3%)、『会員の確保』136 (18.5%)、『経理などの会計の問題』116 (15.8%)となった。『そのほか』16 (2.2%)としては、「活動の場、時間、資金、後継者など」の「不足」をあげるものが 15 あった。



I 問11の『課題・問題が解決できていない』法人で、『資金不足』と『人材不足』をその原因としてあげた回答が多かったが、同様の傾向がうかがえる。

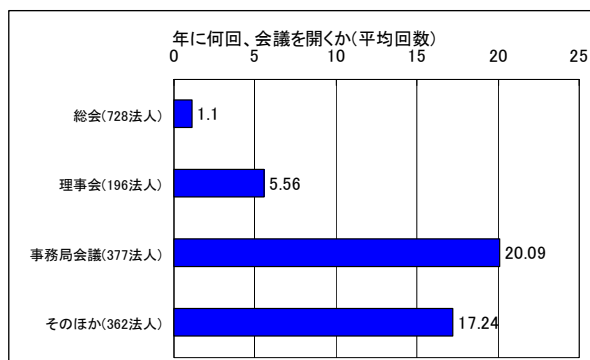
■活動場所・会議回数

問7. 会議の種類と頻度

あなたの団体ではどんな種類の会議をどのくらい開催していますか。

ほぼ全法人で年1回は『総会』が開かれている(年平均1.1回)。また377(51.3%)の法人で『事務局会議』が頻繁に(年平均20.09回)開催されている。『理事会』を開催している法人は196(26.7%)となった。

『そのほか』の会議としては、「定例会」、「月例会」などを、月1回程度、開催している法人が多い。



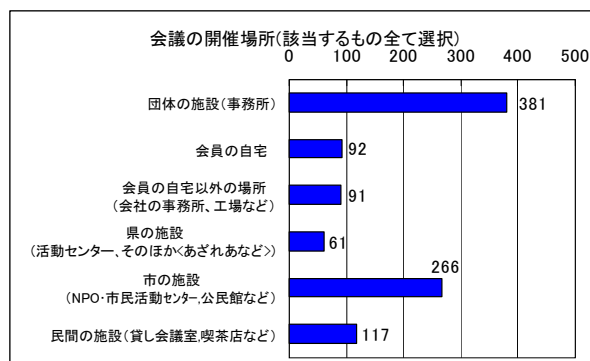
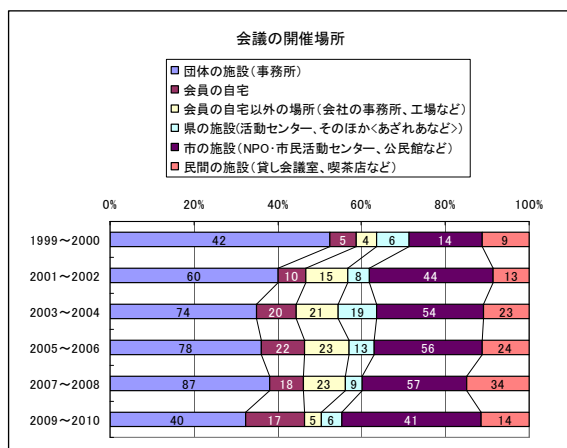
問8. 会議の開催場所

会議の開催場所はどこですか。該当するものをすべて選び、その番号に○をつけてください。

会議の開催場所としては、『団体の施設』が381と最も多く、次いで『市の施設』266、『民間の施設』117の順で多かった。

認証年別でみると、「1999～2000」では『団体の施設』52.5%が他に比べて高くなっている。(図II-8、表II-8)

図II-8 認証年と会議の開催場所



表II-8 法人認証年と会議の開催場所

(複数回答)

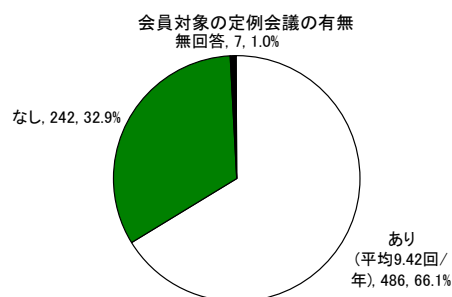
上段: 法人数, 下段: %

認証年	団体の施設(事務所)	会員の自宅	会員の自宅以外の場所(会社の事務所、工場など)	県の施設(活動センター、そのほかあざれあなど)	市の施設(NPO・市民活動センター、公民館など)	民間の施設(貸し会議室、喫茶店など)	合計
1999～2000	42 (52.5%)	5 (6.3%)	4 (5%)	6 (7.5%)	14 (17.5%)	9 (11.3%)	80
2001～2002	60 (40%)	10 (6.7%)	15 (10%)	8 (5.3%)	44 (29.3%)	13 (8.7%)	150
2003～2004	74 (35.1%)	20 (9.5%)	21 (10%)	19 (9%)	54 (25.6%)	23 (10.9%)	211
2005～2006	78 (36.1%)	22 (10.2%)	23 (10.6%)	13 (6%)	56 (25.9%)	24 (11.1%)	216
2007～2008	87 (38.2%)	18 (7.9%)	23 (10.1%)	9 (3.9%)	57 (25%)	34 (14.9%)	228
2009～2010	40 (32.5%)	17 (13.8%)	5 (4.1%)	6 (4.9%)	41 (33.3%)	14 (11.4%)	123
合計	381 (37.8%)	92 (9.1%)	91 (9%)	61 (6.1%)	266 (26.4%)	117 (11.6%)	1008

問 9. 会員対象の定例会議と頻度

会員を対象とした定例会議（運営会議・学習会・交流会など）はありますか。

『ある』法人は 486(66.1%)、開催回数は平均年 9.42 回
 となった。『ない』法人も 242(32.9%)あった。

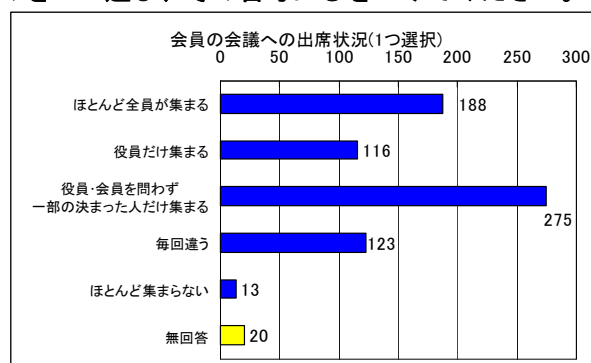


問 10. 会議への出席状況

会員の会議への出席状況はどうか。最も近いものを1つ選び、その番号に○をつけてください。

『役員・会員を問わず一部の決まった人だけ集まる』との回答が 275(37.4%)と最も多く、次いで『ほとんど全員が集まる』188(25.6%)、『毎回違う』123(16.7%)、『役員だけ集まる』116(15.8%)の順となっている。

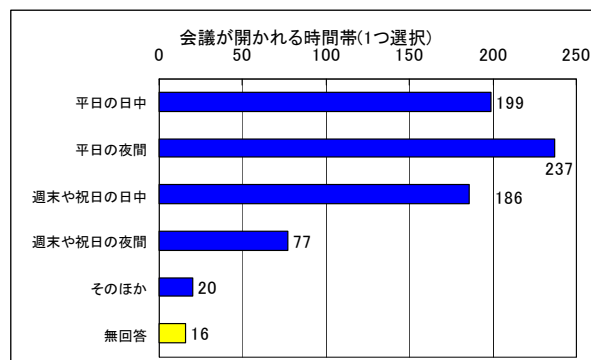
『ほとんど集まらない』は 13(1.8%)あった。



問 11. 会議の時間帯

会議が開かれるのはいつですか。最も多い時間帯を1つ選び、その番号に○をつけてください。

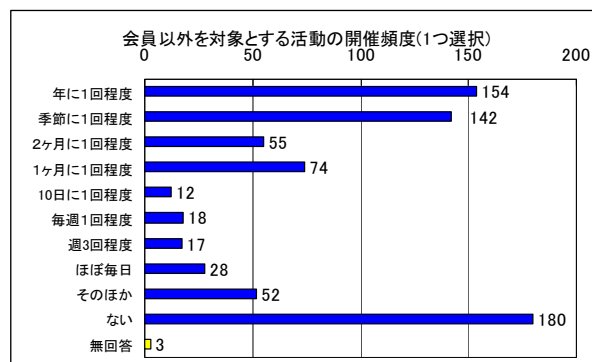
『平日の夜間』237(32.2%)が最も多く、次いで『平日の日中』199(27.1%)、『週末や祝日の日中』186(25.3%)、『週末や祝日の夜間』77(10.5%)となった。『そのほか』20(2.7%)としては、「日が決まっているもの」が3つあった。



問 12. 会員以外を対象とした活動の頻度

あなたの団体が主催（協力などではない）する会員以外を対象とした活動がありますか。最も近いものを1つ選び、その番号に○をつけてください。

『年に1回程度』154(21.0%)が最も多く、次いで『季節に1回程度』142(19.3%)、『1ヶ月に1回程度』74(10.1%)となった。また、「会員以外を対象とした活動」が『ない』法人も 180(24.5%)あった。

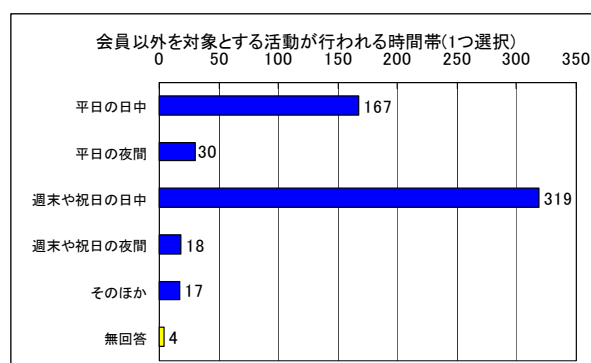


問 13. 会員以外が対象の活動の最も多い時間帯

あなたの団体の会員以外を対象とした活動が行われる時間帯で最も多いのはいつですか。該当するものを1つ選び、その番号に○をつけてください。

『週末や祝日の日中』319(57.5%)が最も多く、次いで『平日の日中』167(30.1%)とそれに続く。『平日の夜間』30(5.4%)、『週末や祝日の夜間』18(3.2%)となった。

『そのほか』17(3.1%)としては、「昼夜にまたがるもの」、「日にちが決まっているもの」、「最も多い時間帯が絞れないもの」などがあがっている。

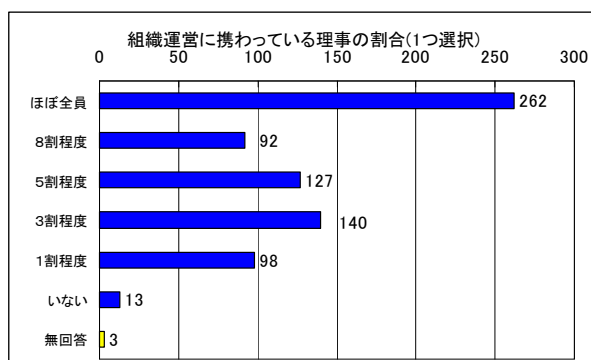


■組織

問 14. 組織運営に携わっている理事の割合

理事の中で実際に組織運営に携わっている人は、どのくらいいますか。該当するものを1つ選び、その番号に○をつけてください。

『ほぼ全員』が運営に携わっているとの回答が 262(35.6%)と最も多く、次いで『3割程度』140(19.0%)、『5割程度』127(17.3%)、『1割程度』98(13.3%)、『8割程度』92(12.5%)となった。

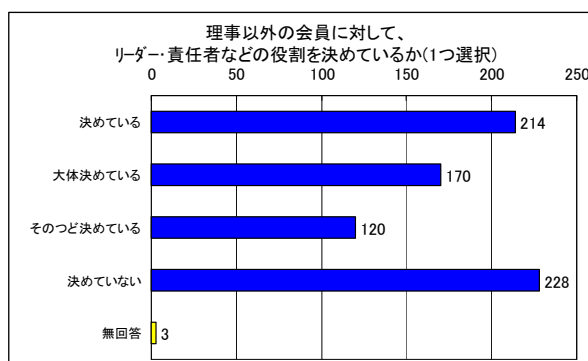


問 15. 理事以外の会員の役割

理事以外で、業務のリーダーや責任者などの役割(例えば事業担当、広報担当、経理担当など)を決めていますか。該当するものを1つ選び、その番号に○をつけてください。

『決めていない』と理事レベルでの責任体制で運営している法人が 228(31.0%)と最も多く、次いで『決めている』214(29.1%)、『大体決めている』170(23.1%)、『そのつど決めている』120(16.3%)となっている。

活動分野別でみると、「情報化社会」、「連絡」がともに『決めている』が 50%と最も高く、次いで「保健医療福祉」で 32.9%、「学文芸スポ」31.5%、「子どもの健全」31.3%となっている。「情報化社会」、「災害救援」、「連絡」は、『決めている』と『大体決めている』をあわせて 60%を超えている。(表Ⅱ-15、図Ⅱ-15)

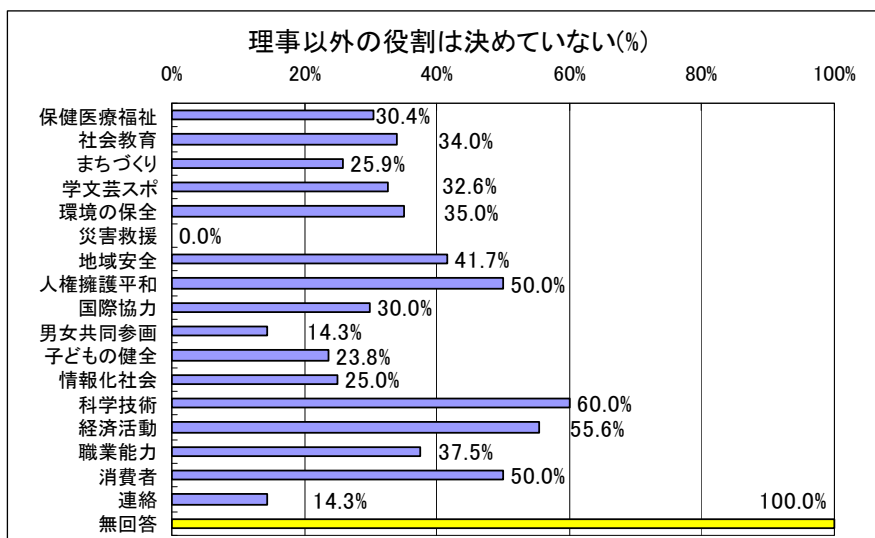


表Ⅱ-15 主な活動分野 と 理事以外の役割

上段:法人数, 下段: %

	決めている	大体決めている	そのつど決めている	決めていない	無回答	合計
保健医療福祉	78 (32.9%)	57 (24.1%)	29 (12.2%)	72 (30.4%)	1 (0.4%)	237
社会教育	11 (23.4%)	9 (19.1%)	11 (23.4%)	16 (34%)	0 (0%)	47
まちづくり	21 (25.9%)	23 (28.4%)	16 (19.8%)	21 (25.9%)	0 (0%)	81
学文芸スポ	28 (31.5%)	18 (20.2%)	13 (14.6%)	29 (32.6%)	1 (1.1%)	89
環境の保全	31 (30.1%)	20 (19.4%)	16 (15.5%)	36 (35%)	0 (0%)	103
災害救援	0 (0%)	2 (66.7%)	1 (33.3%)	0 (0%)	0 (0%)	3
地域安全	2 (16.7%)	3 (25%)	2 (16.7%)	5 (41.7%)	0 (0%)	12
人権擁護平和	0 (0%)	2 (33.3%)	1 (16.7%)	3 (50%)	0 (0%)	6
国際協力	2 (20%)	1 (10%)	4 (40%)	3 (30%)	0 (0%)	10
男女共同参画	0 (0%)	2 (28.6%)	4 (57.1%)	1 (14.3%)	0 (0%)	7
子どもの健全	25 (31.3%)	21 (26.3%)	15 (18.8%)	19 (23.8%)	0 (0%)	80
情報化社会	4 (50%)	2 (25%)	0 (0%)	2 (25%)	0 (0%)	8
科学技術	1 (20%)	0 (0%)	1 (20%)	3 (60%)	0 (0%)	5
経済活動	0 (0%)	3 (33.3%)	1 (11.1%)	5 (55.6%)	0 (0%)	9
職業能力	3 (18.8%)	4 (25%)	2 (12.5%)	6 (37.5%)	1 (6.3%)	16
消費者	1 (16.7%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	3 (50%)	0 (0%)	6
連絡	7 (50%)	2 (14.3%)	3 (21.4%)	2 (14.3%)	0 (0%)	14
無回答	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (100%)	0 (0%)	2
合計	214 (29.1%)	170 (23.1%)	120 (16.3%)	228 (31%)	3 (0.4%)	735

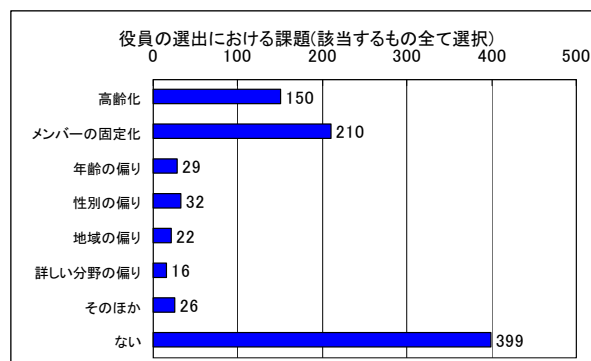
図Ⅱ-15 主な活動分野 と 理事以外の役割



問 16. 役員の選出での問題・課題

理事などの役員の選出で問題・課題はありますか。該当するものをすべて選び、その番号に○をつけてください。

問題が「ある」とした回答の中では、『メンバーの固定化』210、『高齢化』150が多かった。『そのほか』では、「人材の問題」が14あった。一方で、『ない』との回答は399あった。



同じ選択項目で実施した平成18年の調査と比較すると、『活動資金が不足している』が41.9%→34.8%に、『会員の高齢化や世代・男女の片寄りがある』が19.4%→12.7%に減少している。一方、『活動の中心となるリーダーや後継者が育たない』は18.5%→26.3%に、『専任スタッフが足りない』は13.9%→17.3%に増加している。(表Ⅱ-17-1)

表Ⅱ-17-1 「特に困っていること」平成18年調査結果との比較

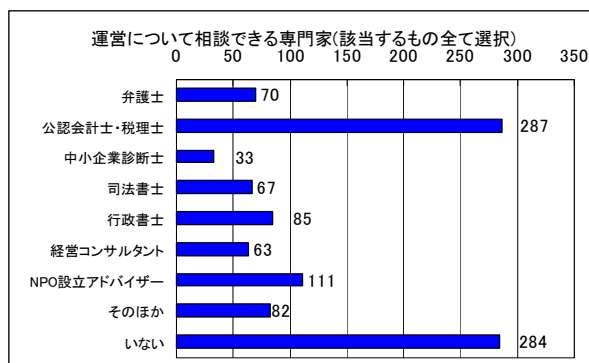
	平成18年		平成22年	
	団体数	割合	法人数	割合
特定の個人に責任や作業が集中する	134	(38.7%)	285	(38.8%)
活動の中心となるリーダーや後継者が育たない	64	(18.5%)	193	(26.3%)
会員の高齢化や世代・男女の片寄りがある	67	(19.4%)	93	(12.7%)
会員が忙しく、活動等の時間がとれない	54	(15.6%)	136	(18.5%)
新しい会員がなかなか入ってこない	57	(16.5%)	136	(18.5%)
会員がすぐやめていく	1	(0.3%)	4	(0.5%)
活動に参加したい人の情報が得にくい	26	(7.5%)	45	(6.1%)
他の団体の情報が得にくい	3	(0.9%)	14	(1.9%)
活動を必要とする人や施設の情報が得にくい	16	(4.6%)	24	(3.3%)
行政や民間の活動支援制度の情報が得にくい	20	(5.8%)	34	(4.6%)
県民(市民)のNPO活動への理解がない	13	(3.8%)	25	(3.4%)
専任スタッフが足りない	48	(13.9%)	127	(17.3%)
活動資金が不足している	145	(41.9%)	256	(34.8%)
活動に必要な機材等が不足している	19	(5.5%)	27	(3.7%)
会合や活動場所の確保が難しい	23	(6.6%)	31	(4.2%)
自分たちの活動を広める方法がない	17	(4.9%)	31	(4.2%)
活動に必要な専門的知識が不足している	21	(6.1%)	36	(4.9%)
外部に適当な活動・運営等の相談機関がない	8	(2.3%)	27	(3.7%)
外部からの問合せを受ける決まった窓口がない	3	(0.9%)	7	(1.0%)
法律、条例、制度、規制等がわかりにくい	20	(5.8%)	65	(8.8%)
そのほか	22	(6.4%)	22	(3.0%)
特に困ったことはない	25	(7.2%)	82	(11.2%)
基数	346		735	

問 18. 運営について相談できる専門家

運営について相談できる特定の専門家がありますか。該当するものをすべて選び、その番号に○をつけてください。

『公認会計士・税理士』が最も多く 287、次いで『NPO 設立アドバイザー（NPOセンター職員など※）』が 111、『行政書士』85、『弁護士』70 の順となった。一方 284(38.7%) の法人は、相談できる専門家が『いない』と回答した。

『そのほか』の専門家としては、「社会保険労務士」をあげたものが 23 と特に多かった。

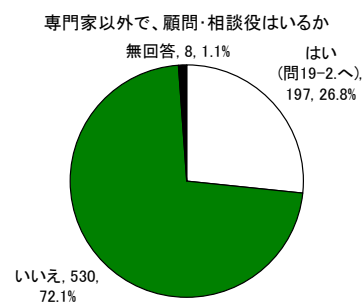


(※静岡県のNPO設立アドバイザー制度は、平成 21 年度を以って終了し、現在は県市町の各NPOセンター職員などがNPOをサポートしている。)

問 19. 活動について相談できる人

NPO活動について、相談(助言)などができる人(専門家以外の人で顧問・相談役など)がいますか。

『いる』が 197(26.8%)、『いない』が 530(72.1%)となった。



問 19-2. 相談できる人の知識や経験

その方はどういう(知識や経験など)方ですか。

相談できる人としては、「他のNPO関係者」37、「県市町の職員・元職員や窓口」28、「大学教授など学識経験者」27、「議員や政治家」25、「県市町のNPOセンターの職員や窓口」24、また「医師、会計士、弁護士など」14 などがあがっている。(表 II-19-2)

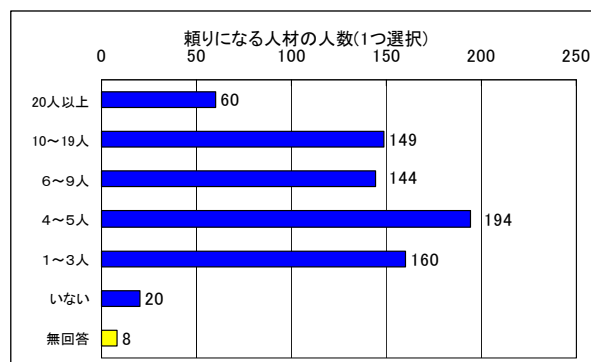
表 II-19-2 NPO活動について相談できる専門家以外の人

他のNPO関係者	34
県市町の職員や窓口	28
大学教授など学識経験者	27
議員や政治家	25
県市町のNPOセンターの職員や窓口	24
医師、会計士、弁護士など	14
団体内部	11
企業関係者	10
福祉関係者	9
カウンセラー、コンサルタント	6
金融機関関係者	4
地域の人	3
町づくり関係者	2
技術者	2
芸術家	2
その他の個人	13
その他の団体	7
その他	4

問 20. 活動展開上で頼りになる人材の人数

活動を進めるうえで、頼りになる人材は、組織内に何人くらいいますか。該当するものを1つ選び、その番号に○をつけてください。

『4～5人』が最も多く194(26.4%)、次いで『1～3人』160(21.8%)、『10～19人』149(20.3%)、『6～9人』144(19.6%)となった。『20人以上』が60(8.2%)ある反面、『いない』との回答も20(2.7%)あった。

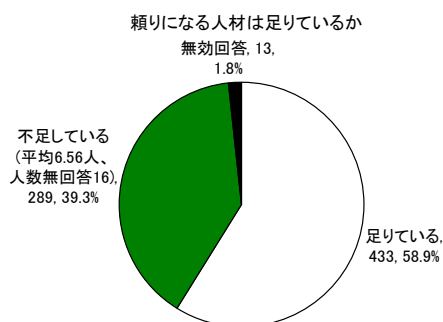


問 21. 活動の人数の充足状況

活動には問 20. の人数で足りていますか。不足している場合はその人数もお答えください。

『足りている』が433(58.9%)、『不足している』が289(39.3%)となった。不足の人数は平均6.56人であった。

※ 289 法人中 1000 人不足との回答が1法人、100人が4法人、80人が1法人、50人が2法人あった。現在行っている活動に対しての設問であることを考えると、この人数はいささか非現実的だと思えるので無効回答にこの8法人を含めた。



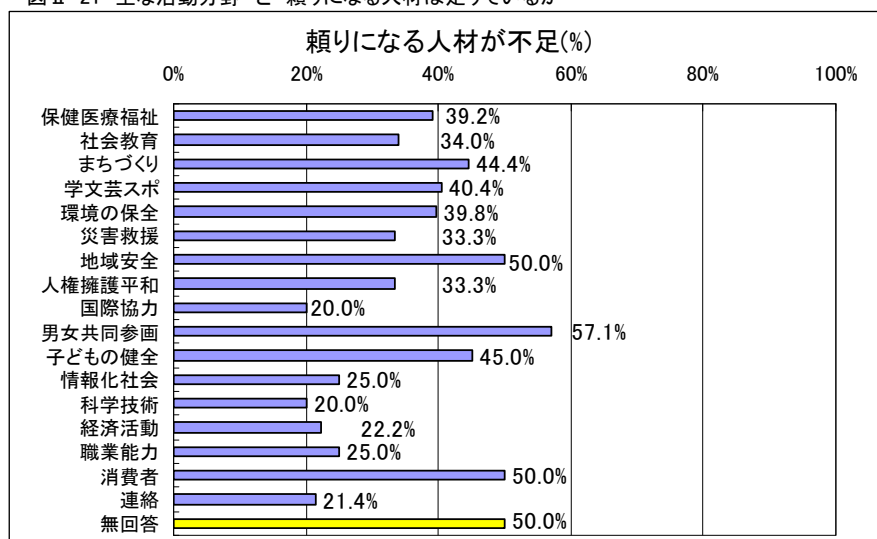
活動分野別に、『頼りになる人材は足りているか』をみると、「男女共同参画」、「消費者」、「地域安全」では『不足している』法人が50%以上となった。(表Ⅱ-21、図Ⅱ-21)

表Ⅱ-21 主な活動分野 と 頼りになる人材は足りているか

上段: 法人数, 下段: %

	足りている	不足している	無回答	合計
保健医療福祉	142 (59.9%)	93 (39.2%)	2 (0.8%)	237
社会教育	31 (66%)	16 (34%)	0 (0%)	47
まちづくり	41 (50.6%)	36 (44.4%)	4 (4.9%)	81
学芸スポ	51 (57.3%)	36 (40.4%)	2 (2.2%)	89
環境の保全	61 (59.2%)	41 (39.8%)	1 (1%)	103
災害救援	2 (66.7%)	1 (33.3%)	0 (0%)	3
地域安全	5 (41.7%)	6 (50%)	1 (8.3%)	12
人権擁護平和	4 (66.7%)	2 (33.3%)	0 (0%)	6
国際協力	8 (80%)	2 (20%)	0 (0%)	10
男女共同参画	3 (42.9%)	4 (57.1%)	0 (0%)	7
子どもの健全育成	43 (53.8%)	36 (45%)	1 (1.3%)	80
情報化社会	6 (75%)	2 (25%)	0 (0%)	8
科学技術	4 (80%)	1 (20%)	0 (0%)	5
経済活動	7 (77.8%)	2 (22.2%)	0 (0%)	9
職業能力	10 (62.5%)	4 (25%)	2 (12.5%)	16
消費者	3 (50%)	3 (50%)	0 (0%)	6
連絡	11 (78.6%)	3 (21.4%)	0 (0%)	14
無回答	1 (50%)	1 (50%)	0 (0%)	2
合計	433 (58.9%)	289 (39.3%)	13 (1.8%)	735

図Ⅱ-21 主な活動分野 と 頼りになる人材は足りているか



問 22. 活動実施の際の人員体制

あなたの団体の活動はどのような人員体制で行われていますか。該当するものをすべて選び、その番号に○をつけてください。

1322の全回答の内、『会員のみで行っている』が354と最も多く、次いで『会員と活動ごとのボランティア(流動的)』239、『会員と外部の専門家とで行っている』131、『会員と活動ごとのボランティア(固定的)』122、『会員と他の市民団体とで行っている』111、『会員と行政職員とで行っている』105の順に

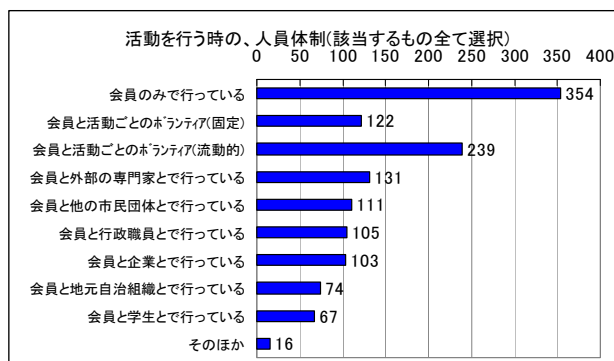
『そのほか』では、「会員と専門家」以外の有給の人員によるものが目立った。

なお、重複回答を整理すると、ボランティアといっしょに活動を実施する法人は735法人中319(43.4%)あった。

活動分野別で見ると、『会員のみで行っている』は分野を問わず多いが、「男女共同参画」では少なく、活動の人員体制では多数回答ではない。

「男女共同参画」では、『会員と他の市民団体とで行っている』が最も多く、「連絡」では『会員と外部の専門家とで行っている』が最も多かった。

活動の人員体制で次に多かったのは、『会員と活動ごとのボランティア(流動的)』で「国際協力」では『会員のみで行っている』と同数で最も多く、「まちづくり」、「学芸スポ」、「子どもの健全」、「連絡」などでは一位とほぼ同じ数となっている。(表Ⅱ-22)



表Ⅱ-22 主な活動分野 と 活動の人員体制 (複数回答)

上段: 法人数, 下段: %

	会員のみで行っている	会員と活動「とのボランティア(固定的)」とで行っている	会員と活動「とのボランティア(流動的)」とで行っている	会員と外部の専門家とで行っている	会員と他の市民団体とで行っている	会員と行政職員とで行っている	会員と企業とで行っている	会員と地元自治組織とで行っている	会員と学生(高校生以下も含む)とで行っている	その他	合計
保健医療福祉	120 (32.1%)	39 (10.4%)	68 (18.2%)	39 (10.4%)	25 (6.7%)	24 (6.4%)	19 (5.1%)	19 (5.1%)	14 (3.7%)	7 (1.9%)	374
社会教育	20 (23.5%)	9 (10.6%)	15 (17.6%)	14 (16.5%)	8 (9.4%)	5 (5.9%)	9 (10.6%)	2 (2.4%)	3 (3.5%)	0 (0%)	85
まちづくり	39 (22.2%)	12 (6.8%)	34 (19.3%)	14 (8%)	17 (9.7%)	20 (11.4%)	15 (8.5%)	14 (8%)	9 (5.1%)	2 (1.1%)	176
学芸スポ	39 (24.2%)	13 (8.1%)	36 (22.4%)	12 (7.5%)	13 (8.1%)	18 (11.2%)	9 (5.6%)	8 (5%)	11 (6.8%)	2 (1.2%)	161
環境の保全	60 (27.9%)	14 (6.5%)	34 (15.8%)	16 (7.4%)	23 (10.7%)	16 (7.4%)	26 (12.1%)	17 (7.9%)	9 (4.2%)	0 (0%)	215
災害救援	1 (16.7%)	0 (0%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	0 (0%)	1 (16.7%)	0 (0%)	1 (16.7%)	0 (0%)	6
地域安全	5 (23.8%)	2 (9.5%)	2 (9.5%)	1 (4.8%)	0 (0%)	3 (14.3%)	4 (19%)	3 (14.3%)	0 (0%)	1 (4.8%)	21
人権擁護平和	4 (26.7%)	2 (13.3%)	1 (6.7%)	2 (13.3%)	1 (6.7%)	1 (6.7%)	2 (13.3%)	1 (6.7%)	1 (6.7%)	0 (0%)	15
国際協力	4 (28.6%)	2 (14.3%)	4 (28.6%)	1 (7.1%)	1 (7.1%)	1 (7.1%)	1 (7.1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	14
男女共同参画	1 (7.1%)	2 (14.3%)	2 (14.3%)	2 (14.3%)	3 (21.4%)	2 (14.3%)	2 (14.3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	14
子どもの健全	32 (23%)	18 (12.9%)	28 (20.1%)	14 (10.1%)	9 (6.5%)	6 (4.3%)	5 (3.6%)	8 (5.8%)	16 (11.5%)	3 (2.2%)	139
情報化社会	4 (30.8%)	1 (7.7%)	3 (23.1%)	2 (15.4%)	0 (0%)	1 (7.7%)	1 (7.7%)	1 (7.7%)	0 (0%)	0 (0%)	13
科学技術	2 (33.3%)	0 (0%)	1 (16.7%)	2 (33.3%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (16.7%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	6
経済活動	6 (50%)	1 (8.3%)	1 (8.3%)	1 (8.3%)	1 (8.3%)	1 (8.3%)	1 (8.3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	12
職業能力	8 (36.4%)	2 (9.1%)	1 (4.5%)	2 (9.1%)	2 (9.1%)	1 (4.5%)	4 (18.2%)	1 (4.5%)	1 (4.5%)	0 (0%)	22
消費者	4 (57.1%)	0 (0%)	1 (14.3%)	1 (14.3%)	1 (14.3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	7
連絡	5 (12.8%)	5 (12.8%)	6 (15.4%)	7 (17.9%)	5 (12.8%)	6 (15.4%)	3 (7.7%)	0 (0%)	1 (2.6%)	1 (2.6%)	39
無回答	0 (0%)	0 (0%)	1 (33.3%)	0 (0%)	1 (33.3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (33.3%)	0 (0%)	3
合計	354 (26.8%)	122 (9.2%)	239 (18.1%)	131 (9.9%)	111 (8.4%)	105 (7.9%)	103 (7.8%)	74 (5.6%)	67 (5.1%)	16 (1.2%)	1322

問 23. 法人設立後の会員構成の変化。

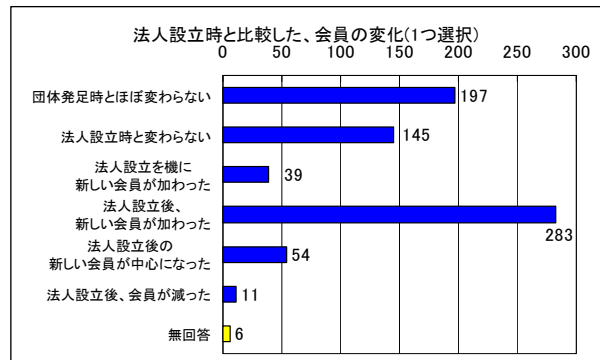
現在の会員は法人設立時と変化していますか。該当するものを1つ選び、その番号に○をつけてください。

『法人設立後、新しい会員が加わった』という法人が283(38.5%)と最も多く、次いで『団体発足時とほぼ変わらない』197(26.8%)、『法人設立時と変わらない』145(9.7%)となった。

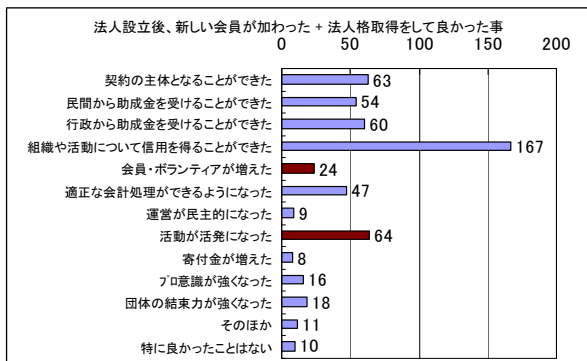
I 問7の「法人化して良かったこと(複数選択)」との関連でみると、『法人設立後、新しい会員が加わった』とする法人でも、良かったことに『会員・ボランティア』をあげた法人は24となった。(図Ⅱ-23-1)

I 問9の「会員の意識・活動の変化」の『組織運営を真剣に考えるようになった』、『ネットワークが広がった』、『組織運営が煩雑になった』の上位3つの回答は、『法人設立後、新しい会員が加わった』との回答の中でも上位を占めている。(図Ⅱ-23-2)

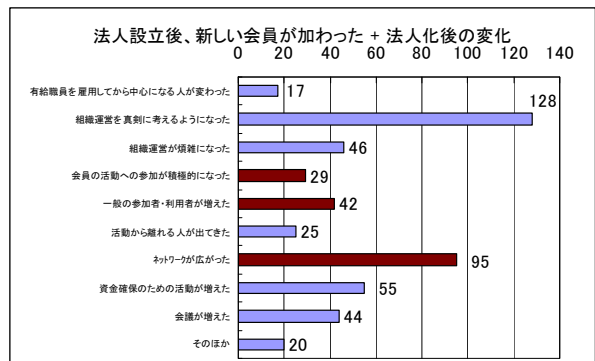
活動分野別でみると、『団体発足時とほぼ変わらない』は、「人権擁護平和」、「情報化社会」でともに50.0%と最も高かった。『法人設立時と変わらない』は、「災害」で60%、「消費者」で50.0%と最も高かった。その他の分野では『法人設立後、新しい会員が加わった』が多かった。(表Ⅱ-23)



図Ⅱ-23-1
会員構成の変化『法人設立後、新しい会員が加わった』とI 問7の法人格を取得してよかった事の回答
(※赤は新会員の加入と関係があると推測できる項目)



図Ⅱ-23-2
会員構成の変化『法人設立後、新しい会員が加わった』とI 問9の法人化後の変化の回答
(※赤は新会員の加入と関係があると推測できる項目)



表Ⅱ-23 主な活動分野 と 会員構成の変化

上段:法人数, 下段:%

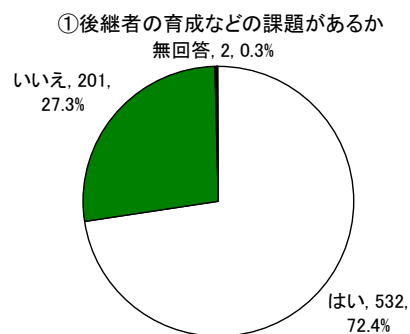
	団体発足時 とほぼ変わ らない	法人設立時と 変わらない	法人設立を 機に新しい会 員が加わった	法人設立後、 新しい会員が 加わった	法人設立後 の新しい会員 が中心になった	法人設立 後、会員が 減った	無回答	合計
保健医療福祉	62 (26.2%)	48 (20.3%)	12 (5.1%)	87 (36.7%)	21 (8.9%)	4 (1.7%)	3 (1.3%)	237
社会教育	8 (17%)	11 (23.4%)	3 (6.4%)	17 (36.2%)	7 (14.9%)	0 (0%)	1 (2.1%)	47
まちづくり	21 (25.9%)	9 (11.1%)	9 (11.1%)	33 (40.7%)	8 (9.9%)	1 (1.2%)	0 (0%)	81
学芸スポ	24 (27%)	24 (27%)	2 (2.2%)	34 (38.2%)	1 (1.1%)	4 (4.5%)	0 (0%)	89
環境の保全	32 (31.1%)	17 (16.5%)	5 (4.9%)	43 (41.7%)	5 (4.9%)	1 (1%)	0 (0%)	103
災害救援	0 (0%)	2 (66.7%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (33.3%)	0 (0%)	0 (0%)	3
地域安全	4 (33.3%)	4 (33.3%)	0 (0%)	3 (25%)	1 (8.3%)	0 (0%)	0 (0%)	12
人権擁護平和	3 (50%)	1 (16.7%)	0 (0%)	2 (33.3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	6
国際協力	1 (10%)	3 (30%)	0 (0%)	5 (50%)	1 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	10
男女共同参画	0 (0%)	2 (28.6%)	1 (14.3%)	3 (42.9%)	1 (14.3%)	0 (0%)	0 (0%)	7
子どもの健全育成	25 (31.3%)	10 (12.5%)	6 (7.5%)	32 (40%)	6 (7.5%)	0 (0%)	1 (1.3%)	80
情報化社会	4 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (37.5%)	0 (0%)	1 (12.5%)	0 (0%)	8
科学技術	2 (40%)	1 (20%)	0 (0%)	2 (40%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	5
経済活動	3 (33.3%)	0 (0%)	0 (0%)	6 (66.7%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	9
職業能力	4 (25%)	5 (31.3%)	1 (6.3%)	4 (25%)	1 (6.3%)	0 (0%)	1 (6.3%)	16
消費者	2 (33.3%)	3 (50%)	0 (0%)	1 (16.7%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	6
連絡	2 (14.3%)	3 (21.4%)	0 (0%)	8 (57.1%)	1 (7.1%)	0 (0%)	0 (0%)	14
無回答	0 (0%)	2 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2
合計	197 (26.8%)	145 (19.7%)	39 (5.3%)	283 (38.5%)	54 (7.3%)	11 (1.5%)	6 (0.8%)	735

問 24. 後継者、組織強化、学習会

以下の設問について、「はい」か、「いいえ」でお答えください。

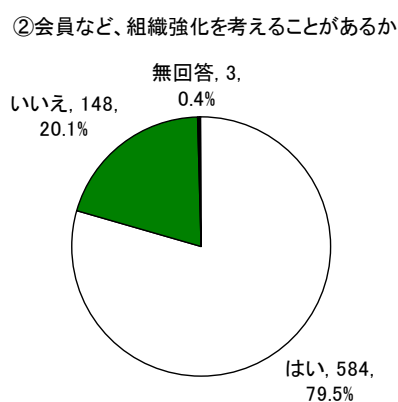
① 「後継者の育成などについて課題がありますか」、の設問については、『はい』532(72.4%)、『いいえ』201(27.3%)との回答結果だった。

活動分野別でみると、『はい』は、「人権擁護平和」で100%(6)と最も高く、次いで「地域安全」、「情報化社会」で80%以上となっている。(図Ⅱ-24-1)

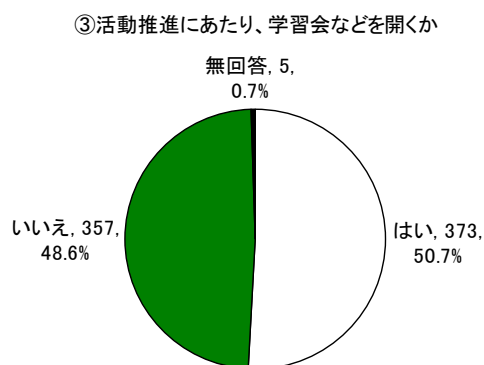


② 「会員など、組織の強化をお考えになることがありますか」、の設問については、『はい』584(79.5%)、『いいえ』148(20.1%)との回答結果だった。

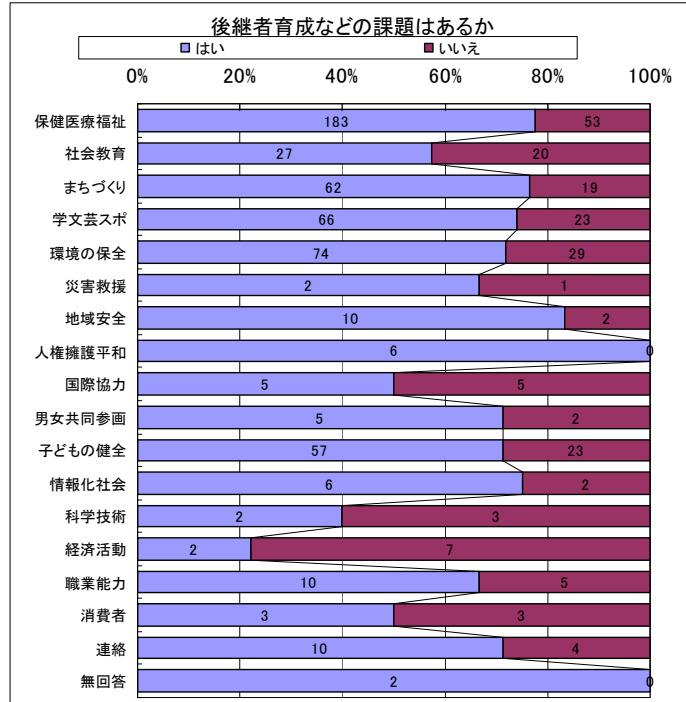
活動分野別でみると、「男女共同参画」、「情報化社会」の2分野で、『はい』が100%となり、「職業能力」、「環境の保全」、「地域安全」、「学問文学芸術スポーツ」、「まちづくり」、「保健医療福祉」、「災害救援」、「消費者」で80%以上となっている。(図Ⅱ-24-2)



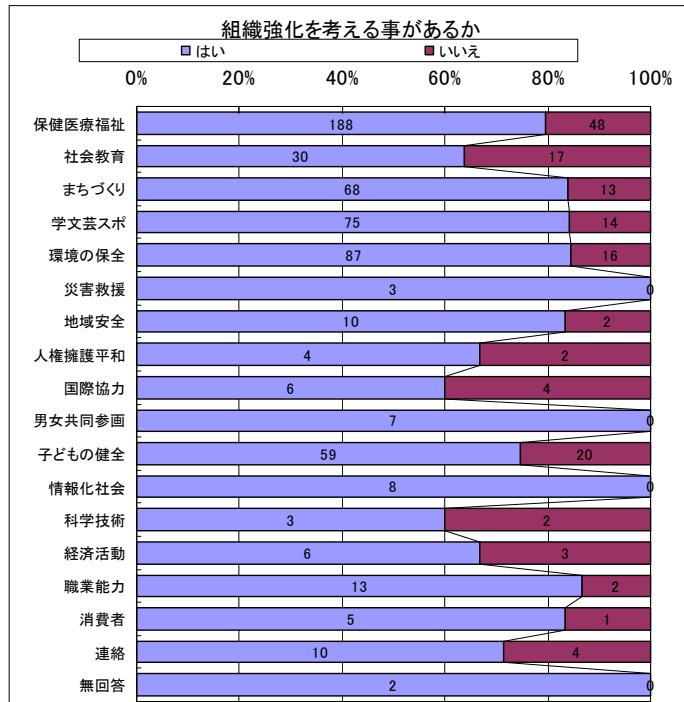
③ 「活動推進にあたり、学習会を開いたり、外部研修を受けていますか」、の設問については、『はい』373(50.7%)、『いいえ』357(48.6%)との回答結果だった。



図Ⅱ-24-1 主な活動分野 と 後継者育成などの課題はあるか



図Ⅱ-24-2 主な活動分野 と 組織強化を考える事があるか



■ 広報・コミュニケーション

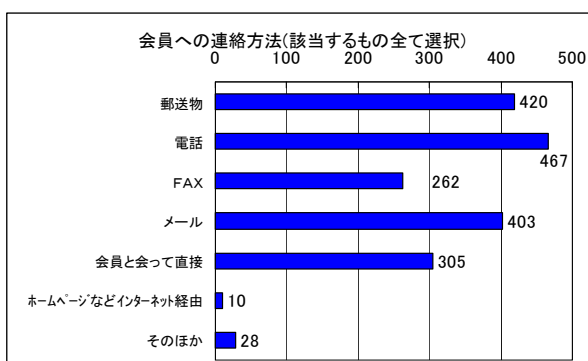
問 25. 会員への連絡方法

会員への連絡は、どのように行っていますか。該当するものをすべて選び、その番号に○をつけてください。

『電話』467 が最も多く、次いで『郵送物』420、『メール』403、『会員と会って直接』305 となった。インターネットを経由したものは『メール』以外に「ホームページ」、「ブログ」等が10 法人あった。『そのほか』の内容では、「会報」等が 10 法人あった。

認証年別でみると、「1999～2000」は、他よりも『メール』の比率が低い。(表Ⅱ-25)

最も多い会員の年齢層別でみると、『会って直接』、『電話』、『FAX』の割合が高齢になるほど増え、『メール』が減る傾向がある。しかし「60 歳以上」でも 82(13.5%) が、『メール』を利用している。(図Ⅱ-25)

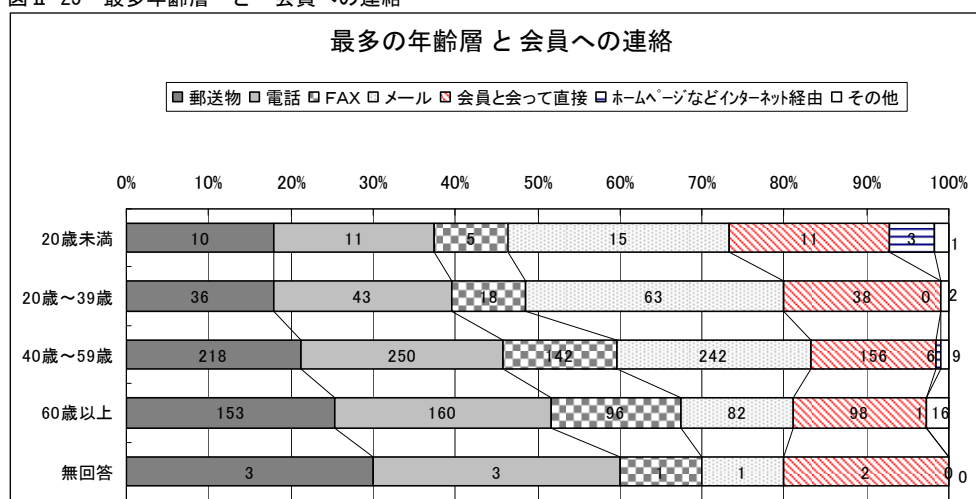


表Ⅱ-25 法人認証年 と 会員への連絡(複数回答)

上段: 法人数, 下段: %

	郵送物	電話	FAX	メール	会員と会って直接	ホームページなどインターネット経由	その他	合計
1999～2000	42 (22.5%)	46 (24.6%)	31 (16.6%)	30 (16%)	33 (17.6%)	1 (0.5%)	4 (2.1%)	187
2001～2002	63 (21.4%)	72 (24.5%)	46 (15.6%)	63 (21.4%)	46 (15.6%)	2 (0.7%)	2 (0.7%)	294
2003～2004	87 (24.1%)	82 (22.7%)	49 (13.6%)	83 (23%)	58 (16.1%)	1 (0.3%)	1 (0.3%)	361
2005～2006	95 (23%)	99 (24%)	61 (14.8%)	83 (20.1%)	63 (15.3%)	1 (0.2%)	11 (2.7%)	413
2007～2008	88 (21.3%)	103 (24.9%)	51 (12.3%)	98 (23.7%)	63 (15.3%)	2 (0.5%)	8 (1.9%)	413
2009～2010	45 (19.8%)	65 (28.6%)	24 (10.6%)	46 (20.3%)	42 (18.5%)	3 (1.3%)	2 (0.9%)	227
合計	420 (22.2%)	467 (24.6%)	262 (13.8%)	403 (21.3%)	305 (16.1%)	10 (0.5%)	28 (1.5%)	1895

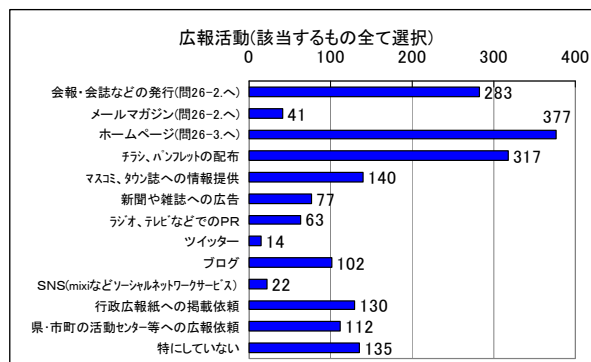
図Ⅱ-25 最多年齢層 と 会員への連絡



問 26. 広報活動の種類

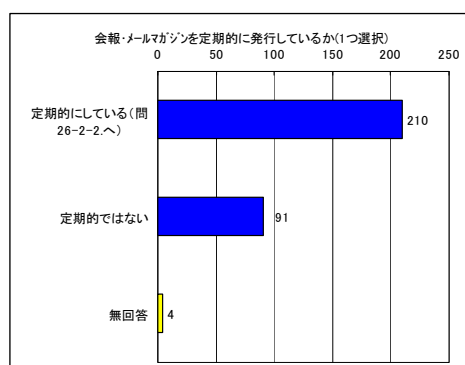
対外的にはどのような広報活動をしていますか。該当するものをすべて選び、その番号に○をつけてください。

『ホームページ』が 377 と最も多く、次いで『チラシ、パンフレットの配布』317、『会報・会誌などの発行』283、『マスコミ、タウン誌への情報提供』140、『行政広報誌への掲載依頼』130 などとなっている。一方、対外的な広報活動を『特にしていない』も 135 あった。



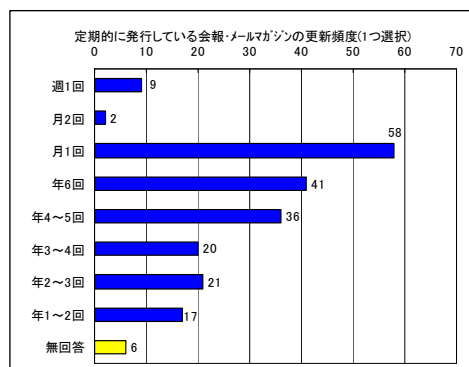
問 26-2. 会報、メールマガジンの定期的な発行 会報、メールマガジンなどは定期的に発行していますか。

『定期的に行っている』が 210 (64.8%)、『定期的ではない』が 91 (28.1%) となった。※「会報、会誌など」と「メールマガジン」をともに実施している法人もあるため、問 26 の数とは一致していない。



問 26-2-2. 会報、メールマガジンの発行頻度 どのくらいの頻度で発行していますか。

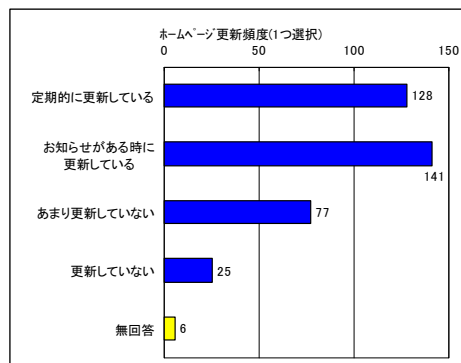
『月1回』が 58 (27.6%) と最も多く、次いで『年6回』41 (19.5%)、『年4~5回』36 (17.1%) となった。



問 26-3. ホームページの更新

ホームページは更新していますか。該当するものを1つ選び、その番号に○をつけてください。

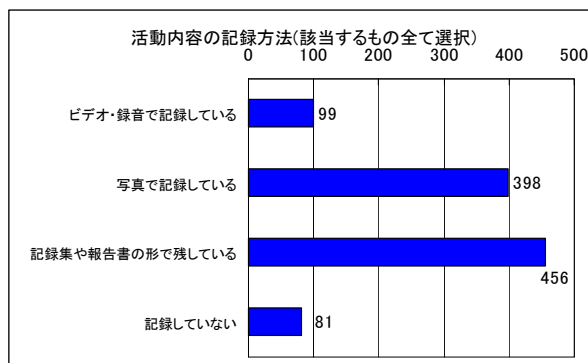
377 の回答のうち、『お知らせがある時に更新している』が 141 (37.4%) と最も多く、次いで『定期的に更新している』128 (34.0%)、『あまり更新していない』77 (20.7%)、『更新していない』25 (6.6%) となっている。



問 27. 活動の記録

活動の内容・結果を、そのつど記録に残していますか。該当するものをすべて選び、その番号に○をつけてください。

『記録集や報告書の形で残している』が 456 と最も多く、次いで『写真』398、『ビデオ・録音』99 となった。また、『記録していない』との回答も 81 あった。

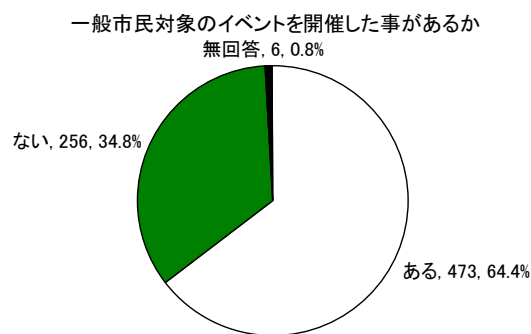


問 28. 一般市民を対象としたイベント

広く一般市民を対象としたイベントなどを、実施したことがありますか。

『ある』が 473(64.4%)、『ない』は 256(34.8%) となった。

活動分野別でみると、「男女共同参画」は 100% が実施、次いで「社会教育」85.1%、「まちづくり」80.2% となった。「災害救援」33.3%、「職業能力」43.8% と 50% に満たない分野もあった。(表 II-28、図 II-28)

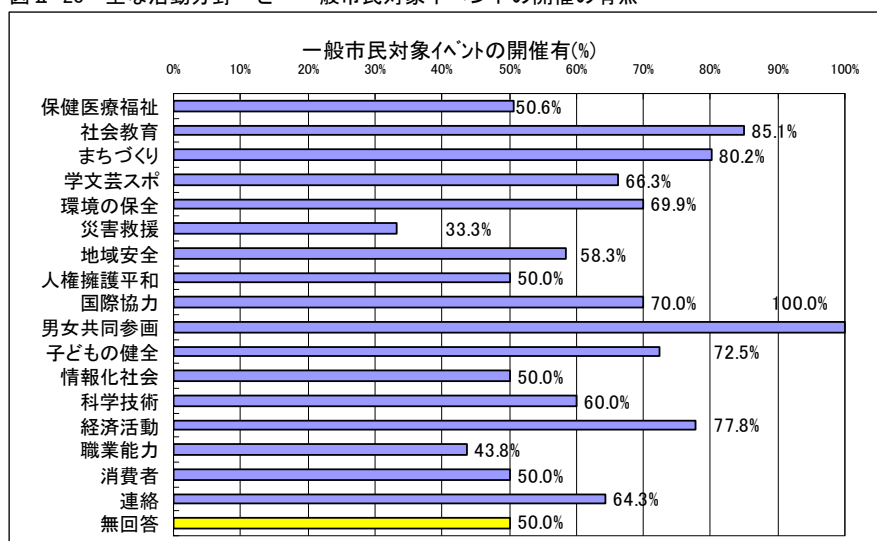


表Ⅱ-28 主な活動分野と一般市民対象イベントの開催の有無

上段: 法人数, 下段: %

	有	無	無回答	合計
保健医療福祉	120 (50.6%)	114 (48.1%)	3 (1.3%)	237
社会教育	40 (85.1%)	7 (14.9%)	0 (0%)	47
まちづくり	65 (80.2%)	16 (19.8%)	0 (0%)	81
学文芸スポ	59 (66.3%)	30 (33.7%)	0 (0%)	89
環境の保全	72 (69.9%)	30 (29.1%)	1 (1%)	103
災害救援	1 (33.3%)	2 (66.7%)	0 (0%)	3
地域安全	7 (58.3%)	5 (41.7%)	0 (0%)	12
人権擁護平和	3 (50%)	3 (50%)	0 (0%)	6
国際協力	7 (70%)	3 (30%)	0 (0%)	10
男女共同参画	7 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	7
子どもの健全育成	58 (72.5%)	22 (27.5%)	0 (0%)	80
情報化社会	4 (50%)	4 (50%)	0 (0%)	8
科学技術	3 (60%)	2 (40%)	0 (0%)	5
経済活動	7 (77.8%)	2 (22.2%)	0 (0%)	9
職業能力	7 (43.8%)	8 (50%)	1 (6.3%)	16
消費者	3 (50%)	3 (50%)	0 (0%)	6
連絡	9 (64.3%)	4 (28.6%)	1 (7.1%)	14
無回答	1 (50%)	1 (50%)	0 (0%)	2
合計	473 (64.4%)	256 (34.8%)	6 (0.8%)	735

図Ⅱ-28 主な活動分野 と 一般市民対象イベントの開催の有無



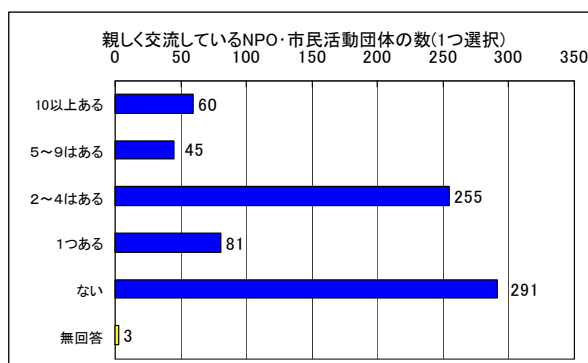
問 29. 親しいNPO・市民活動団体

親しく交流しているNPO・市民活動団体がありますか。該当するものを1つ選び、その番号に○をつけてください。

「ある」ものは 441 (60.0%)あり、その中で『2～4はある』が 255 (34.7%)と最も多く、次いで『1つある』が 81 (11.0%)、『10以上ある』60 (8.2%)となった。また、『ない』は 291 (39.6%)となった。

活動分野別でみると、「ある」は、「男女協働参画」、「災害救援」で 100%、「連絡」71.4%となった。

一方、「人権擁護平和」、「経済活動」、「消費者」は 33.3%、「地域安全」41.7%、と 50%未満の分野もあった。(表Ⅱ-29、図Ⅱ-29)

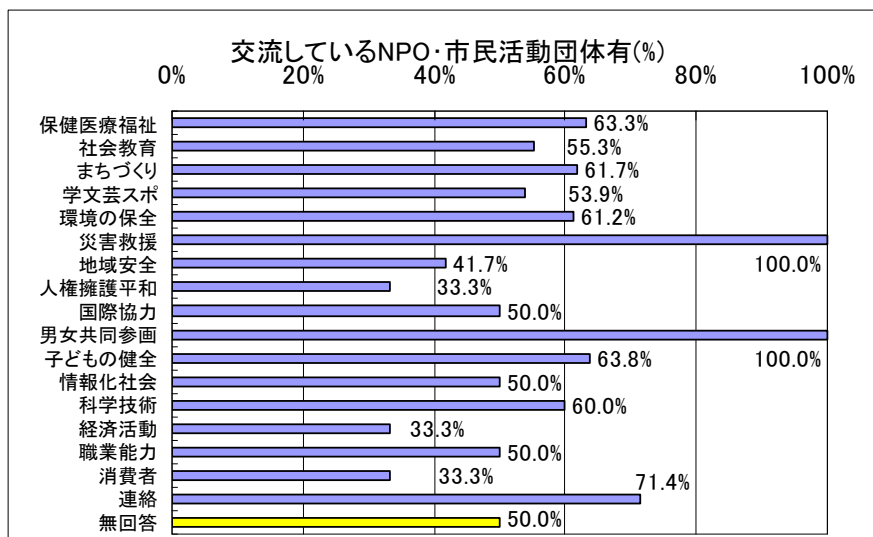


表Ⅱ-29 主な活動分野 と NPO・市民活動団体との交流

上段: 法人数, 下段: %

	有	無	無回答	合計
保健医療福祉	150 (63.3%)	86 (36.3%)	1 (0.4%)	237
社会教育	26 (55.3%)	21 (44.7%)	0 (0%)	47
まちづくり	50 (61.7%)	31 (38.3%)	0 (0%)	81
学芸芸スポ	48 (53.9%)	40 (44.9%)	1 (1.1%)	89
環境の保全	63 (61.2%)	40 (38.8%)	0 (0%)	103
災害救援	3 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	3
地域安全	5 (41.7%)	7 (58.3%)	0 (0%)	12
人権擁護平和	2 (33.3%)	4 (66.7%)	0 (0%)	6
国際協力	5 (50%)	5 (50%)	0 (0%)	10
男女共同参画	7 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	7
子どもの健全育成	51 (63.8%)	29 (36.3%)	0 (0%)	80
情報化社会	4 (50%)	4 (50%)	0 (0%)	8
科学技術	3 (60%)	2 (40%)	0 (0%)	5
経済活動	3 (33.3%)	6 (66.7%)	0 (0%)	9
職業能力	8 (50%)	7 (43.8%)	1 (6.3%)	16
消費者	2 (33.3%)	4 (66.7%)	0 (0%)	6
連絡	10 (71.4%)	4 (28.6%)	0 (0%)	14
無回答	1 (50%)	1 (50%)	0 (0%)	2
合計	441 (60%)	291 (39.6%)	3 (0.4%)	735

図Ⅱ-29 主な活動分野 と NPO・市民活動団体との交流

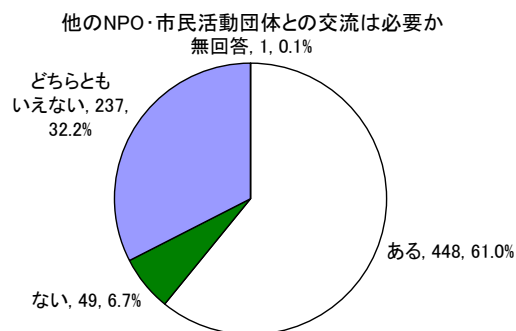


問 30. 他のNPO・市民活動団体との交流の必要性

他のNPO・市民活動団体との交流は必要だと思いますか。

『ある』との回答が 448 (61.0%)、『どちらともいえない』が 237 (32.2%)、『ない』が 49 (6.7%)となった。必要性が『ある』と回答した 448 のうち 92 が、前問で『ない』と回答している。

前問「NPO・市民活動団体との交流の必要はあるか」との関連で見ると、必要が『ある』と考えているのに、交流が『ない』法人は 92 あった。(表Ⅱ-30)



表Ⅱ-30 NPO・市民活動団体との交流の必要はあるか と 交流しているNPO・市民活動団体

上段:法人数, 下段:%

	交流有	交流無	無回答	合計
必要有	355 (79.2%)	92 (20.5%)	1 (0.2%)	448
必要無	8 (16.3%)	41 (83.7%)	0 (0%)	49
どちらともいえない	78 (32.9%)	158 (66.7%)	1 (0.4%)	237
無回答	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	1
合計	441 (60%)	291 (39.6%)	3 (0.4%)	735

Ⅲ. 財務

ここでは、NPOの財政状況について調査した。会費のみで運営する法人もあれば、自主事業を大規模に実施する法人もあり、その結果、財政規模も年10万円から5000万円を超す法人まで幅広く、多様だった。一方で赤字の法人も約2割存在していることがわかった。

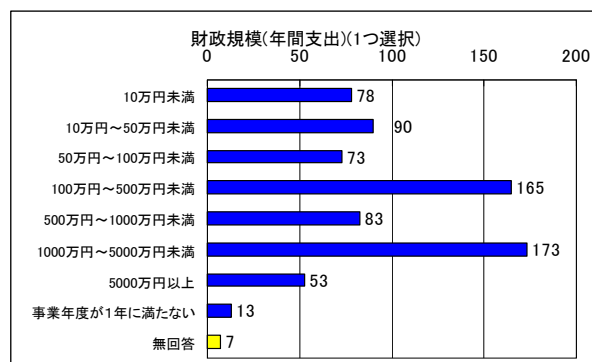
問1. 直近の財政規模(年間支出)

あなたの団体の直近の財政規模(年間支出)について、該当するものを1つ選び、その番号に○をつけてください。

『1000万円～5000万円未満』が173(23.5%)も多く、次いで『100万円～500万円未満』が165(22.4%)、『10万円～50万円未満』が90(12.2%)、『500万円～1000万円未満』が83(11.3%)などとなった。『10万円未満』の法人が78ある反面、『5000万円以上』の法人も53(7.2%)あった。

これを、有給の常勤職員を雇用するのが困難とみられる「500万円未満」、1人は雇用可能とみられる「500万円～1000万円」、2人以上の雇用が可能であろう「1000万円以上」の3グループに分けると、それぞれ、406、83、226となった。有給常勤職員を雇用するのは厳しいと考えられる法人は55.2%となる。

平成18年の調査では、『100万円～500万円未満』が24.3%で最も多かったが、今回は法人に特化した調査ではあるが、『1000万円～5000万円未満』が、最も多かった。(表Ⅲ-1)

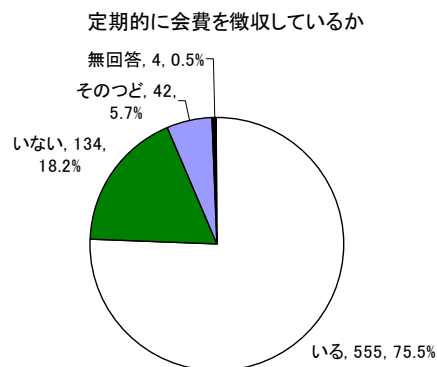


表Ⅲ-1 「財政規模」平成18年調査結果との比較

	平成18年		平成22年	
	団体数	割合	法人数	割合
10万円未満	51	(14.7%)	78	(10.6%)
10万円～50万円未満	53	(15.3%)	90	(12.2%)
50万円～100万円未満	33	(9.5%)	73	(9.9%)
100万円～500万円未満	84	(24.3%)	165	(22.4%)
500万円～1000万円未満	33	(9.5%)	83	(11.3%)
1000万円～5000万円未満	54	(15.6%)	173	(23.5%)
5000万円以上	18	(5.2%)	53	(7.2%)
事業年度が1年に満たない	15	(4.3%)	13	(1.8%)
無回答	6	(1.7%)	7	(1.0%)
計	346		735	

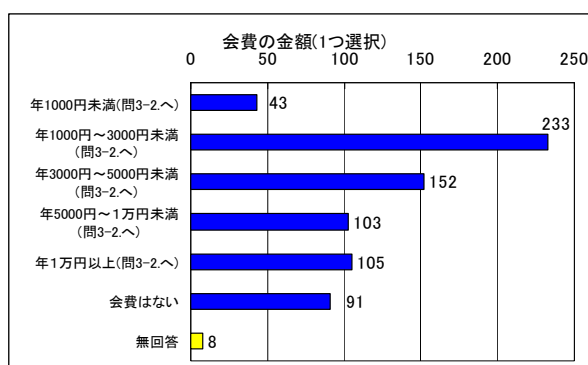
**問2. 会費の徴収
定期的に会費を徴収していますか。**

『いる』が 555(75.5%)、『そのつど』が 42(5.7%)と、合わせて 597(81.2%)の法人で定期的に会費を集めているのに対し、定期的に集めて『いない』法人も 134(18.2%)あった。



**問3. 年換算の一人当たりの会費
会費は年換算で一会員あたりいくらですか。該当するものを1つ選び、その番号に○をつけてください。**

『年 1000 円～3000 円未満』が 233(31.7%)と最も多く、次いで『年 3000 円～5000 円未満』152(20.7%)、『年1万円以上』105(14.3%)、『年 5000 円～1万円未満』103(14.0%)となった。会費のある法人は、636(86.5%)になる。また『会費はない』法人も 91(12.4%)あった。



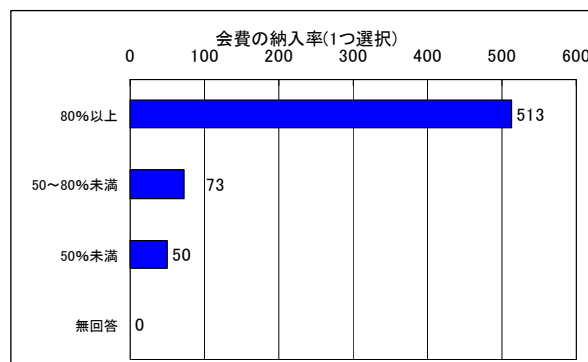
**問3-2. 会費納入率
会費の納入率はいかがですか。該当するものを1つ選び、その番号に○をつけてください。**

『80%以上』との回答が 513(80.7%)と最も多く、『50～80%未満』が 73(11.5%)、『50%未満』の法人は 50(7.9%)となった。

年換算の会費との関連で見ると、「年1万円以上」で『80%以上』の割合が 90.5%と最も高くなっている。

「年 5,000 円～1万円未満」で、納入率『50～80%未満』以下の割合は 27.1%と最も高くなっている。

『50%未満』は、「年 1,000 円未満」で 14%と最も高くなっている。(表Ⅲ-3-2、図Ⅲ-3-2)

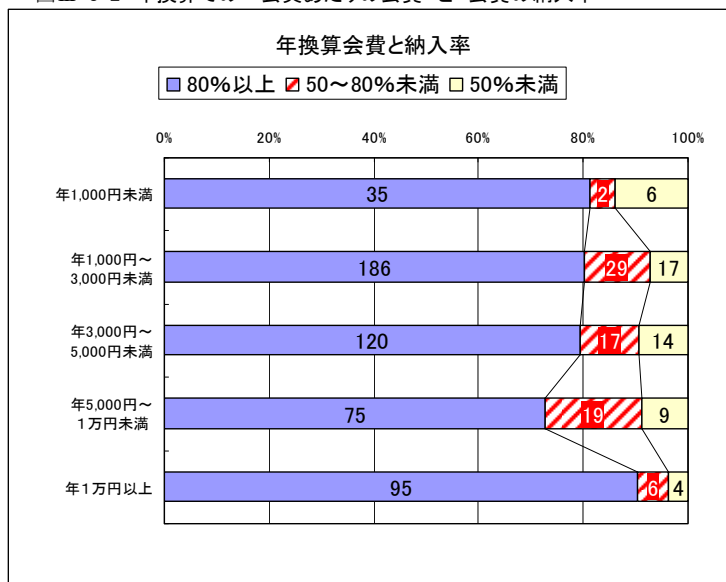


表Ⅲ-3-2 年換算での一会員あたりの会費 と 会費の納入率

上段:法人数, 下段:%

	80%以上	50~80%未満	50%未満	合計
年1,000円未満	35 (81.4%)	2 (4.7%)	6 (14%)	43
年1,000円~3,000円未満	186 (80.2%)	29 (12.5%)	17 (7.3%)	232
年3,000円~5,000円未満	120 (79.5%)	17 (11.3%)	14 (9.3%)	151
年5,000円~1万円未満	75 (72.8%)	19 (18.4%)	9 (8.7%)	103
年1万円以上	95 (90.5%)	6 (5.7%)	4 (3.8%)	105
合計	511 (80.6%)	73 (11.5%)	50 (7.9%)	634

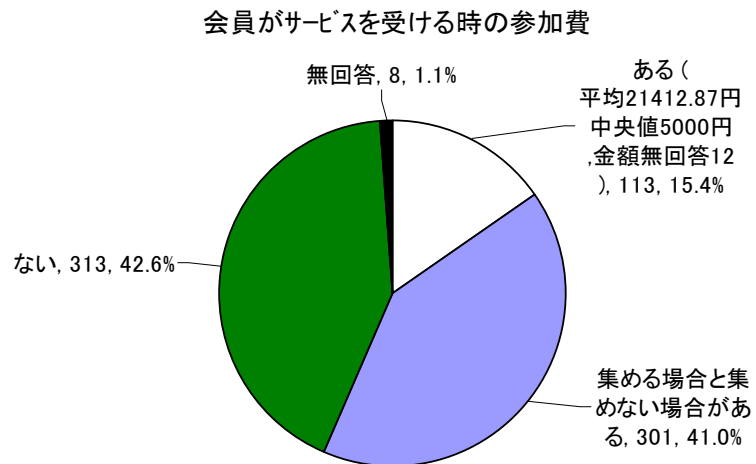
図Ⅲ-3-2 年換算での一会員あたりの会費 と 会費の納入率



問4. 会員の参加費・利用料

会員が事業（サービス）の対象となる場合、参加費・利用料などを集めることがありますか。該当するものを1つ選び、その番号に○をつけてください。

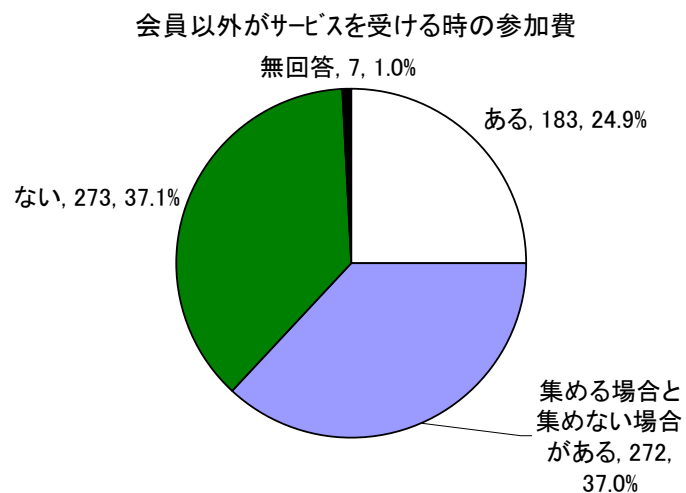
『ある』が 113(15.4%)、『集める場合と集めない場合がある』が 301(41.0%)、『ない』が 313(42.6%)となった。なお『ある』場合の年換算の平均値は 2万 1412.87 円となっている。その幅は 100 円～40 万円で、中央値は 5000 円となった。



問5. 会員以外の参加費・利用料

会員以外の方が事業（サービス）の対象となる場合、参加費・利用料などを集めることがありますか。該当するものを1つ選び、その番号に○をつけてください。

『ある』は 183(24.9%)、『集める場合と集めない場合がある』272(37.0%)、『ない』273(37.1%)、となった。



問6. 直近の年間収入のベスト3

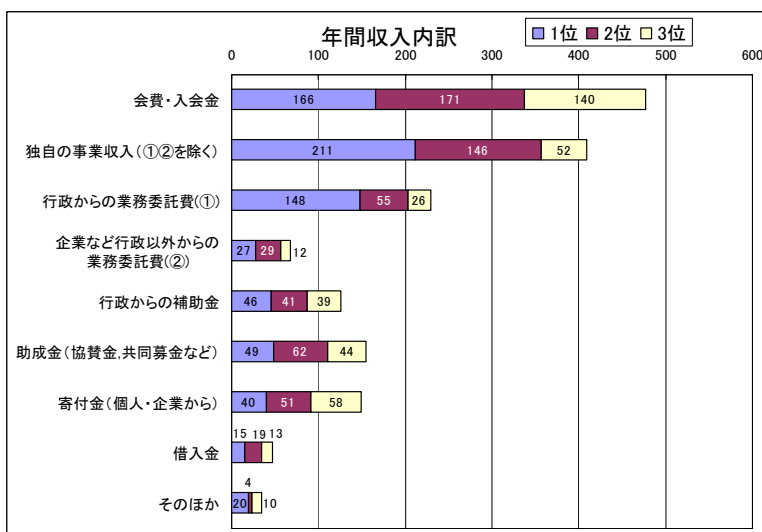
あなたの団体の直近の年間収入内訳のうち、額が大きいものから3つ選び、その番号と法人収入全体に対する比率を（ ）内にお書きください。

収入の上位3位の内訳では、『会費、入会金』という会員からのものが計477と多く、次いで『独自の事業収入』が409、『行政からの業務委託費』が229となった。

1位にあげられたものでは『独自の事業収入』が211で最も多く、次いで『会費、入会金』、『行政からの業務委託費』が続く。

回答が『会費・入会金』のみの法人も64あった。

上位3位の項目を、平成18年調査と比べると『会費・入会金』は、61.6→64.9%と大きくは変動していないが、『独自の事業収入』が38.2→55.7%、『行政からの業務委託費』が24.9→32.5%と、事業による収入が増えている。(表Ⅲ-6-1)



表Ⅲ6-1 「年間収入ベスト3に入る財源」平成18年調査結果との比較

	平成18年		平成22年	
	団体数	割合	法人数	割合
会費・入会金	213	(61.6%)	477	(64.9%)
独自の事業収入(①②を除く)	132	(38.2%)	409	(55.6%)
行政からの業務委託費(①)	84	(24.3%)	229	(31.2%)
基数	346		735	

活動分野別で年間収入1位をみると、『会費・入会金』は「社会教育」(同数で『独自の事業収入』)、「学問・文化・芸術・スポーツ」、「環境の保全」、「災害救援」、「地域安全」、「人権擁護平和」、「国際協力」(同数で『行政からの業務委託費』)、「情報化社会」(同数で『行政からの業務委託費』)、「科学技術」(同数で『独自の事業収入』)も、「経済活動」(同数で『行政からの業務委託費』)、「消費者」の10分野となった。

『独自の事業収入』が1位となったのは「保健医療福祉」、「社会教育」(同数で『会費・入会金』)、「子どもの健全育成」、「職業能力」(同数で『企業など行政以外からの業務委託費』)となった。

『行政からの業務委託費』が1位となったのは、「まちづくり」、「国際協力」(同数で『会費・入会金』)、「男女共同参画」、「情報化社会」(同数で『会費・入会金』)、「経済活動」(同数で『会費・入会金』)、「連絡」となった。特に「男女共同参画」では71.4%と高い割合となった。(表Ⅲ-6-2)

表Ⅲ-6-2 主な活動分野 と 年間収入の1位

上段:法人数, 下段:%

	会費・入金金	独自の事業収入 (①、②を除く)	行政からの業務委託費 (①)	企業など行政以外からの業務委託費 (②)	行政からの補助金	助成金(協賛金、共同募金、財団助成金など)	寄付金(個人・企業から)	借入金	その他	無回答	合計
保健医療福祉	23 (9.7%)	103 (43.5%)	47 (19.8%)	5 (2.1%)	24 (10.1%)	10 (4.2%)	7 (3%)	6 (2.5%)	8 (3.4%)	4 (1.7%)	237
社会教育	15 (31.9%)	15 (31.9%)	7 (14.9%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (2.1%)	5 (10.6%)	0 (0%)	3 (6.4%)	1 (2.1%)	47
まちづくり	15 (18.5%)	18 (22.2%)	21 (25.9%)	3 (3.7%)	6 (7.4%)	4 (4.9%)	10 (12.3%)	1 (1.2%)	2 (2.5%)	1 (1.2%)	81
学芸文スポ	35 (39.3%)	20 (22.5%)	17 (19.1%)	6 (6.7%)	2 (2.2%)	3 (3.4%)	2 (2.2%)	2 (2.2%)	1 (1.1%)	1 (1.1%)	89
環境の保全	26 (25.2%)	20 (19.4%)	17 (16.5%)	5 (4.9%)	5 (4.9%)	19 (18.4%)	3 (2.9%)	4 (3.9%)	3 (2.9%)	1 (1%)	103
災害救援	2 (66.7%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (33.3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3
地域安全	5 (41.7%)	0 (0%)	1 (8.3%)	1 (8.3%)	1 (8.3%)	1 (8.3%)	2 (16.7%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (8.3%)	12
人権擁護平和	4 (66.7%)	0 (0%)	1 (16.7%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (16.7%)	6
国際協力	3 (30%)	1 (10%)	3 (30%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (20%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (10%)	10
男女共同参画	0 (0%)	1 (14.3%)	5 (71.4%)	1 (14.3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	7
子どもの健全育成	19 (23.8%)	23 (28.8%)	16 (20%)	0 (0%)	4 (5%)	9 (11.3%)	6 (7.5%)	1 (1.3%)	1 (1.3%)	1 (1.3%)	80
情報化社会	3 (37.5%)	0 (0%)	3 (37.5%)	1 (12.5%)	1 (12.5%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	8
科学技術	2 (40%)	1 (20%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (20%)	1 (20%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	5
経済活動	3 (33.3%)	2 (22.2%)	3 (33.3%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (11.1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	9
職業能力	3 (18.8%)	4 (25%)	1 (6.3%)	4 (25%)	2 (12.5%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (6.3%)	1 (6.3%)	16
消費者	3 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (16.7%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	0 (0%)	0 (0%)	6
連絡	3 (21.4%)	3 (21.4%)	6 (42.9%)	0 (0%)	1 (7.1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (7.1%)	0 (0%)	14
無回答	2 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2
合計	166 (22.6%)	211 (28.7%)	148 (20.1%)	27 (3.7%)	46 (6.3%)	49 (6.7%)	40 (5.4%)	15 (2%)	20 (2.7%)	13 (1.8%)	735

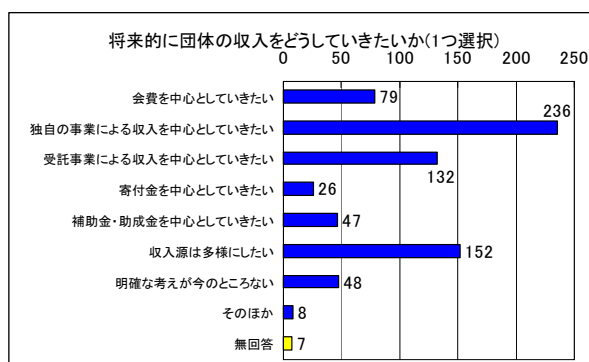
問7. 将来的な収入の展望

あなたの団体は、将来的に団体の収入をどのように確保したいとお考えですか。該当するものを1つ選び、その番号に○をつけてください。

『独自の事業による収入を中心としていきたい』が最も多く236(32.1%)、次いで『収入源は多様にしたい』152(20.7%)、『受託事業による収入を中心としていきたい』132(18.0%)、『会費を中心としていきたい』79(10.7%)の順となっている。『寄付金を中心としていきたい』は26(3.5%)となった。

『そのほか』については、「一つに絞れない」との回答が多かった。

平成18年調査と比べると、『会費を中心としていきたい』が、20.5%→10.7%と減って、代わりに『受託事業による収入を中心としていきたい』が10.4%→18.0%、『独自の事業による収入を中心としていきたい』も27.5%→32.1%と増えている。前回調査が任意団体を含んでいる(24.6%)にしても、意味のある変化に思える。(表Ⅲ-7-1)



表Ⅲ-7-1 「将来的な財源の展望」平成18年調査結果との比較

	平成18年		平成22年	
	団体数	割合	法人数	割合
会費を中心としていきたい	71	(20.5%)	79	(10.7%)
独自の事業による収入を中心としていきたい	95	(27.5%)	236	(32.1%)
受託事業による収入を中心としていきたい	36	(10.4%)	132	(18.0%)
寄付金を中心としていきたい	7	(2.0%)	26	(3.5%)
補助金・助成金を中心としていきたい	26	(7.5%)	47	(6.4%)
収入源は多様にしたい	76	(22.0%)	152	(20.7%)
明確な考えが今のところない	22	(6.4%)	48	(6.5%)
そのほか	5	(1.4%)	8	(1.1%)
無回答	8	(2.3%)	7	(1.0%)
基数	346		735	

活動分野別でみると、『会費を中心としていきたい』は、「学問、文化、芸術、スポーツ」、「消費者」(同数で『収入源は多様にしたい』)で最も多い。

『独自の事業による収入を中心としていきたい』は、「保健医療福祉」、「社会教育」、「まちづくり」、「環境の保全」、「国際協力」(同数で『受託事業による収入を中心としていきたい』)、「子どもの健全育成」、「情報化社会」、「経済活動」で最も多かった。

『受託事業による収入を中心としていきたい』は「男女共同参画」、「国際協力」(同数で『独自の事業による収入を中心としていきたい』)で最も多かった。

『寄付金を中心としていきたい』は、「災害救援」で最も多かった。

『補助金・助成金を中心としていきたい』は、「科学技術」で最も多かった。

『収入源は多様にしたい』は、「地域安全」、「人権擁護平和」、「職業能力」、「消費者」(同数で『会費を中心としていきたい』)、「連絡」で最も多かったほか、「子どもの健全育成」でも『独自の事業…』とほぼ同数だった。なお『明確な考えが今のところない』は、「社会教育」での第2位で、10(21.3%)となっている。(表Ⅲ-7)

表Ⅲ-7 主な活動分野 と 将来的に団体の収入をどのように確保したいか

上段:法人数, 下段:%

	会費を中心としていき たい	独自の事業による収入 を中心としていきたい	受託事業による収入を 中心としていきたい	寄付金を中心としてい きたい	補助金・助成金を中心 としていきたい	収入源は多様にしたい	明確な考えが今のとこ ろない	その他	無回答	合計
保健医療福祉	15 (6.3%)	100 (42.2%)	48 (20.3%)	4 (1.7%)	13 (5.5%)	40 (16.9%)	12 (5.1%)	2 (0.8%)	3 (1.3%)	237
社会教育	4 (8.5%)	15 (31.9%)	5 (10.6%)	4 (8.5%)	2 (4.3%)	6 (12.8%)	10 (21.3%)	1 (2.1%)	0 (0%)	47
まちづくり	5 (6.2%)	26 (32.1%)	18 (22.2%)	4 (4.9%)	3 (3.7%)	20 (24.7%)	4 (4.9%)	1 (1.2%)	0 (0%)	81
学芸スポ	22 (24.7%)	18 (20.2%)	18 (20.2%)	1 (1.1%)	5 (5.6%)	18 (20.2%)	6 (6.7%)	0 (0%)	1 (1.1%)	89
環境の保全	7 (6.8%)	38 (36.9%)	15 (14.6%)	1 (1%)	10 (9.7%)	23 (22.3%)	9 (8.7%)	0 (0%)	0 (0%)	103
災害救援	1 (33.3%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (66.7%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3
地域安全	2 (16.7%)	1 (8.3%)	1 (8.3%)	2 (16.7%)	0 (0%)	5 (41.7%)	1 (8.3%)	0 (0%)	0 (0%)	12
人権擁護平和	1 (16.7%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (16.7%)	2 (33.3%)	0 (0%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	6
国際協力	1 (10%)	3 (30%)	3 (30%)	2 (20%)	0 (0%)	1 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	10
男女共同参画	1 (14.3%)	0 (0%)	4 (57.1%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (28.6%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	7
子どもの健全育成	12 (15%)	20 (25%)	13 (16.3%)	4 (5%)	8 (10%)	19 (23.8%)	3 (3.8%)	1 (1.3%)	0 (0%)	80
情報化社会	2 (25%)	4 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (12.5%)	1 (12.5%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	8
科学技術	0 (0%)	1 (20%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (40%)	1 (20%)	1 (20%)	0 (0%)	0 (0%)	5
経済活動	2 (22.2%)	3 (33.3%)	2 (22.2%)	0 (0%)	1 (11.1%)	1 (11.1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	9
職業能力	1 (6.3%)	2 (12.5%)	2 (12.5%)	0 (0%)	0 (0%)	7 (43.8%)	1 (6.3%)	2 (12.5%)	1 (6.3%)	16
消費者	2 (33.3%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (33.3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	6
連絡	1 (7.1%)	3 (21.4%)	2 (14.3%)	1 (7.1%)	1 (7.1%)	4 (28.6%)	1 (7.1%)	0 (0%)	1 (7.1%)	14
無回答	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2
合計	79 (10.7%)	236 (32.1%)	132 (18%)	26 (3.5%)	47 (6.4%)	152 (20.7%)	48 (6.5%)	8 (1.1%)	7 (1%)	735

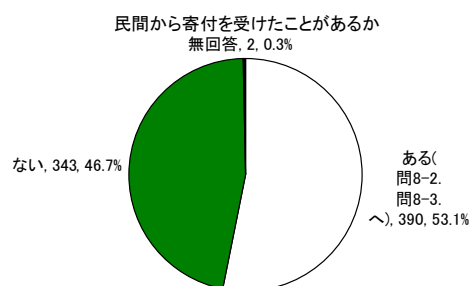
問8. 民間からの寄付経験

これまでに民間から寄付を受けたことがありますか。(会員からの会費、参加料以外の入金を含む)

『ある』が 390 (53.1%)、『ない』が 343 (46.7%)となった。

主な活動分野でみると、『ある』は、「災害救援」100%、「男女共同参画」85.7%、「人権擁護平和」と「消費者」66.7%、「連絡」64.3%、「保健医療福祉」60.3%となった。

逆に「情報化社会」(87.5%)、「科学技術」(80%)、「経済活動」(77.8%)で、『ない』の比率が他の分野に比べ高かった。(表Ⅲ-8)



表Ⅲ-8 主な活動分野 と 民間から寄付を受けたことがあるか

上段: 法人数, 下段: %

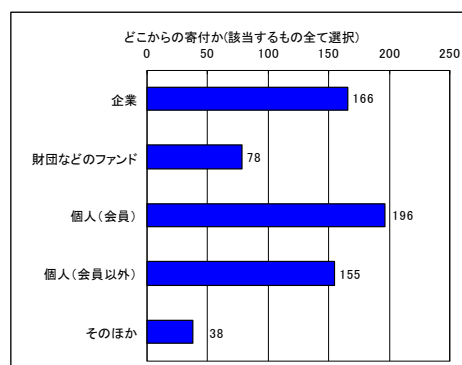
	ある	ない	無回答	合計
保健医療福祉	143 (60.3%)	93 (39.2%)	1 (0.4%)	237
社会教育	19 (40.4%)	28 (59.6%)	0 (0%)	47
まちづくり	35 (43.2%)	46 (56.8%)	0 (0%)	81
学芸芸スポ	51 (57.3%)	38 (42.7%)	0 (0%)	89
環境の保全	53 (51.5%)	50 (48.5%)	0 (0%)	103
災害救援	3 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	3
地域安全	6 (50%)	6 (50%)	0 (0%)	12
人権擁護平和	4 (66.7%)	2 (33.3%)	0 (0%)	6
国際協力	6 (60%)	4 (40%)	0 (0%)	10
男女共同参画	6 (85.7%)	1 (14.3%)	0 (0%)	7
子どもの健全育成	39 (48.8%)	41 (51.3%)	0 (0%)	80
情報化社会	1 (12.5%)	7 (87.5%)	0 (0%)	8
科学技術	1 (20%)	4 (80%)	0 (0%)	5
経済活動	2 (22.2%)	7 (77.8%)	0 (0%)	9
職業能力	7 (43.8%)	8 (50%)	1 (6.3%)	16
消費者	4 (66.7%)	2 (33.3%)	0 (0%)	6
連絡	9 (64.3%)	5 (35.7%)	0 (0%)	14
無回答	1 (50%)	1 (50%)	0 (0%)	2
合計	390 (53.1%)	343 (46.7%)	2 (0.3%)	735

問 8-2. 寄付の提供者

それはどこ（誰）からの寄付ですか。該当するものをすべて選び、その番号に○をつけてください。

『個人(会員)』196 が最も多く、次いで『企業』166、『個人(会員以外)』155、『財団などのファンド』78 となっている。『財団などのファンド』の寄付の中には「助成」を寄付と錯誤しているものがある可能性もある。

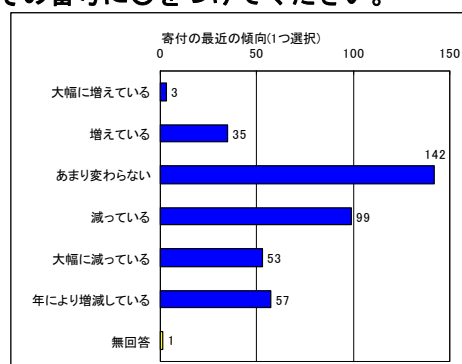
『そのほか』には「NPO など各種団体や法人」をあげた回答の他、「共同募金」をあげたものもあった。



問 8-3. 寄付金額の最近の傾向

最近の傾向はいかがですか。該当するものを1つ選び、その番号に○をつけてください。

『あまり変わらない』が 142 (36.4%) と最も多かった。次いで、『減っている』99 (25.4%)、『年により増減している』57 (14.6%)、『大幅に減っている』53 (13.6%)、『増えている』35 (9.0%)、『大幅に増えている』3 (0.8%) となった。



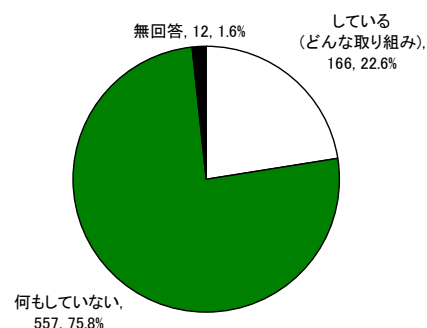
問 9. 寄付を募る取り組み

寄付を募る取り組みをしていますか。

『している』が 166 (22.6%)、『何もしていない』が 557 (75.8%) となった。

具体的な取り組みとしては、「お願い・呼びかけ」33 が最も多かった。(表Ⅲ-9)

寄付を募る取り組みをしているか



表Ⅲ-9 寄付を募る取り組みの内容

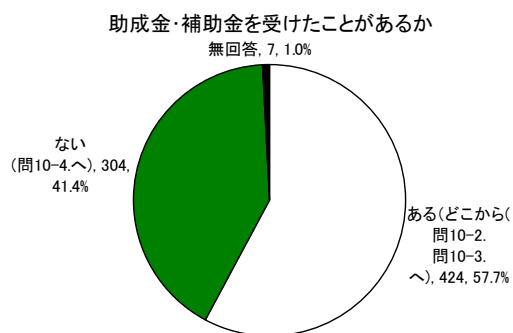
お願い・呼びかけ	33
広報紙・チラシなどで	17
イベントで	15
賛助会員などの募集	12
インターネットで	9
公募に申請	8
お願い文の送付	7
その他広報活動	5
寄付・募金	5
会員関係から	5
募金箱	5
啓発活動を通して	2
広告協賛	2
社協の広報誌を使って	1
広告で呼びかけ	1
企業協賛	1
その他	14

問 10. 助成金・補助金の経験

これまでに助成金・補助金を受けたことがありますか。

『ある』が 424(57.7%)、『ない』は 304(41.4%)となった。

助成金、補助金の提供先については、訪問時のヒアリングで得た回答によると、行政関係が 196 と最も多く、次いで「財団・社团」58、「基金」35 などとなっている。(表Ⅲ-10)



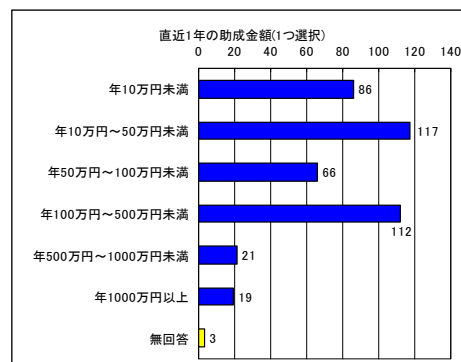
表Ⅲ-10 どこから助成金・補助金を受けたか

行政(国・県・市・町・など)	196
財団・社团	58
基金	35
社会福祉協議会	14
独立行政法人	14
組合・協会・自治会など	14
企業	14
環境関係の基金など	11
雇用・就労・労働	9
金融機関	7
スポーツ関係団体	7
医療関係団体	5
教育委員会など	5
その他	15
計	392

問 10-2. 直近の一年での助成金・補助金の金額。

直近の一年での金額はいくらくらいですか。該当するものを1つ選び、その番号に○をつけてください。

『年 10 万円～50 万円未満』が 117 (27.6%)と最も多く、次いで『年 100 万円～500 万円未満』112(26.4%)、『年 10 万円未満』86(20.3%)、『年 50 万円～100 万円未満』66(15.6%)と続く。『年 1000 万円以上』を受けている法人も 19(4.5%)あった。

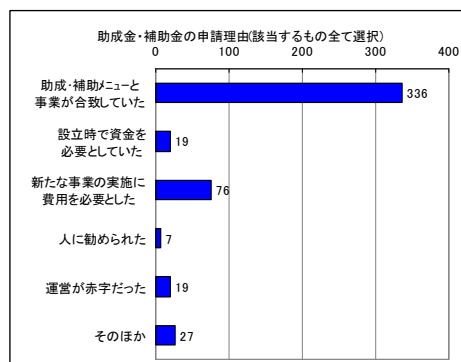


問 10-3. 助成金・補助金の申請理由

受けた理由は何ですか。該当するものをすべて選び、その番号に○をつけてください。

『助成・補助メニューと事業が合致していた』が 336 と最も多く、次いで『新たな事業の実施に費用を必要とした』76、『設立時に資金を必要としていた』19、『運営が赤字だった』19となっている。

『その他』では「人材確保のため」との回答が3件あった。



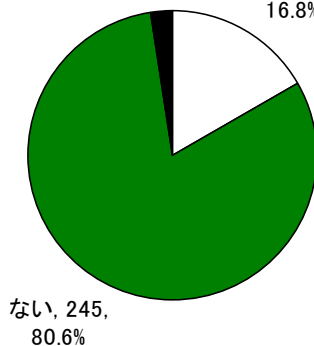
問 10-4. 助成金・補助金の未受給法人の申請経験
助成金・補助金の申請をしたことはありますか。

受給していない法人のうち、申請した経験が『ある』は 51(16.8%)、『ない』は 245(80.6%)となった。

『ない』法人の数は、今回調査に回答した全法人の 33.3%にあたる。

助成金・補助金の申請をしたことがあるか
(今までに受けたことが無い団体限定)

無回答, 8, 2.6%
ある, 51, 16.8%



◆不採用理由、未申請理由

申請したのに助成金・補助金が得られなかった理由(1. とお答えになった方)、あるいは申請しなかった理由(2. とお答えになった方)は何ですか。

「申請したが得られなかった」44 法人から回答が得られた。採否の理由が申請先から公開されないことも多いため、「理由不明」としたものが 17 あった。具体的な回答としては「実績不足」をあげるもの、「先方の理解が得られなかった」とするものがあった。(表Ⅲ10-4-1)

「申請しなかった」157 法人から回答が得られた。内容は、「手続きやシステムがよくわからない」、「助成・補助メニューの中に、活動にあったものがない」などだった。(表Ⅲ10-4-2)

表Ⅲ10-4-1 申請したのに補助金・助成金を得られなかった理由

理由不明と記述に明示	17
実績不足・反省点有り	12
理由不明(経緯などの回答)	9
応募多数	3
記述内容意味不明	3
計	44

表Ⅲ10-4-2 申請しなかった理由

助成・補助メニューの中に、活動にあったものがない	31
時期でない、資格がない	23
手続きやシステムがよくわからない	21
必要がない	20
他に財源がある	16
手続きが面倒	12
補助金・助成金は欲しくない	9
時間が無い・手が回らない	5
検討中	4
もらえる事が期待できない	3
その他	13
計	157

問 11. 現在の借入金
現在、借入金はありますか。

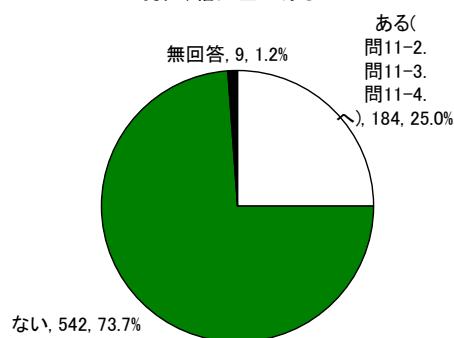
『ある』は 184(25.0%)、『ない』は 542(73.7%)となった。

主な活動分野でみると、『ある』の件数では「保健医療福祉」の 97 が最も多く、割合では「消費者」の 50%が最も多い。「災害救援」、「人権擁護平和」、「情報化社会」の4分野は、『ある』が0となっている。(表Ⅲ-11、図Ⅲ-11)

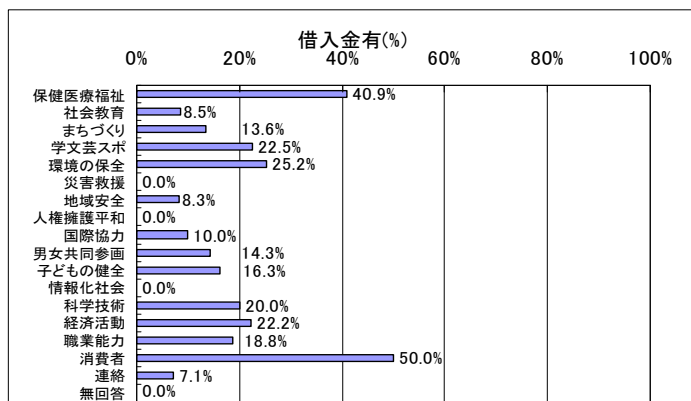
表Ⅲ-11 主な活動分野と借入金の有無

	上段：法人数，下段：%			合計
	有	無	無回答	
保健医療福祉	97 (40.9%)	135 (57%)	5 (2.1%)	237
社会教育	4 (8.5%)	43 (91.5%)	0 (0%)	47
まちづくり	11 (13.6%)	69 (85.2%)	1 (1.2%)	81
学文芸スポ	20 (22.5%)	69 (77.5%)	0 (0%)	89
環境の保全	26 (25.2%)	77 (74.8%)	0 (0%)	103
災害救援	0 (0%)	3 (100%)	0 (0%)	3
地域安全	1 (8.3%)	11 (91.7%)	0 (0%)	12
人権擁護平和	0 (0%)	6 (100%)	0 (0%)	6
国際協力	1 (10%)	9 (90%)	0 (0%)	10
男女共同参画	1 (14.3%)	6 (85.7%)	0 (0%)	7
子どもの健全育成	13 (16.3%)	67 (83.8%)	0 (0%)	80
情報化社会	0 (0%)	8 (100%)	0 (0%)	8
科学技術	1 (20%)	4 (80%)	0 (0%)	5
経済活動	2 (22.2%)	7 (77.8%)	0 (0%)	9
職業能力	3 (18.8%)	11 (68.8%)	2 (12.5%)	16
消費者	3 (50%)	3 (50%)	0 (0%)	6
連絡	1 (7.1%)	13 (92.9%)	0 (0%)	14
無回答	0 (0%)	1 (50%)	1 (50%)	2
合計	184 (25%)	542 (73.7%)	9 (1.2%)	735

現在、借入金があるか



図Ⅲ-11 主な活動分野と借入金

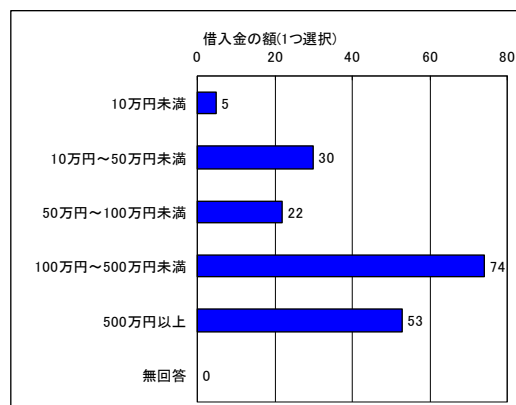


問 11-2. 借入れの金額

その金額はいくらくらいですか。該当するものを1つ選び、その番号に○をつけてください。

『100万円～500万円未満』が74(40.2%)と最も多く、次いで『500万円以上』が53(28.8%)、『10万円～50万円未満』30(16.3%)の順となっている。

活動分野別でみると、『500万円以上』は、「保健医療福祉」42 が圧倒的に多く、次いで「学問・文化・スポーツ」6、「環境の保全」3、「社会教育」1、「消費者」1となっている。(表Ⅲ-11-2)



表Ⅲ-11-2 主な活動分野 と 借入金額

上段: 法人数, 下段: %

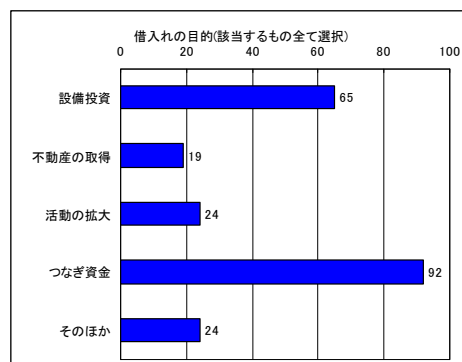
	10万円未満	10万円～50万円未満	50万円～100万円未満	100万円～500万円未満	500万円以上	合計
保健医療福祉	2 (2.1%)	10 (10.3%)	6 (6.2%)	37 (38.1%)	42 (43.3%)	97
社会教育	0 (0%)	2 (50%)	1 (25%)	0 (0%)	1 (25%)	4
まちづくり	1 (9.1%)	3 (27.3%)	2 (18.2%)	5 (45.5%)	0 (0%)	11
学芸スポ	0 (0%)	2 (10%)	4 (20%)	8 (40%)	6 (30%)	20
環境の保全	1 (3.8%)	6 (23.1%)	4 (15.4%)	12 (46.2%)	3 (11.5%)	26
災害救援	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0
地域安全	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	1
人権擁護平和	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0
国際協力	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	1
男女共同参画	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1
子どもの健全育成	1 (7.7%)	4 (30.8%)	2 (15.4%)	6 (46.2%)	0 (0%)	13
情報化社会	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0
科学技術	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	1
経済活動	0 (0%)	0 (0%)	1 (50%)	1 (50%)	0 (0%)	2
職業能力	0 (0%)	2 (66.7%)	0 (0%)	1 (33.3%)	0 (0%)	3
消費者	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (66.7%)	1 (33.3%)	3
連絡	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	1
無回答	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0
合計	5 (2.7%)	30 (16.3%)	22 (12%)	74 (40.2%)	53 (28.8%)	184

問 11-3. 借入れの目的

借入れの目的は何ですか。該当するものをすべて選び、その番号に○をつけてください。

『つなぎ資金』が 92 と最も多く、次いで『設備投資』65、
『活動の拡大』24 と続いた。『そのほか』では、「運転・運営資
金」が4、「設立資金」3の複数回答があった。

活動分野別でみると、借り入れのある法人数の多い「保健
医療福祉」で『設備投資』が 47、『つなぎ資金』が 45 の同数
となっている。(表Ⅲ-11-3)



表Ⅲ-11-3 主な活動分野 と 借り入れの目的

上段: 法人数, 下段: %

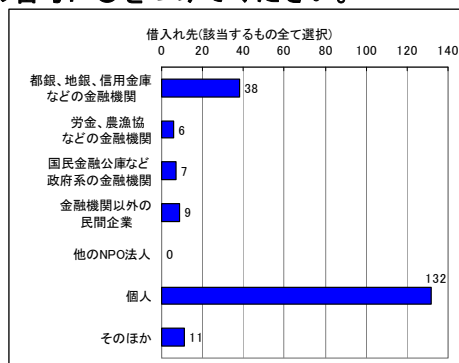
	設備投資	不動産の取得	活動の拡大	つなぎ資金	そのほか	合計
保健医療福祉	47 (35.9%)	17 (13%)	13 (9.9%)	45 (34.4%)	9 (6.9%)	131
社会教育	0 (0%)	0 (0%)	1 (25%)	3 (75%)	0 (0%)	4
まちづくり	2 (14.3%)	0 (0%)	2 (14.3%)	9 (64.3%)	1 (7.1%)	14
学芸スポ	4 (20%)	1 (5%)	1 (5%)	10 (50%)	4 (20%)	20
環境の保全	7 (25%)	0 (0%)	6 (21.4%)	9 (32.1%)	6 (21.4%)	28
災害救援	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0
地域安全	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1
人権擁護平和	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0
国際協力	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	1
男女共同参画	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	1
子どもの健全育成	1 (7.1%)	1 (7.1%)	1 (7.1%)	8 (57.1%)	3 (21.4%)	14
情報化社会	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0
科学技術	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	1
経済活動	1 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	2
職業能力	2 (66.7%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (33.3%)	0 (0%)	3
消費者	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (66.7%)	1 (33.3%)	3
連絡	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	1
合計	65 (29%)	19 (8.5%)	24 (10.7%)	92 (41.1%)	24 (10.7%)	224

問 11-4. 借入れ先

借入れ先はどこですか。該当するものをすべて選び、その番号に○をつけてください。

『個人』が 132 と最も多く、次いで『都銀、地銀、信用金庫などの金融機関』が 38 だった。『そのほか』11 では、金融機関や企業など、選択肢に含まれない団体などが挙げられている。I では、「法人化により信用が増した」との回答が多かったが、借入れ先は、「金融機関」より「個人」の方が多く結果となった。

主な活動分野でみると、『国民金融公庫など政府系の金融機関』は、7 件すべてが「保健医療福祉」となっている。『都銀、地銀、信用金庫などの金融機関』も、『労金、農漁協などの金融機関』も「保健医療福祉」が中心となっている。



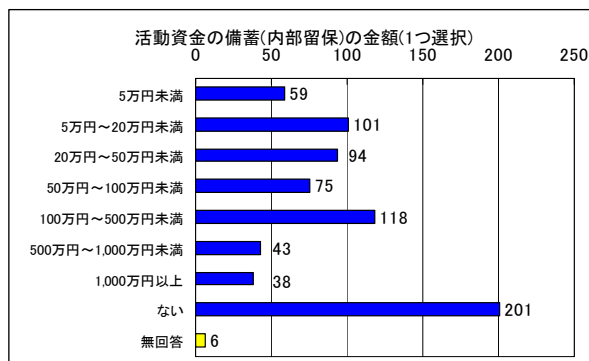
表Ⅲ-11-4 主な活動分野 と 借入れ先 (複数回答) 上段: 法人数, 下段: %

活動分野	都銀、地銀、信用金庫などの金融機関	労金、農漁協などの金融機関	国民金融公庫など政府系の金融機関	金融機関以外の民間企業	他のNPO法人	個人	そのほか	合計
保健医療福祉	30 (25.4%)	4 (3.4%)	7 (5.9%)	5 (4.2%)	0 (0%)	65 (51.1%)	7 (5.9%)	118
社会教育	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	4 (100%)	0 (0%)	4
まちづくり	2 (18.2%)	1 (9.1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	7 (63.6%)	1 (9.1%)	11
学芸文スポ	2 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (5%)	0 (0%)	16 (80%)	1 (5%)	20
環境の保全	2 (7.7%)	1 (3.8%)	0 (0%)	1 (3.8%)	0 (0%)	21 (80.8%)	1 (3.8%)	26
災害救援	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0
地域安全	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	1
人権擁護平和	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0
国際協力	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	1
男女共同参画	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	1
子どもの健全育成	1 (7.7%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (7.7%)	0 (0%)	11 (84.6%)	0 (0%)	13
情報化社会	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0
科学技術	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	1
経済活動	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (50%)	1 (50%)	2
職業能力	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (33.3%)	0 (0%)	2 (66.7%)	0 (0%)	3
消費者	1 (33.3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (66.7%)	0 (0%)	3
連絡	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	1
合計	38 (18.5%)	6 (2.9%)	7 (3.4%)	9 (4.4%)	0 (0%)	134 (65.4%)	11 (5.4%)	205

問 12. 活動資金の備蓄

現在、活動資金の備蓄(内部留保)はありますか。該当するものを1つ選び、その番号に○をつけてください。

『ない』が201(27.3%)と最も多く、次いで『100万円～500万円未満』が118(16.1%)、『5万円～20万円未満』101(13.7%)、『20万円～50万円未満』94(12.8%)、『50万円～100万円未満』75(10.2%)の順となっている。

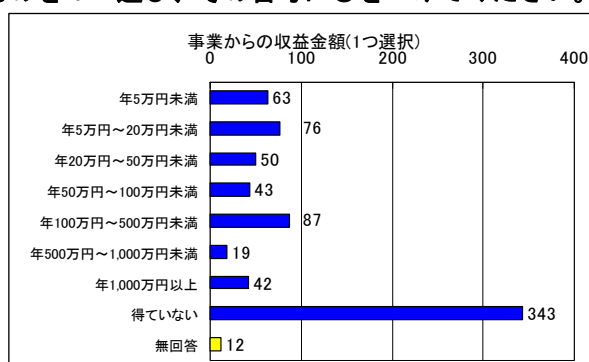


問 13. 事業からの収益

実施した事業から収益を得ていますか。該当するものを1つ選び、その番号に○をつけてください。

『得ていない』との回答が343(46.7%)と最も多く、次いで『年100万円～500万円未満』が87(11.8%)、『年5万円～20万円未満』76(10.3%)、『年5万円未満』63(8.6%)の順となっているが、『年1000万円以上』の収益を上げている法人も42(5.7%)あった。

なお『得ていない』法人のうち7法人が、前問で『1000万円以上』の内部留保があると回答している。

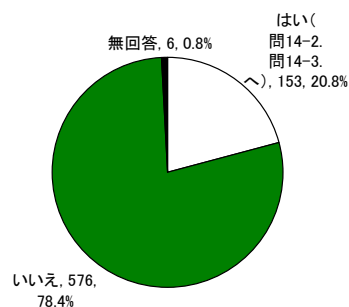


問 14. 直近の決算での赤字の発生

直近の決算で赤字が発生しましたか。

『いいえ』との回答が576(78.4%)と4分の3以上を占めるのに対し、『はい』は153(20.8%)とほぼ2割の法人が赤字となっている。

直近の決算で赤字が発生したか



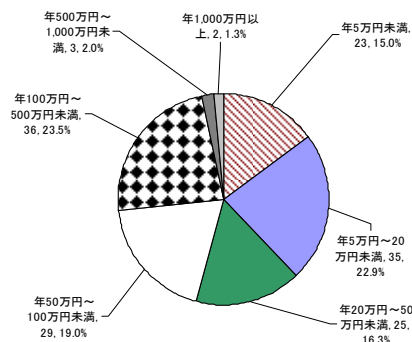
問 14-2. 赤字の年額

その金額は年どのくらいですか。該当するものを1つ選び、その番号に○をつけてください。

『年 100 万円～500 万円未満』36 (23.5%)、『年 5 万円～20 万円未満』35 (22.9%)、『年 50 万円～100 万円未満』29 (19.0%) の順となっているが、『年 500 万円～1000 万円未満』3 (2.0%) と『年 1000 万円以上』2 (1.3%) と高額な赤字の法人もあった。

活動分野別にみると、『年 500 万円～1000 万円未満』以上の5つは、すべて「保健医療福祉」となった。「社会教育」、「まちづくり」、「学芸スポーツ」、「環境の保全」、「子どもの健全育成」、「消費者」は、『年 100 万円～500 万円未満』以下となった。「災害救援」、「経済活動」、「職業能力」は『年 50 万円～100 万円未満』以下、「人権擁護」、「国際協力」、「連絡」は『年 5 万円～20 万円未満』以下、「地域安全」、「男女共同参画」、「科学技術」は、赤字の法人自体がなかった。(表Ⅲ-14-2)

直近一年間での赤字額(1つ選択)



表Ⅲ-14-2 主な活動分野 と 赤字金額

上段: 法人数, 下段: %

	年5万円未満	年5万円～20万円未満	年20万円～50万円未満	年50万円～100万円未満	年100万円～500万円未満	年500万円～1,000万円未満	年1,000万円以上	合計
保健医療福祉	7 (12.5%)	10 (17.9%)	4 (7.1%)	14 (25%)	16 (28.6%)	3 (5.4%)	2 (3.6%)	56
社会教育	2 (22.2%)	3 (33.3%)	2 (22.2%)	0 (0%)	2 (22.2%)	0 (0%)	0 (0%)	9
まちづくり	2 (18.2%)	4 (36.4%)	0 (0%)	3 (27.3%)	2 (18.2%)	0 (0%)	0 (0%)	11
学芸スポ	4 (18.2%)	3 (13.6%)	6 (27.3%)	4 (18.2%)	5 (22.7%)	0 (0%)	0 (0%)	22
環境の保全	5 (22.7%)	6 (27.3%)	6 (27.3%)	2 (9.1%)	3 (13.6%)	0 (0%)	0 (0%)	22
災害救援	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1
地域安全	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0
人権擁護平和	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1
国際協力	0 (0%)	2 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2
男女共同参画	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0
子どもの健全育成	3 (17.6%)	4 (23.5%)	2 (11.8%)	2 (11.8%)	6 (35.3%)	0 (0%)	0 (0%)	17
情報化社会	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1
科学技術	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0
経済活動	0 (0%)	0 (0%)	2 (66.7%)	1 (33.3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3
職業能力	0 (0%)	0 (0%)	2 (50%)	2 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	4
消費者	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	2
連絡	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1
無回答	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1
合計	23 (15%)	35 (22.9%)	25 (16.3%)	29 (19%)	36 (23.5%)	3 (2%)	2 (1.3%)	153

問 14-3. 赤字の主な原因

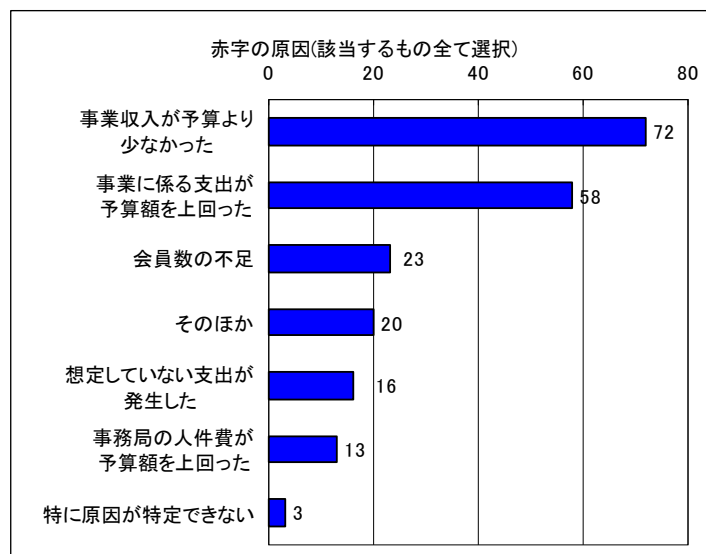
赤字となった主な原因は何ですか。該当するものをすべて選び、その番号に○をつけてください

赤字の主な原因としては、『事業収入が予算より少なかった』との回答が72(35.1%)で最も多く、次いで『事業に係る支出が予算額を上回った』58(28.3%)、『会員数の不足』23(11.2%)の順となっている。事業の計画と実際の運営に乖離があったことが赤字発生の大きな要因であることがわかる。

『そのほか』では事業や設備への投資、会費の未回収などがあげられている。

活動分野別にみると、赤字法人数の多いものでみると、最も多い「保健医療福祉」で26(33.8%)、赤字法人数3位の「環境保全」10(35.7%)、4位の「子どもの健全育成」11(42.3%)で、『事業収入が予算より少なかった』が赤字の原因として最も多くあげられた。

『事業に係る支出が予算額を上回った』が最も多かったのは、赤字法人数2位の「学芸スポ」で13(43.3%)あった。(表Ⅲ-14-3)



表Ⅲ-14-3 主な活動分野 と 赤字の原因 (複数回答)

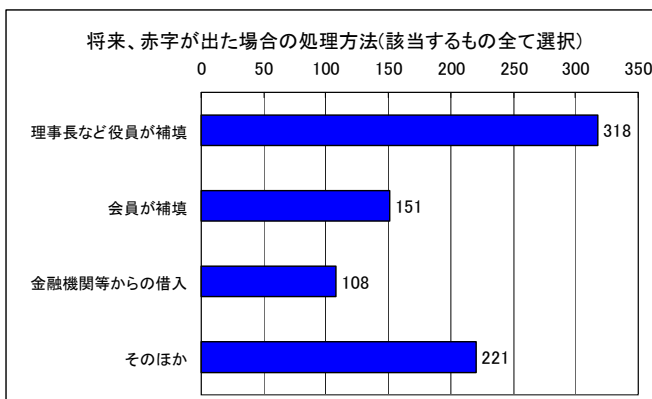
上段:法人数,下段:%

	会員数の 不足	事業収入 が予算 より少な かった	事業に係 る支出が 予算額を 上回った	事務局の 人件費が 予算額を 上回った	想定してい ない支出 が発生した	その他	特に原因が 特定できな い	合計
保健医療福祉	8 (10.4%)	26 (33.8%)	18 (23.4%)	10 (13%)	5 (6.5%)	8 (10.4%)	2 (2.6%)	77
社会教育	2 (15.4%)	4 (30.8%)	4 (30.8%)	1 (7.7%)	1 (7.7%)	1 (7.7%)	0 (0%)	13
まちづくり	0 (0%)	4 (36.4%)	3 (27.3%)	1 (9.1%)	1 (9.1%)	2 (18.2%)	0 (0%)	11
学文芸スポ	4 (13.3%)	10 (33.3%)	13 (43.3%)	0 (0%)	2 (6.7%)	1 (3.3%)	0 (0%)	30
環境の保全	3 (10.7%)	10 (35.7%)	7 (25%)	0 (0%)	4 (14.3%)	3 (10.7%)	1 (3.6%)	28
災害救援	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0
地域安全	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0
人権擁護平和	0 (0%)	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	2
国際協力	1 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	2
男女共同参画	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0
子どもの健全育 成	3 (11.5%)	11 (42.3%)	8 (30.8%)	1 (3.8%)	1 (3.8%)	2 (7.7%)	0 (0%)	26
情報化社会	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	1
科学技術	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0
経済活動	1 (20%)	2 (40%)	1 (20%)	0 (0%)	1 (20%)	0 (0%)	0 (0%)	5
職業能力	0 (0%)	2 (50%)	2 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	4
消費者	1 (25%)	2 (50%)	1 (25%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	4
連絡	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1
無回答	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	1
合計	23 (11.2%)	72 (35.1%)	58 (28.3%)	13 (6.3%)	16 (7.8%)	20 (9.8%)	3 (1.5%)	205

問 15. 将来赤字が出た場合の処理方法。

今後、赤字が発生したらどのように処理する予定ですか。該当するものをすべて選び、その番号に○をつけてください。

現在赤字か否かに関わりなく、今後の赤字が発生した場合の処理方法については、『理事長など役員が補填』が 318 で最も多く、次いで『会員が補填』151、『金融機関等からの借入』108 となっている。この設問は、赤字が出た場合の処理を聞いているのだが、『そのほか』の内容では「赤字が出ないようにやっている」32をはじめ、「考えていない」など、「赤字が発生しないこと」を前提とした回答があわせて 60 あった。具体的な対処法としては、「内部留保をあてる」ケースが 14 で最も多かった。(表Ⅲ-15-1)



表Ⅲ-15-1 赤字処理の方法(そのほか)

赤字は出ないように活動している(赤字対応は検討不要)	32
赤字は出ない(赤字対応は検討不要)	28
未検討・わからない	27
内部留保をあてる	14
貯蓄を取り崩すなど	14
繰り越す	13
寄付でまかなう	11
解散	10
今後、検討していく	8
別部門などから補填	8
借り入れ	8
会費増額・報酬減額など	8
活動縮小	7
事業計画・運営の見直し	7
他団体などから補填	6
努力する	4
会員を増やすなど	3
基金より	2
そのほか	1
	211

活動分野別でみると『理事長など役員が補填』は、「保健医療」、「社会教育」、「まちづくり」、「学文芸スポ」、「環境の保全」、「人権擁護平和」、「国際協力」、「男女共同参画」、「子どもの健全育成」、「職業能力」で最多となった。『会員が補填』は、「災害救援」、「地域安全」、「情報化社会」、「科学技術」、「連絡」で最多となった。『経済活動』は『理事長など役員』と『会員』が同数、「消費者」では『そのほか』以外の回答に3分された。(表Ⅲ-15-2)

表Ⅲ-15-2 主な活動分野 と 今後の赤字処理予定

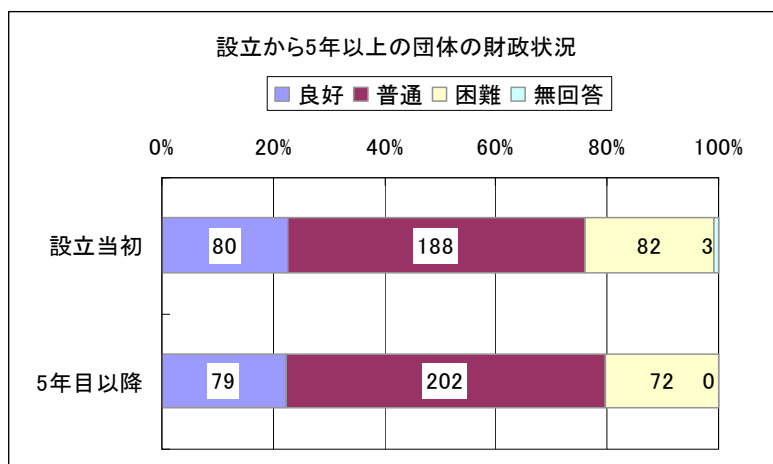
上段:法人数, 下段:%

	理事長など役員が 補填	会員が補填	金融機関等からの 借入	そのほか	合計
保健医療福祉	103 (39%)	22 (8.3%)	67 (25.4%)	72 (27.3%)	264
社会教育	19 (40.4%)	11 (23.4%)	3 (6.4%)	14 (29.8%)	47
まちづくり	34 (39.1%)	22 (25.3%)	7 (8%)	24 (27.6%)	87
学文芸スポ	41 (37.3%)	31 (28.2%)	12 (10.9%)	26 (23.6%)	110
環境の保全	47 (42.7%)	22 (20%)	6 (5.5%)	35 (31.8%)	110
災害救援	1 (33.3%)	2 (66.7%)	0 (0%)	0 (0%)	3
地域安全	3 (25%)	6 (50%)	1 (8.3%)	2 (16.7%)	12
人権擁護平和	2 (40%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (60%)	5
国際協力	3 (30%)	2 (20%)	0 (0%)	5 (50%)	10
男女共同参画	3 (37.5%)	2 (25%)	0 (0%)	3 (37.5%)	8
子どもの健全育成	40 (48.8%)	13 (15.9%)	4 (4.9%)	25 (30.5%)	82
情報化社会	2 (25%)	4 (50%)	0 (0%)	2 (25%)	8
科学技術	2 (40%)	3 (60%)	0 (0%)	0 (0%)	5
経済活動	3 (37.5%)	3 (37.5%)	0 (0%)	2 (25%)	8
職業能力	7 (43.8%)	0 (0%)	4 (25%)	5 (31.3%)	16
消費者	2 (33.3%)	2 (33.3%)	2 (33.3%)	0 (0%)	6
連絡	5 (31.3%)	6 (37.5%)	2 (12.5%)	3 (18.8%)	16
無回答	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1
合計	318 (39.8%)	151 (18.9%)	108 (13.5%)	221 (27.7%)	798

問 16. 設立後の時期別財政状況
 設立後の財政状況について、時期別にお答えください。

この設問は、経年変化を把握する目的だったが、記述もれも多かったので、設立5年以上の法人の「5年目以降」のデータを、その法人の「設立当初」と比較した。『良好』が 80(29.3%)→79(28.9%)、『普通』188(68.9%)→202(74.0%)、『困難』が 82(30.0%)→72(26.4%)となっている。

困難であった原因については、「設立当初」、「5年目以降」ともに「収入不足など」が最も多く、次いで「資金難・借入金など」、「会員・会費不足」など、順位の変動はない。(表Ⅲ-16-1)



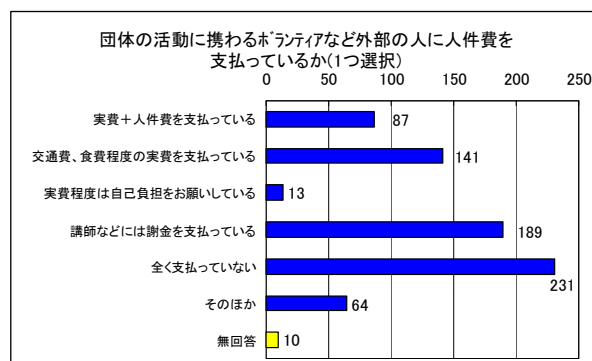
表Ⅲ-16-1 財政状況の困難の原因

	設立当初		5年目以降	
	法人数	割合	法人数	割合
収入不足など	34	(30.4%)	17	(31.5%)
資金難・借金など	26	(23.2%)	11	(20.4%)
会員・会費不足	21	(18.8%)	9	(16.7%)
人件費	9	(8.0%)	5	(9.3%)
実力不足	6	(5.4%)	3	(5.6%)
活動の縮小など	0	(1.8%)	2	(0.0%)
理解が得られない	3	(3.6%)	1	(3.7%)
そのほか	13	(10.7%)	6	(1.9%)
計(基数)	114		54	

問 17. 外部の人の人件費

団体の活動に携わるボランティアなど外部の人に人件費を支払っていますか。該当するものを1つ選び、その番号に○をつけてください。

『全く支払っていない』231(31.4%)が最も多く、次いで『講師などには謝金を支払っている』189(25.7%)、『交通費、食費程度の実費を支払っている』141(19.2%)、『実費+人件費を支払っている』87(11.8%)となっている。『そのほか』64(8.7%)については、「ボランティアがない」との回答が28あったほか、「ケースバイケース」、複数の回答にまたがるものなどがあったほか、「現物支給」も7あった。(表Ⅲ—17)



表Ⅲ—17 外部の人への人件費(そのほか)

外部の人が関わっていない	35
現物支給	7
場合による	6
謝金など	6
その他	4
記入なし	6
計	64

活動分野別にみると、『交通費、食費程度の実費を支払っている』が最も多いのは、「災害救援」66.7%、「学芸スポ」37.1%となっている。

『講師などには謝金を支払っている』が最も多いのは、「男女共同参画」42.9%、「科学技術」40% (『全く支払っていない』と同数)、「情報化社会」37.5% (『全く支払っていない』と同数)、「子どもの健全育成」、「国際協力」がともに30%、「保健医療福祉」29.1%、「連絡」28.6%となっている。

『全く支払っていない』は、「消費者」と「人権擁護平和」で66.7%、「経済活動」44.7%、「環境の保全」40.8%、「科学技術」40% (『講師などには…』と同数)、「情報化社会」37.5% (『講師などには…』と同数)、「社会教育」36.2%、「職業能力」31.3%、「連絡」28.6%、「まちづくり」28.4%で最も多かった。(表Ⅲ—17)

表Ⅲ-17 主な活動分野 と ボランティアなど外部の人に人件費を払っているか

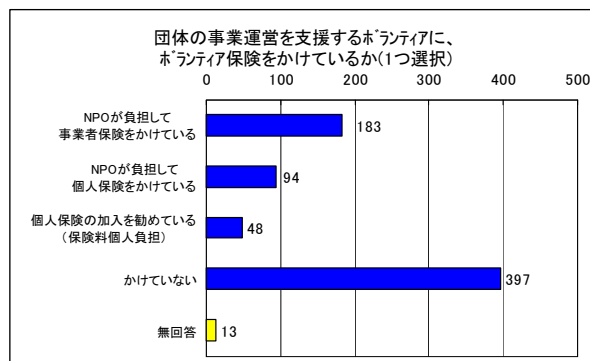
上段：法人数，下段：%

	実費+人件費を 支払っている	交通費、 食費程度の 実費を 支払っている	実費程度は 自己負担を お願いして いる	講師などに は 謝金を 支払っている	全く支払っ ていない	そのほか	無回答	合計
保健医療福祉	28 (11.8%)	40 (16.9%)	2 (0.8%)	69 (29.1%)	76 (32.1%)	20 (8.4%)	2 (0.8%)	237
社会教育	9 (19.1%)	6 (12.8%)	1 (2.1%)	10 (21.3%)	17 (36.2%)	4 (8.5%)	0 (0%)	47
まちづくり	10 (12.3%)	15 (18.5%)	1 (1.2%)	18 (22.2%)	23 (28.4%)	12 (14.8%)	2 (2.5%)	81
学芸芸スポ	6 (6.7%)	33 (37.1%)	1 (1.1%)	23 (25.8%)	17 (19.1%)	9 (10.1%)	0 (0%)	89
環境の保全	15 (14.6%)	10 (9.7%)	5 (4.9%)	21 (20.4%)	42 (40.8%)	7 (6.8%)	3 (2.9%)	103
災害救援	0 (0%)	2 (66.7%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (33.3%)	0 (0%)	0 (0%)	3
地域安全	0 (0%)	2 (16.7%)	0 (0%)	2 (16.7%)	6 (50%)	2 (16.7%)	0 (0%)	12
人権擁護平和	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (16.7%)	4 (66.7%)	1 (16.7%)	0 (0%)	6
国際協力	1 (10%)	2 (20%)	0 (0%)	3 (30%)	3 (30%)	1 (10%)	0 (0%)	10
男女共同参画	1 (14.3%)	2 (28.6%)	0 (0%)	3 (42.9%)	1 (14.3%)	0 (0%)	0 (0%)	7
子どもの健全育成	10 (12.5%)	23 (28.8%)	1 (1.3%)	24 (30%)	18 (22.5%)	3 (3.8%)	1 (1.3%)	80
情報化社会	0 (0%)	2 (25%)	0 (0%)	3 (37.5%)	3 (37.5%)	0 (0%)	0 (0%)	8
科学技術	0 (0%)	1 (20%)	0 (0%)	2 (40%)	2 (40%)	0 (0%)	0 (0%)	5
経済活動	2 (22.2%)	1 (11.1%)	0 (0%)	2 (22.2%)	4 (44.4%)	0 (0%)	0 (0%)	9
職業能力	1 (6.3%)	0 (0%)	1 (6.3%)	3 (18.8%)	5 (31.3%)	5 (31.3%)	1 (6.3%)	16
消費者	1 (16.7%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (16.7%)	4 (66.7%)	0 (0%)	0 (0%)	6
連絡	3 (21.4%)	2 (14.3%)	1 (7.1%)	4 (28.6%)	4 (28.6%)	0 (0%)	0 (0%)	14
無回答	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	1 (50%)	2
合計	87 (11.8%)	141 (19.2%)	13 (1.8%)	189 (25.7%)	231 (31.4%)	64 (8.7%)	10 (1.4%)	735

問 18. ボランティア保険

団体の事業運営を支援するボランティアに、ボランティア保険をかけていますか。該当するものを1つ選び、その番号に○をつけてください。

『かけていない』が 397 (54.0%) と最も多く半数を超えた。しかしⅡ問 22 の回答から、ボランティアの支援を多少でも受けて活動している法人は 319 あるので、その中で『かけていない』のは 139 (43.6%) となる。



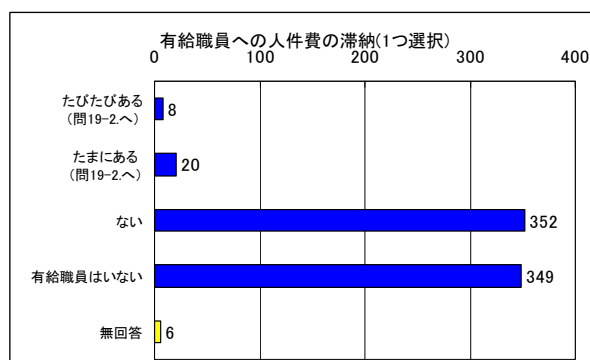
問 19. 人件費の支払遅延

有給職員への人件費の支払いが滞ったことはありますか。該当するものを1つ選び、その番号に○をつけてください。

『たまにある』は 20 (Ⅱの問1の回答結果による有給職員がいる380法人の5.3%)、『たびたびある』は8 (同2.1%) となった。『ない』は 352 (同 92.6%) となった。

活動分野別でみると『たびたびある』は、件数では「保健医療福祉」2 が最も多かった。『たまにある』は「保健医療福祉」10 が最も多かった。

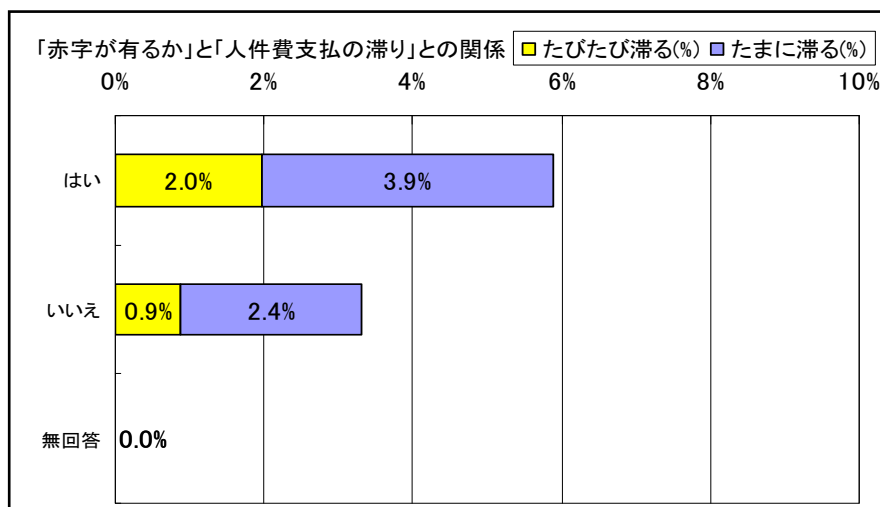
『有給職員がいない』の比率を活動分野別でみると、「災害救援」100%、「地域安全」75%、「環境の保全」70.9%、「社会教育」68.1%、「消費者」66.7% などとなった。



支払いが滞ったことが「ある」という枠で捕らえると、「ある」の割合では「連絡」の7.1%、「学芸スポ」の6.7%、「保健医療福祉」の5%が高かった。(表Ⅲ-19)

Ⅲ-14 の「直近の赤字の有無」と「人件費支払いの滞り」との関係を見ると、「赤字がある」法人で滞っているのは5.9%、「ない」法人では3.3%となった。(図Ⅲ-19、表Ⅲ-19-1)

図Ⅲ-19 直近の決算での赤字の有無(Ⅲ-14)と 有給職員への人件費支払の滞り



表Ⅲ-19 主な活動分野と有給職員への人件費の支払が滞ったことはあるか

上段：法人数，下段：%

	たびたびある	たまにある	ない	有給職員はいない	無回答	合計
保健医療福祉	2 (0.8%)	10 (4.2%)	152 (64.1%)	72 (30.4%)	1 (0.4%)	237
社会教育	1 (2.1%)	1 (2.1%)	13 (27.7%)	32 (68.1%)	0 (0%)	47
まちづくり	1 (1.2%)	1 (1.2%)	35 (43.2%)	42 (51.9%)	2 (2.5%)	81
学芸スポ	1 (1.1%)	5 (5.6%)	47 (52.8%)	36 (40.4%)	0 (0%)	89
環境の保全	1 (1%)	1 (1%)	28 (27.2%)	73 (70.9%)	0 (0%)	103
災害救援	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (100%)	0 (0%)	3
地域安全	0 (0%)	0 (0%)	3 (25%)	9 (75%)	0 (0%)	12
人権擁護平和	0 (0%)	0 (0%)	3 (50%)	3 (50%)	0 (0%)	6
国際協力	0 (0%)	0 (0%)	5 (50%)	5 (50%)	0 (0%)	10
男女共同参画	0 (0%)	0 (0%)	5 (71.4%)	2 (28.6%)	0 (0%)	7
子どもの健全育成	1 (1.3%)	2 (2.5%)	35 (43.8%)	42 (52.5%)	0 (0%)	80
情報化社会	0 (0%)	0 (0%)	4 (50%)	4 (50%)	0 (0%)	8
科学技術	0 (0%)	0 (0%)	1 (20%)	4 (80%)	0 (0%)	5
経済活動	0 (0%)	0 (0%)	4 (44.4%)	5 (55.6%)	0 (0%)	9
職業能力	0 (0%)	0 (0%)	8 (50%)	7 (43.8%)	1 (6.3%)	16
消費者	0 (0%)	0 (0%)	2 (33.3%)	4 (66.7%)	0 (0%)	6
連絡	1 (7.1%)	0 (0%)	7 (50%)	5 (35.7%)	1 (7.1%)	14
無回答	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (50%)	1 (50%)	2
合計	8 (1.1%)	20 (2.7%)	352 (47.9%)	349 (47.5%)	6 (0.8%)	735

表Ⅲ-19-1 直近の決算での赤字の有無(Ⅲ-14)と有給職員への人件費支払の滞り

上段：法人数，下段：%

	たびたびある	たまにある	ない	有給職員はいない	無回答	合計
はい	3 (2%)	6 (3.9%)	86 (56.2%)	58 (37.9%)	0 (0%)	153
いいえ	5 (0.9%)	14 (2.4%)	266 (46.2%)	288 (50%)	3 (0.5%)	576
無回答	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (50%)	3 (50%)	6
合計	8 (1.1%)	20 (2.7%)	352 (47.9%)	349 (47.5%)	6 (0.8%)	735

問 19-2. 人件費が滞った場合の対処法。

滞った場合、どのように対処していますか。具体的にお書きください。

「滞ったことがある」28 法人から回答を得た。表現はさまざまだが、「職員に待ってもらう」が最も多く 17 (60.7%)、次いで「借入れして払う」5 (17.9%)となった。

(表Ⅲ-19-2)

表Ⅲ-19-2 人件費支払遅滞への対処方法

あるときに払う	17
借り入れして払う	5
人件費減額	2
その他	3

IV. 行政のNPO施策

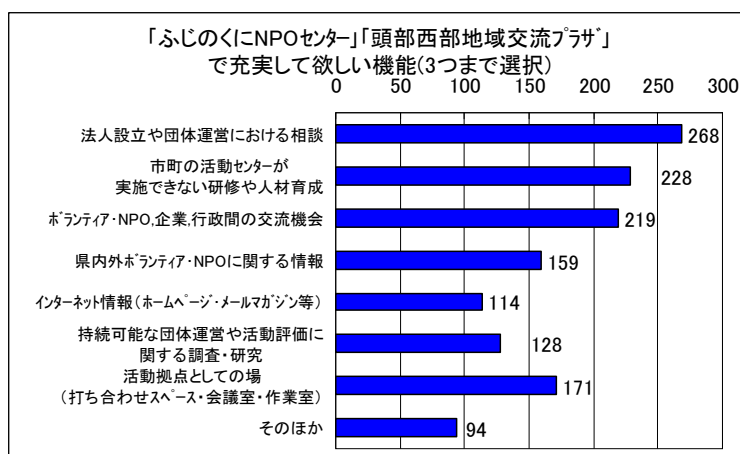
ここでは、NPO施策への要望など、NPOと県、市町との関わりについて調査した。

問1. 県のNPO関連施設に充実して欲しい機能

あなたの団体は、県が設置する「ふじのくにNPO活動センター」「東部・西部地域交流プラザ」が提供する次の機能のうち、どれを充実してほしいとお考えですか。該当するものを3つまで選び、その番号に○をつけてください。

『法人設立や団体運営における相談』の充実の要望が最も多く 259、次いで『市町の活動センターが実施できない研修や人材育成』227、『ボランティア・NPO、企業、行政間の交流機会』218、『活動拠点としての場(打ち合わせスペース・会議室・作業室)』171、『県内外ボランティア・NPOに関する情報』150 などとなっている。

『そのほか』では、「広報支援」を求めるもの7、「助成金、ファンドなどの資金援助」を求めるもの4、「利用料などの軽減化」を求めるもの3、「書類作成の代行」2、「助成金あつ旋業務」、「会計データベースの貸し出し」各1などがあつた。(表IV-1)



表IV-1「ふじのくにNPOセンター」「東部・西部地域交流プラザ」への要望(その他)

助成金・補助金情報など	11
相談・研修・指導	11
知識・情報の提供	8
不必要	5
PR・広報	5
支援がほしい	3
使用料など	3
立地への要望	3
代行してほしい	2
その他の要望	7
その他意見	2
無記入	4
計	64

平成 18 年の調査と比べると、『法人設立や団体運営における相談』が 22.0%→36.5%、『インターネット情報』9.8%→15.5%、『県内外ボランティア・NPOに関する情報』16.8%→21.6%、『団体運営や活動評価に関する調査・研究』14.5%→17.4%と増加している。

一方、『ボランティア・NPO、企業、行政間の交流機会』41.0%→29.8%、『市町の活動センターが実施できない研修や人材育成』35.0%→31.0%、『活動拠点としての場(打ち合わせスペース・会議室・作業室)』27.5%→23.3%が減少している。(表IV-1)

表IV-1 「県 NPO センターへの要望」平成 18 年調査との比較

	平成 18 年		平成 22 年	
	団体数	割合	法人数	割合
法人設立や団体運営における相談	76	(22.0%)	268	(36.5%)
市町の活動センターが実施できない研修や人材育成	121	(35.0%)	228	(31.0%)
ボランティア・NPO,企業,行政間の交流機会	142	(41.0%)	219	(29.8%)
県内外ボランティア・NPO に関する情報	58	(16.8%)	159	(21.6%)
インターネット情報(ホームページ・メールマガジン等)	34	(9.8%)	114	(15.5%)
持続可能な団体運営や活動評価に関する調査・研究	50	(14.5%)	128	(17.4%)
活動拠点としての場(打ち合わせスペース・会議室・作業室)	95	(27.5%)	171	(23.3%)
事務所機能(貸しスペース・貸し机等)※	54	(15.6%)	-	-
そのほか	44	(12.7%)	94	(12.8%)
基数	346		735	

※「事務所機能」は今回調査の選択肢にはない。

問 2. 県や市町に求める支援

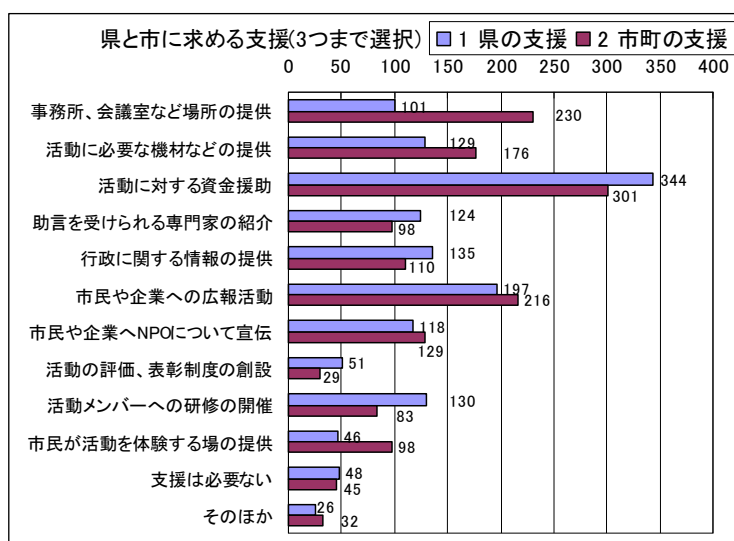
あなたの団体の運営や活動を発展させる上で、県や市町から、それぞれどのような支援（施策）が必要だと思いますか。次の中からあてはまるものをそれぞれ3つまで選び、該当する番号の右の「県の支援」と「市町の支援」の欄に○をつけてください。

県、市町ともに『活動に対する資金援助』の要望が最も多く(県 345、市 302)、次いで県に対しては、『市民や企業への広報活動』197、『行政に関する情報提供』135 となっている。一方、市町に対しては、『事務所、会議室など場所の提供』が 231、『市民や企業への広報活動』216 となっている。

『そのほか』では、支援として「資金面や遊休地・施設の提供など物質面での援助」11、「税制の優遇措置」3が、また市町に対しては、特に「NPO に対する行政の理解・協力」を求める意見4が目立った。

平成 18 年の調査と比べると、全体的にみると、『支援は必要ない』、『市民や企業への広報活動』と『市民や企業へ NPO について宣伝』は、県、市町ともに増え、『事務所、会議室など場所の提供』は県、市町ともに減っている。ハードからソフトへと、NPO の要望がシフトしてきているのではないだろうか。

『活動に必要な機材などの提供』と『活動に対する資金援助』は、県に対しては増え、市町では減少している。法人の求めるものが、県と市町では異なってきている。(表IV-2-1、表IV-2-3)



◆県に求めるもの

活動分野別にみると、「保健医療福祉」、「社会教育」、「まちづくり」、「学芸スポ」、「環境の保全」、「地域安全」、「人権擁護平和」、「男女共同参画」、「子どもの健全育成」、「科学技術」、「消費者」、「連絡」の12分野で『活動に対する資金援助』を選んだ法人が最も多かった。

「災害救援」では、『市民や企業へNPOについて宣伝』が最も多かった。

「国際協力」では、『市民や企業への広報活動』が50%で最も多かった。

「男女共同参画」では、『活動に対する資金援助』、『助言を受けられる専門家の紹介』、『活動メンバーの研修の開催』が42.9%となって、最も多かった。

「情報化社会」では、『事務所、会議室など場所の提供』が50%となって最も多かった。

「科学技術」では、『活動に対する資金援助』とならんで、『活動に必要な機材などの提供』が40%で最も多かった。

「経済活動」では、『市民や企業へNPOについて宣伝』が最も多かった。

「職業能力」では、『行政に関する情報の提供』が、最も多かった。

「消費者」では、『活動に対する資金援助』、『活動に必要な機材などの提供』、『行政に関する情報の提供』がともに、最多となっている。

「連絡」では、『市民や企業への広報活動』が最も多かった。(表IV-2-2)

『支援は必要ない』は「経済活動」で2件(16.7%)が最も比率が高かった。

平成18年の調査と比べると、「事務所、会議室など場所の提供」は、19.4%→13.7%に、「活動の評価、表彰制度の創設」は、9.5%→6.9%に減少している。

増加している項目では、「活動に必要な機材などの提供」が13.3%→17.6%、「支援は必要ない」が3.2%→6.5%が目立った。平成18年、今回とも要望の最も多い「活動に対する資金援助」は44.5%→46.8%と増加している。(表IV-2-1)

表IV-2-1「県に要望する支援」平成18年調査との比較

	平成18年		平成22年	
	団体数	割合	法人数	割合
事務所、会議室など場所の提供	67	(19.4%)	101	(13.7%)
活動に必要な機材などの提供	46	(13.3%)	129	(17.6%)
活動に対する資金援助	154	(44.5%)	344	(46.8%)
助言を受けられる専門家の紹介	51	(14.7%)	124	(16.9%)
行政に関する情報の提供	72	(20.8%)	135	(18.4%)
市民や企業への広報活動	87	(25.1%)	197	(26.8%)
市民や企業へNPOについて宣伝	47	(13.6%)	118	(16.1%)
活動の評価、表彰制度の創設	33	(9.5%)	51	(6.9%)
活動メンバーへの研修の開催	59	(17.1%)	130	(17.7%)
市民が活動を体験する場の提供	18	(5.2%)	46	(6.3%)
支援は必要ない	11	(3.2%)	48	(6.5%)
そのほか	11	(3.2%)	26	(3.5%)
基数	346		735	

※注 表IV-2-2の%は回答数に占める割合のため、この表の%とは数値が異なる。

表IV-2-2 主な活動分野 と 県からどのような支援が必要か(複数回答)

上段:法人数, 下段:%

	事務所、会議室など場所の提供	活動に必要な機材などの提供	活動に対する資金援助	助言を受けられる専門家の紹介	行政に関する情報の提供	市民や企業への広報活動	市民や企業へNPOについて宣伝	活動の評価、表彰制度の創設	活動メンバーの研修の開催	市民が活動を体験する場の提供	支援は必要ない	その他	合計
保健医療福祉	28 (6.2%)	47 (10.4%)	112 (24.7%)	50 (11%)	54 (11.9%)	48 (10.6%)	32 (7.1%)	11 (2.4%)	40 (8.8%)	13 (2.9%)	13 (2.9%)	5 (1.1%)	453
社会教育	13 (15.3%)	5 (5.9%)	22 (25.9%)	7 (8.2%)	5 (5.9%)	14 (16.5%)	5 (5.9%)	3 (3.5%)	6 (7.1%)	1 (1.2%)	4 (4.7%)	0 (0%)	85
まちづくり	10 (6.3%)	12 (7.5%)	34 (21.3%)	9 (5.6%)	21 (13.1%)	24 (15%)	14 (8.8%)	8 (5%)	16 (10%)	2 (1.3%)	6 (3.8%)	4 (2.5%)	160
学芸スポ	15 (8.3%)	17 (9.4%)	44 (24.3%)	17 (9.4%)	8 (4.4%)	25 (13.8%)	12 (6.6%)	5 (2.8%)	16 (8.8%)	9 (5%)	8 (4.4%)	5 (2.8%)	181
環境の保全	6 (2.7%)	17 (7.7%)	54 (24.5%)	19 (8.6%)	19 (8.6%)	31 (14.1%)	22 (10%)	7 (3.2%)	21 (9.5%)	12 (5.5%)	6 (2.7%)	6 (2.7%)	220
災害救援	0 (0%)	0 (0%)	1 (16.7%)	0 (0%)	1 (16.7%)	0 (0%)	3 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (16.7%)	0 (0%)	0 (0%)	6
地域安全	3 (11.5%)	2 (7.7%)	6 (23.1%)	1 (3.8%)	2 (7.7%)	4 (15.4%)	2 (7.7%)	2 (7.7%)	3 (11.5%)	0 (0%)	1 (3.8%)	0 (0%)	26
人権擁護平和	1 (9.1%)	1 (9.1%)	3 (27.3%)	1 (9.1%)	1 (9.1%)	2 (18.2%)	1 (9.1%)	1 (9.1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	11
国際協力	1 (5.6%)	2 (11.1%)	2 (11.1%)	0 (0%)	2 (11.1%)	5 (27.8%)	1 (5.6%)	1 (5.6%)	1 (5.6%)	1 (5.6%)	1 (5.6%)	1 (5.6%)	18
男女共同参画	2 (13.3%)	0 (0%)	3 (20%)	3 (20%)	0 (0%)	2 (13.3%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (20%)	0 (0%)	1 (6.7%)	1 (6.7%)	15
子どもの健全育成	9 (5.5%)	18 (11%)	46 (28.2%)	11 (6.7%)	7 (4.3%)	24 (14.7%)	14 (8.6%)	10 (6.1%)	14 (8.6%)	5 (3.1%)	3 (1.8%)	2 (1.2%)	163
情報化社会	4 (23.5%)	2 (11.8%)	1 (5.9%)	1 (5.9%)	1 (5.9%)	3 (17.6%)	2 (11.8%)	0 (0%)	2 (11.8%)	1 (5.9%)	0 (0%)	0 (0%)	17
科学技術	1 (12.5%)	2 (25%)	2 (25%)	1 (12.5%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (12.5%)	0 (0%)	1 (12.5%)	0 (0%)	8
経済活動	0 (0%)	0 (0%)	2 (16.7%)	1 (8.3%)	0 (0%)	2 (16.7%)	3 (25%)	1 (8.3%)	1 (8.3%)	0 (0%)	2 (16.7%)	0 (0%)	12
職業能力	3 (9.7%)	1 (3.2%)	3 (9.7%)	2 (6.5%)	7 (22.6%)	5 (16.1%)	6 (19.4%)	1 (3.2%)	2 (6.5%)	1 (3.2%)	0 (0%)	0 (0%)	31
消費者	1 (11.1%)	2 (22.2%)	2 (22.2%)	0 (0%)	2 (22.2%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (11.1%)	0 (0%)	1 (11.1%)	0 (0%)	9
連絡	4 (12.1%)	1 (3%)	7 (21.2%)	1 (3%)	5 (15.2%)	8 (24.2%)	1 (3%)	1 (3%)	3 (9.1%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (6.1%)	33
無回答	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	1
合計	101 (7%)	129 (8.9%)	344 (23.7%)	124 (8.6%)	135 (9.3%)	197 (13.6%)	118 (8.1%)	51 (3.5%)	130 (9%)	46 (3.2%)	48 (3.3%)	26 (1.8%)	1449

◆市に求めるもの

活動分野別にみると、「保健医療福祉」、「社会教育」、「まちづくり」、「学芸スポ」、「環境の保全」、「地域安全」、「子どもの健全育成」、「科学技術」、「経済活動」の9分野で『活動に対する資金援助』を選んだ法人が最も多かった。

次いで多かったのが、『事務所、会議室など場所の提供』で、「人権擁護平和」、「男女共同参画」、「情報化社会」、「職業能力」、「消費者」、「連絡」の6分野で最も多かった。次いで『市民や企業への広報活動』で、「国際協力」、「情報化社会」、「経済活動」の3分野で最も多かった。並んで『市民や企業へNPOについて宣伝』も「災害救援」、「人権擁護平和」、「経済活動」の3分野で最も多かった。

「人権擁護平和」は『事務所、会議室など場所の提供』、『市民や企業へNPOについて宣伝』と『行政に関する情報の提供』が並んで最多となっている。

「男女共同参画」では、『事務所、会議室など場所の提供』と『助言を受けられる専門家の紹介』がともに最多となっている。

「情報化社会」では、『事務所、会議室など場所の提供』と『市民や企業への広報活動』がともに最多となっている。

「経済活動」では、『活動に対する資金援助』、『市民や企業への広報活動』、『市民や企業へNPOについて宣伝』、『支援は必要ない』の4項目が並んで最多となっている。(表IV-2-4)

平成 18 年の調査と比べると、平成 18 年、今回とも要望の最も多い「活動に対する資金援助」が、45.7%→41.0%と減少しているほか、「事務所、会議室など場所の提供」は、35.8%→31.1%に、「市民が活動を体験する場の提供」が 17.6%→13.3%に減少している。

増加している項目では、「助言を受けられる専門家の紹介」が7.8%→13.3%、「支援は必要ない」が2.6%→6.1%が目立った。(表IV-2-3)

表IV-2-3「市町に要望する支援」平成 18 年調査との比較

	平成 18 年		平成 22 年	
	団体数	割合	法人数	割合
事務所、会議室など場所の提供	124	(35.8%)	230	(31.3%)
活動に必要な機材などの提供	83	(24.0%)	176	(23.9%)
活動に対する資金援助	158	(45.7%)	301	(41.0%)
助言を受けられる専門家の紹介	27	(7.8%)	98	(13.3%)
行政に関する情報の提供	58	(16.8%)	110	(15.0%)
市民や企業への広報活動	86	(24.9%)	216	(29.4%)
市民や企業へ NPO について宣伝	57	(16.5%)	129	(17.6%)
活動の評価、表彰制度の創設	15	(4.3%)	29	(3.9%)
活動メンバーへの研修の開催	37	(10.7%)	83	(11.3%)
市民が活動を体験する場の提供	61	(17.6%)	98	(13.3%)
支援は必要ない	9	(2.6%)	45	(6.1%)
そのほか	17	(4.9%)	32	(4.4%)
基数	346		735	

※注 表IV-2-4 の%は回答数に占める割合のため、この表の%とは数値が異なる。

表IV-2-4 主な活動分野 と 市からどのような支援が必要か(複数回答)

上段:法人数, 下段:%

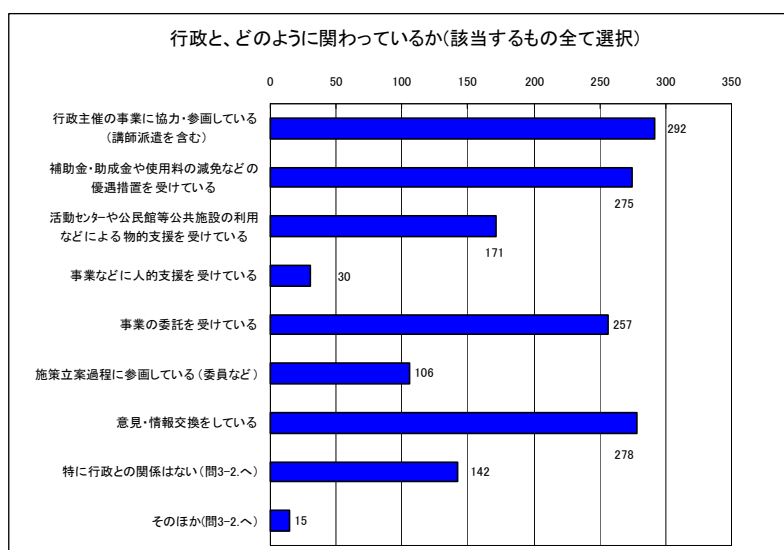
	事務所、会議室など場所の提供	活動に必要な機材などの提供	活動に対する資金援助	助言を受けられる専門家の紹介	行政に関する情報の提供	市民や企業への広報活動	市民や企業へNPOについて宣伝	活動の評価、表彰制度の創設	活動メンバーの研修の開催	市民が活動を体験する場の提供	支援は必要ない	その他	合計
保健医療福祉	56 (11.5%)	59 (12.2%)	91 (18.8%)	40 (8.2%)	36 (7.4%)	59 (12.2%)	39 (8%)	10 (2.1%)	31 (6.4%)	38 (7.8%)	15 (3.1%)	11 (2.3%)	485
社会教育	24 (23.5%)	8 (7.8%)	22 (21.6%)	4 (3.9%)	5 (4.9%)	15 (14.7%)	9 (8.8%)	2 (2%)	5 (4.9%)	5 (4.9%)	3 (2.9%)	0 (0%)	102
まちづくり	24 (13.7%)	13 (7.4%)	40 (22.9%)	10 (5.7%)	18 (10.3%)	27 (15.4%)	16 (9.1%)	3 (1.7%)	9 (5.1%)	5 (2.9%)	5 (2.9%)	5 (2.9%)	175
学文芸スポ	37 (18.3%)	27 (13.4%)	47 (23.3%)	9 (4.5%)	11 (5.4%)	31 (15.3%)	7 (3.5%)	3 (1.5%)	8 (4%)	11 (5.4%)	7 (3.5%)	4 (2%)	202
環境の保全	24 (11.1%)	22 (10.1%)	42 (19.4%)	12 (5.5%)	17 (7.8%)	30 (13.8%)	23 (10.6%)	4 (1.8%)	13 (6%)	16 (7.4%)	6 (2.8%)	8 (3.7%)	217
災害救援	1 (16.7%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (33.3%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (16.7%)	0 (0%)	0 (0%)	6
地域安全	3 (13.6%)	4 (18.2%)	5 (22.7%)	1 (4.5%)	1 (4.5%)	4 (18.2%)	3 (13.6%)	1 (4.5%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	22
人権擁護平和	2 (20%)	1 (10%)	1 (10%)	0 (0%)	2 (20%)	1 (10%)	2 (20%)	1 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	10
国際協力	2 (11.1%)	2 (11.1%)	2 (11.1%)	1 (5.6%)	2 (11.1%)	4 (22.2%)	1 (5.6%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (11.1%)	1 (5.6%)	1 (5.6%)	18
男女共同参画	3 (21.4%)	2 (14.3%)	1 (7.1%)	3 (21.4%)	1 (7.1%)	1 (7.1%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (14.3%)	0 (0%)	1 (7.1%)	0 (0%)	14
子どもの健全育成	33 (17.7%)	27 (14.5%)	34 (18.3%)	11 (5.9%)	6 (3.2%)	29 (15.6%)	17 (9.1%)	3 (1.6%)	7 (3.8%)	15 (8.1%)	2 (1.1%)	2 (1.1%)	186
情報化社会	3 (20%)	1 (6.7%)	2 (13.3%)	1 (6.7%)	1 (6.7%)	3 (20%)	1 (6.7%)	0 (0%)	2 (13.3%)	1 (6.7%)	0 (0%)	0 (0%)	15
科学技術	1 (11.1%)	2 (22.2%)	3 (33.3%)	1 (11.1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (11.1%)	0 (0%)	1 (11.1%)	0 (0%)	9
経済活動	0 (0%)	0 (0%)	2 (16.7%)	1 (8.3%)	1 (8.3%)	2 (16.7%)	2 (16.7%)	1 (8.3%)	1 (8.3%)	0 (0%)	2 (16.7%)	0 (0%)	12
職業能力	6 (20%)	1 (3.3%)	4 (13.3%)	2 (6.7%)	3 (10%)	5 (16.7%)	4 (13.3%)	1 (3.3%)	2 (6.7%)	2 (6.7%)	0 (0%)	0 (0%)	30
消費者	3 (23.1%)	2 (15.4%)	1 (7.7%)	0 (0%)	2 (15.4%)	3 (23.1%)	1 (7.7%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (7.7%)	0 (0%)	13
連絡	8 (26.7%)	4 (13.3%)	3 (10%)	2 (6.7%)	4 (13.3%)	2 (6.7%)	2 (6.7%)	0 (0%)	2 (6.7%)	2 (6.7%)	0 (0%)	1 (3.3%)	30
無回答	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	1
合計	230 (14.9%)	176 (11.4%)	301 (19.5%)	98 (6.3%)	110 (7.1%)	216 (14%)	129 (8.3%)	29 (1.9%)	83 (5.4%)	98 (6.3%)	45 (2.9%)	32 (2.1%)	1547

問3. 行政との現在の関わり

現在、あなたの団体は、行政(県や市町)と、どのように関わっていますか。該当するものをすべて選び、その番号に○をつけてください。

『行政主催の事業に協力・参画している(講師派遣を含む)』292で最も多く、次いで『意見・情報交換をしている』278、『補助金・助成金や使用料の減免などの優遇措置を受けている』275、『事業の委託を受けている』257の回答が多かった。『行政と関係はない』とする法人は142で19.3%、8割の法人が行政と関係を持っている。

『そのほか』の回答では、「協働事業」が2件あった。関わりではなく、関係する機関名をあげた回答もあった。

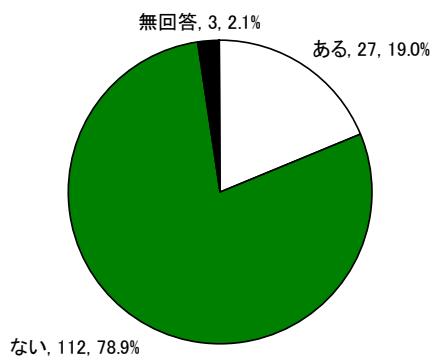


問3-2. 現在行政との関わりがない法人の過去の関わり

過去に、問3.の1から7の関わりを持ったことがありますか。

『特に行政との関係はない』と答えた142のうち、関わりを持った経験については、『ある』が27(19.0%)、『ない』は112(78.9%)となった。

過去に行政と関わったことがあるか
(現在は関わっていない団体限定)



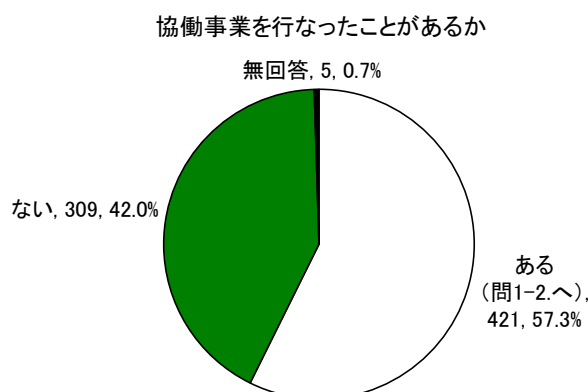
V. 協働について

ここでは、NPOと行政や企業との協働について調査した。協働については、70%近くの法人がその意思をもっている。その活動で、行政と関係を持っているNPO法人は八割に達している。一方、行政からは資金面、運営面などNPOの抱える問題・課題に直結する支援を求めている。

問1. 協働事業（委託事業を含む）の実施経験

あなたの団体は協働事業（委託事業を含む）を行ったことがありますか。

『ある』が 421(57.3%)、『ない』
309(42.0%)となった。

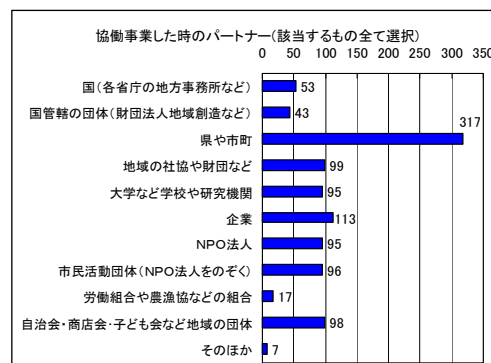


問1-2. 協働のパートナー

協働のパートナーはだれですか。該当するものをすべて選び、その番号に○をつけてください。

『県や市町』が 317 と最も多く、次いで『企業』113、『地域の社協や財団など』99、『自治会・商店会・子ども会など地域の団体』98、『市民活動団体(NPO法人をのぞく)』96、『大学など学校や研究機関』95、『NPO法人』95 となった。

『そのほか』では、具体的にあげられたものとしては、「社会福祉法人・医療福祉法人」3、「関連する協会・連絡会」3があった。



活動分野別でみると、『県や市町』が多く、「保健医療福祉」、「社会教育」、「まちづくり」、「学芸文スポ」、「環境の保全」、「地域安全」、「人権擁護平和」、「国際協力」、「男女共同参画」、「子どもの健全育成」、「情報化社会」、「経済活動」、「職業能力」13分野で最も多かった。

『企業』は、「経済活動」、「消費者」、「連絡」で最も多かった。

「災害救援」は、『NPO法人』と『労働組合や農漁協などの組合』だけであった。

「情報化社会」は、『県や市町』と『地域の社協や財団など』が同数となった。

「科学技術」は、回答数が1で『大学など学校や研究機関』だけであった。

「経済活動」は、『県や市町』、『企業』、『NPO法人』、『自治会・商店会・子ども会など地域の団体』が各1で同数となった。(表V-1-2)

表V-1-2 主な活動分野とV-1-2協働したことがあるパートナーはだれか(全)(複数回答)

上段: 法人数, 下段: %

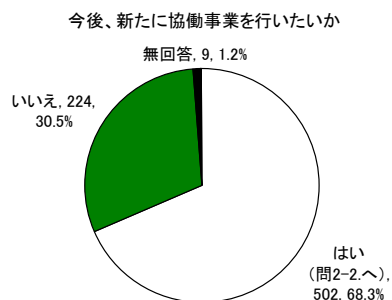
★(50)(全)	国(各省庁の地方事務所など)	国管轄の団体(財団法人地域創造など)	県や市町	地域の社協や財団など	大学など学校や研究機関	企業	NPO法人	市民活動団体(NPO法人をのぞく)	労働組合や農漁協などの組合	自治会・商店会・子ども会など地域の団体	その他	合計
保健医療福祉	17 (6.1%)	9 (3.2%)	90 (32.4%)	39 (14%)	20 (7.2%)	24 (8.6%)	29 (10.4%)	23 (8.3%)	3 (1.1%)	22 (7.9%)	2 (0.7%)	278
社会教育	3 (5.7%)	3 (5.7%)	17 (32.1%)	6 (11.3%)	4 (7.5%)	8 (15.1%)	4 (7.5%)	4 (7.5%)	0 (0%)	4 (7.5%)	0 (0%)	53
まちづくり	11 (7.1%)	3 (1.9%)	46 (29.7%)	8 (5.2%)	13 (8.4%)	16 (10.3%)	15 (9.7%)	18 (11.6%)	4 (2.6%)	20 (12.9%)	1 (0.6%)	155
学芸文スポ	5 (4%)	5 (4%)	45 (35.7%)	13 (10.3%)	16 (12.7%)	13 (10.3%)	7 (5.6%)	9 (7.1%)	1 (0.8%)	10 (7.9%)	2 (1.6%)	126
環境の保全	7 (4.4%)	7 (4.4%)	50 (31.6%)	7 (4.4%)	17 (10.8%)	21 (13.3%)	15 (9.5%)	18 (11.4%)	1 (0.6%)	15 (9.5%)	0 (0%)	158
災害救援	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	2
地域安全	1 (6.3%)	1 (6.3%)	5 (31.3%)	1 (6.3%)	0 (0%)	2 (12.5%)	1 (6.3%)	1 (6.3%)	0 (0%)	4 (25%)	0 (0%)	16
人権擁護平和	1 (10%)	1 (10%)	2 (20%)	1 (10%)	1 (10%)	1 (10%)	1 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (20%)	0 (0%)	10
国際協力	1 (8.3%)	2 (16.7%)	4 (33.3%)	0 (0%)	1 (8.3%)	2 (16.7%)	1 (8.3%)	1 (8.3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	12
男女共同参画	0 (0%)	1 (4.3%)	7 (30.4%)	1 (4.3%)	2 (8.7%)	2 (8.7%)	4 (17.4%)	3 (13%)	1 (4.3%)	2 (8.7%)	0 (0%)	23
子どもの健全育成	5 (4.1%)	8 (6.6%)	36 (29.5%)	12 (9.8%)	12 (9.8%)	9 (7.4%)	9 (7.4%)	12 (9.8%)	4 (3.3%)	15 (12.3%)	0 (0%)	122
情報化社会	1 (14.3%)	1 (14.3%)	2 (28.6%)	2 (28.6%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (14.3%)	0 (0%)	7
科学技術	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1
経済活動	0 (0%)	0 (0%)	1 (25%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (25%)	1 (25%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (25%)	0 (0%)	4
職業能力	0 (0%)	0 (0%)	5 (29.4%)	3 (17.6%)	0 (0%)	4 (23.5%)	1 (5.9%)	2 (11.8%)	0 (0%)	1 (5.9%)	1 (5.9%)	17
消費者	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (50%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (50%)	2
連絡	1 (2.1%)	2 (4.3%)	7 (14.9%)	6 (12.8%)	8 (17%)	9 (19.1%)	6 (12.8%)	5 (10.6%)	2 (4.3%)	1 (2.1%)	0 (0%)	47
無回答	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0
合計	53 (5.1%)	43 (4.2%)	317 (30.7%)	99 (9.6%)	95 (9.2%)	113 (10.9%)	95 (9.2%)	96 (9.3%)	17 (1.6%)	98 (9.5%)	7 (0.7%)	1033

問2. 今後の新たな協働事業

今後、新たに協働事業を行いたいと思いますか。

『はい』が 502(68.3%)、『いいえ』が 223(30.5%)となった。

協働したい理由(自由記述)としては、395の回答があり、その中では「法人の活動目的実現に協働が不可欠」との趣旨のものが最も多く72(18.2%)、次いで「広報啓発のため」が45(11.4%)、「事業の拡大拡充のため」44(11.1%)、「活動やネットワークを広げるため」38(9.6%)、「単独では限界があるため」24(6.0%)、「それぞれの特色を生かしたいから」14(3.5%)、「資金確保のため」14(3.5%)などとなっている。



表V-2 『はい』の理由

	法人数	割合
法人の活動目的実現に協働が不可欠	72	(18.2%)
広報・啓発のため	45	(11.4%)
事業の拡大拡充のため	44	(11.1%)
活動やネットワークを広げたい	38	(9.6%)
単独では限界があるため	24	(6.1%)
資金確保のため	14	(3.5%)
それぞれの特色を生かしたいから	14	(3.5%)
協働内容による	12	(3.0%)
交流、連帯	11	(2.8%)
協働したい・検討する	9	(2.3%)
大切、したほうが良い	7	(1.8%)
組織にメリットがある	6	(1.5%)
会員獲得・参加者の増加	5	(1.3%)
スキルアップ	4	(1.0%)
効果的・効率的	4	(1.0%)
求められれば	3	(0.8%)
専門性が生かせる	3	(0.8%)
行政にとってメリットがある	3	(0.8%)
委託を受けたい	2	(0.5%)
協働についての提案	2	(0.5%)
市民社会・新しい公共	2	(0.5%)
そのほか(分野・事業)	46	(11.6%)
そのほか(協働の相手)	6	(1.5%)
そのほか	19	(4.8%)
計	395	

協働したくない理由(自由記述)としては 108 の回答があり、その中では「人的、時間的な余裕がないため」との趣旨の回答が最も多く 58(53.7%)、次いで「必要性を感じないため」が 15(13.8%)、「考えていない」が 10(9.3%)などがあった。(表V-2-2)

表V-2-2 『いいえ』の理由

	法人数	割合
人的、時間的な余裕がないため	58	(53.7%)
必要性を感じないため	15	(13.9%)
考えていない	10	(9.3%)
行政への不安・不満	8	(7.4%)
資金関係	4	(3.7%)
団体の活動が、協働に合わない	3	(2.8%)
協働について知らない	2	(1.9%)
その他	8	(7.4%)
計	108	

問 2-2. その場合のパートナー

その場合のパートナーとしてどこをお考えですか。該当するものをすべて選び、その番号に○をつけてください。

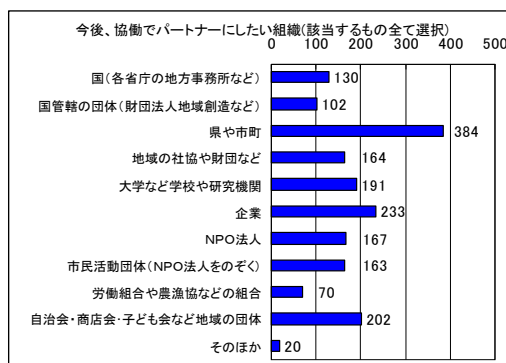
『県や市町』384 が最も多く、『企業』233、『自治会・商店会・子ども会など地域の団体』202、『大学など学校や研究機関』191 の順となっている。

『そのほか』では、「目的が合えば特定しない」との趣旨の回答が4件で最も多く、裁判所・司法関係」が2つあったほかは同種のものがなかった。

活動分野別にみると、『県や市町』をあげたものが、「保健医療福祉」、「社会教育」、「まちづくり」、「学文芸スポ」、「環境の保全」、「災害救援」、「地域安全」、「国際協力」、「男女共同参画」、「子どもの健全育成」、「情報化社会」、「経済活動」、「職業能力」、「消費者」、「連絡」の 15 分野となり、最も多かった。「災害救援」は 100%となっている。

「職業能力」、「消費者」、「連絡」の3分野では、『県や市町』と『企業』とがならんで最も多かった。

「人権擁護平和」と「科学技術」では、『大学など学校や研究機関』が最も多かった。(表V-2-2)



表V-1-2 主な活動分野 と V-2-2協働したいと思うパートナーはどこか (複数回答)

上段: 法人数, 下段: %

	国(各省庁の地方事務所など)	国管轄の団体(財団法人地域創造など)	県や市町	地域の社協や財団など	大学など学校や研究機関	企業	NPO法人	市民活動団体 (NPO法人をのぞく)	労働組合や農漁協などの組合	自治会・商店会・子ども会など 地域の団体	その他	合計
保健医療福祉	35 (7.4%)	24 (5.1%)	95 (20%)	64 (13.5%)	43 (9.1%)	52 (10.9%)	46 (9.7%)	43 (9.1%)	17 (3.6%)	50 (10.5%)	6 (1.3%)	475
社会教育	9 (7.4%)	7 (5.7%)	28 (23%)	11 (9%)	15 (12.3%)	17 (13.9%)	10 (8.2%)	8 (6.6%)	4 (3.3%)	11 (9%)	2 (1.6%)	122
まちづくり	21 (8%)	11 (4.2%)	57 (21.8%)	17 (6.5%)	26 (9.9%)	33 (12.6%)	25 (9.5%)	28 (10.7%)	10 (3.8%)	32 (12.2%)	2 (0.8%)	262
学芸スポ	9 (4.5%)	9 (4.5%)	50 (25.1%)	16 (8%)	24 (12.1%)	29 (14.6%)	17 (8.5%)	17 (8.5%)	4 (2%)	21 (10.6%)	3 (1.5%)	199
環境の保全	24 (7.4%)	23 (7.1%)	62 (19%)	18 (5.5%)	38 (11.7%)	47 (14.4%)	30 (9.2%)	28 (8.6%)	18 (5.5%)	37 (11.3%)	1 (0.3%)	326
災害救援	1 (7.7%)	1 (7.7%)	3 (23.1%)	1 (7.7%)	1 (7.7%)	1 (7.7%)	2 (15.4%)	1 (7.7%)	1 (7.7%)	1 (7.7%)	0 (0%)	13
地域安全	3 (14.3%)	0 (0%)	5 (23.8%)	1 (4.8%)	1 (4.8%)	3 (14.3%)	2 (9.5%)	3 (14.3%)	0 (0%)	3 (14.3%)	0 (0%)	21
人権擁護平和	1 (7.1%)	2 (14.3%)	1 (7.1%)	1 (7.1%)	2 (14.3%)	1 (7.1%)	1 (7.1%)	1 (7.1%)	1 (7.1%)	2 (14.3%)	1 (7.1%)	14
国際協力	1 (7.1%)	1 (7.1%)	3 (21.4%)	1 (7.1%)	2 (14.3%)	2 (14.3%)	1 (7.1%)	1 (7.1%)	0 (0%)	2 (14.3%)	0 (0%)	14
男女共同参画	1 (3.6%)	1 (3.6%)	6 (21.4%)	2 (7.1%)	3 (10.7%)	4 (14.3%)	4 (14.3%)	3 (10.7%)	2 (7.1%)	2 (7.1%)	0 (0%)	28
子どもの健全育成	10 (5%)	12 (6%)	45 (22.4%)	17 (8.5%)	20 (10%)	24 (11.9%)	15 (7.5%)	20 (10%)	7 (3.5%)	28 (13.9%)	3 (1.5%)	201
情報化社会	1 (5%)	1 (5%)	6 (30%)	5 (25%)	2 (10%)	2 (10%)	1 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (10%)	0 (0%)	20
科学技術	1 (20%)	1 (20%)	1 (20%)	0 (0%)	2 (40%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	5
経済活動	1 (12.5%)	0 (0%)	3 (37.5%)	0 (0%)	1 (12.5%)	0 (0%)	2 (25%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (12.5%)	0 (0%)	8
職業能力	5 (13.9%)	2 (5.6%)	7 (19.4%)	2 (5.6%)	2 (5.6%)	7 (19.4%)	3 (8.3%)	4 (11.1%)	1 (2.8%)	3 (8.3%)	0 (0%)	36
消費者	1 (7.1%)	1 (7.1%)	2 (14.3%)	1 (7.1%)	1 (7.1%)	2 (14.3%)	1 (7.1%)	0 (0%)	1 (7.1%)	2 (14.3%)	2 (14.3%)	14
連絡	6 (9%)	6 (9%)	9 (13.4%)	7 (10.4%)	8 (11.9%)	9 (13.4%)	7 (10.4%)	6 (9%)	4 (6%)	5 (7.5%)	0 (0%)	67
無回答	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1
合計	130 (7.1%)	102 (5.6%)	384 (21%)	164 (9%)	191 (10.5%)	233 (12.8%)	167 (9.1%)	163 (8.9%)	70 (3.8%)	202 (11.1%)	20 (1.1%)	1826

問3. 現在、公共分野において担っていると思う役割

現在、公共分野において、あなたの団体が担っている役割があると思いますか。最も近いと思うものを3つまで選び、その番号に○をつけてください。

『地域の課題やニーズの解決に主体的に取り組む役割』458 が最も多く、次いで『公共サービスでは対応しきれないサービスを提供していく役割』354、『市民の社会参加を促進する役割』308、『行政に対し政策を提言していく役割』185 の順となっている。

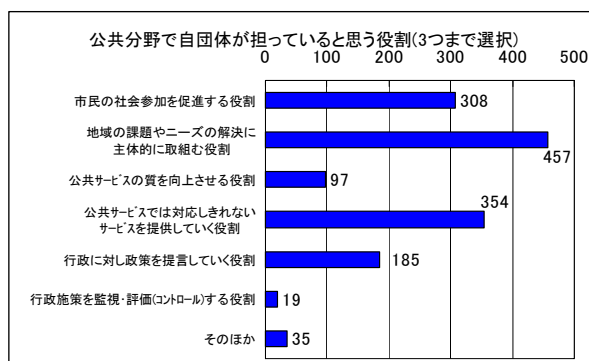
『そのほか』では、具体的な事業やその目的をあげたものが多く見られた。

活動分野別で見ると、『地域の課題やニーズの解決に主体的に取り組む役割』は、「保健医療福祉」、「社会教育」、「まちづくり」、「環境の保全」、「地域安全」、「国際協力」、「男女共同参画」、「子どもの健全育成」、「情報化社会」、「経済活動」、「職業能力」、「消費者」、「連絡」の13分野となり、最も多かった。

『市民の社会参加を促進する役割』は、「学芸芸スポ」、「災害救援」で最も高く、特に「災害救援」では60.0%となっている。

『行政に対し政策を提言していく役割』は、「人権擁護平和」と「科学技術」で最も多かった。(表V-3)

平成18年の調査(「行政分野において担っていると思う役割」を聞いた)と比べると、『地域の課題やニーズの解決に主体的に取り組む役割』は、46.2%→62.2%と大きく増加し、一方『公共サービスの質を向上させる役割』は、31.8%→13.2%と大きく減少している。NPO 法人の自立性と主体性の高まりを感じさせる結果である。(表V-3-1)



表V-3-1 公共分野で担っている役割(平成18年との比較)

	平成18年		平成22年	
	団体数	割合	法人数	割合
市民の社会参加を促進する役割	148	(42.8%)	308	(41.9%)
地域の課題やニーズの解決に主体的に取り組む役割	160	(46.2%)	457	(62.2%)
公共サービスの質を向上させる役割	110	(31.8%)	97	(13.2%)
公共サービスでは対応しきれないサービスを提供していく役割	159	(46.0%)	354	(48.2%)
行政に対し政策を提言していく役割	99	(28.6%)	185	(25.2%)
行政施策を監視・評価(コントロール)する役割	16	(4.6%)	19	(2.6%)
特にない	39	(11.3%)	-	-
そのほか	15	(4.3%)	35	(4.8%)
基数	346		735	

※今回の調査では『特にない』の選択肢は回答に設けなかったためデータがない。

※注 表V-3の%は回答数に占める割合のため、この表の%とは数値が異なる。

表 V-3 主な活動分野 と 公共分野におけるあなたの団体の役割は何か

上段: 法人数, 下段: %

	市民の社会参加を促進する役割	地域の課題やニーズの主体的に取り組む役割	公共サービスの質を向上させる役割	公共サービスでは対応しきれないサービスを提供していく役割	行政に対し政策を提言していく役割	行政施策を監視・評価(コントロール)する役割	その他	合計
保健医療福祉	89 (18.6%)	149 (31.1%)	46 (9.6%)	140 (29.2%)	43 (9%)	6 (1.3%)	6 (1.3%)	479
社会教育	20 (26.3%)	22 (28.9%)	1 (1.3%)	20 (26.3%)	8 (10.5%)	0 (0%)	5 (6.6%)	76
まちづくり	36 (20.5%)	59 (33.5%)	6 (3.4%)	41 (23.3%)	29 (16.5%)	2 (1.1%)	3 (1.7%)	176
学芸文スポ	48 (28.7%)	38 (22.8%)	18 (10.8%)	41 (24.6%)	13 (7.8%)	1 (0.6%)	8 (4.8%)	167
環境の保全	42 (20.3%)	72 (34.8%)	7 (3.4%)	37 (17.9%)	40 (19.3%)	5 (2.4%)	4 (1.9%)	207
災害救援	3 (60%)	1 (20%)	0 (0%)	1 (20%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	5
地域安全	4 (19%)	8 (38.1%)	1 (4.8%)	4 (19%)	3 (14.3%)	0 (0%)	1 (4.8%)	21
人権擁護平和	2 (16.7%)	3 (25%)	0 (0%)	1 (8.3%)	4 (33.3%)	1 (8.3%)	1 (8.3%)	12
国際協力	3 (18.8%)	6 (37.5%)	1 (6.3%)	4 (25%)	2 (12.5%)	0 (0%)	0 (0%)	16
男女共同参画	4 (22.2%)	6 (33.3%)	2 (11.1%)	3 (16.7%)	2 (11.1%)	0 (0%)	1 (5.6%)	18
子どもの健全育成	40 (23.7%)	52 (30.8%)	8 (4.7%)	40 (23.7%)	24 (14.2%)	3 (1.8%)	2 (1.2%)	169
情報化社会	0 (0%)	6 (50%)	0 (0%)	3 (25%)	3 (25%)	0 (0%)	0 (0%)	12
科学技術	0 (0%)	2 (33.3%)	0 (0%)	0 (0%)	3 (50%)	0 (0%)	1 (16.7%)	6
経済活動	2 (14.3%)	7 (50%)	0 (0%)	1 (7.1%)	2 (14.3%)	1 (7.1%)	1 (7.1%)	14
職業能力	8 (25%)	10 (31.3%)	2 (6.3%)	8 (25%)	3 (9.4%)	0 (0%)	1 (3.1%)	32
消費者	2 (18.2%)	5 (45.5%)	1 (9.1%)	2 (18.2%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (9.1%)	11
連絡	5 (15.2%)	11 (33.3%)	4 (12.1%)	8 (24.2%)	5 (15.2%)	0 (0%)	0 (0%)	33
無回答	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	1
合計	308 (21.2%)	457 (31.4%)	97 (6.7%)	354 (24.3%)	185 (12.7%)	19 (1.3%)	35 (2.4%)	1455

問4. 公的な機関からの事業の委託経験
行政その他公的な機関から、事業の委託を受けたことがありますか。

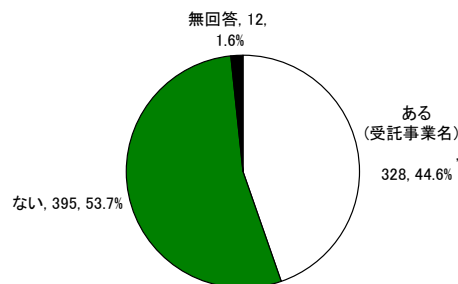
『ある』328(44.6%)、『ない』395(53.7%)となった。

活動分野別にみると、『ある』と回答した比率が最も高いのは「男女共同参画」で100%、次いで「情報化社会」62.5%、「まちづくり」54.3%となった。

『ない』の比率が最も高いのは「災害救援」と「科学技術」の100%で、次いで「消費者」の82.3%となっている。

(表V-4-1)

公的機関から事業を委託されたことがあるか



表V-4-1 主な活動分野 と 公的機関から事業委託を受けた事はあるか

上段: 法人数, 下段: %

	ある	ない	無回答	合計
保健医療福祉	106 (44.7%)	130 (54.9%)	1 (0.4%)	237
社会教育	16 (34%)	31 (66%)	0 (0%)	47
まちづくり	44 (54.3%)	35 (43.2%)	2 (2.5%)	81
学芸文スポ	41 (46.1%)	48 (53.9%)	0 (0%)	89
環境の保全	44 (42.7%)	57 (55.3%)	2 (1.9%)	103
災害救援	0 (0%)	3 (100%)	0 (0%)	3
地域安全	6 (50%)	6 (50%)	0 (0%)	12
人権擁護平和	2 (33.3%)	4 (66.7%)	0 (0%)	6
国際協力	4 (40%)	5 (50%)	1 (10%)	10
男女共同参画	7 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	7
子どもの健全育成	37 (46.3%)	41 (51.3%)	2 (2.5%)	80
情報化社会	5 (62.5%)	3 (37.5%)	0 (0%)	8
科学技術	0 (0%)	5 (100%)	0 (0%)	5
経済活動	2 (22.2%)	6 (66.7%)	1 (11.1%)	9
職業能力	6 (37.5%)	9 (56.3%)	1 (6.3%)	16
消費者	1 (16.7%)	5 (83.3%)	0 (0%)	6
連絡	7 (50%)	6 (42.9%)	1 (7.1%)	14
無回答	0 (0%)	1 (50%)	1 (50%)	2
合計	328 (44.6%)	395 (53.7%)	12 (1.6%)	735

◆ 受託事業の内容

『ある』と回答した法人に、受託した事業をきいた。分類すると、『福祉、医療』分野が 83、次いで施設などの『管理・指定管理』34、『子育て支援・子どもの健全育成』28、『地域活性化』24、『環境』20、『自然保護』が 16 などとなった。(表 V-4-2)

表 V-4-2 公的機関からの委託事業分野

福祉・健康	83
管理・指定管理	32
子育て支援・子どもの健全育成	28
地域活性化	24
環境	20
自然	16
スポーツ	13
講座・教育・研究・調査	10
芸術文化	7
観光	7
各種イベント	7
就労・雇用	6
国際・外国人	5
男女共同参画	5
NPO支援	4
防災・防犯	3
情報化社会	3
ユニバーサルデザイン	3
移動・交通	2
相談	1
その他事業	16
委託元の名称のみ、詳細無し	19
不明	2
無回答	12
計	328

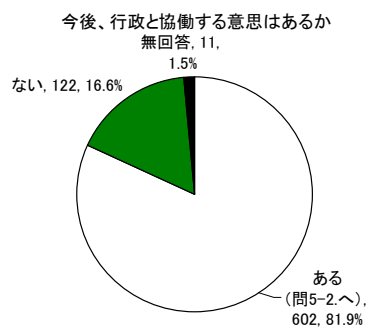
問5. 今後、行政と協働（協力・連携）を行う意思

今後、あなたの団体は、行政と協働（協力・連携）を行う意思はありますか。

『ある』602(81.9%)が、『ない』122(16.6%)を大きく上回っている。

V問 2-2 で『今後新たな協働事業のパートナー』に行政を選んだのは 514 だったが、『今後行政と協働する意思』については、それを上回る数の法人が『ある』と答えている。

活動分野別にみると、「災害救援」、「人権擁護平和」、「男女共同参画」で 100%の法人が『ある』と回答している。『ない』の比率が最も高いのは「消費者」の 50%、次いで「地域安全」33.3%、「国際協力」30%となっている。



表V-5 主な活動分野 と 今後行政と協働する意思はあるか

上段：法人数，下段：%

	ある	ない	無回答	合計
保健医療福祉	186 (78.5%)	45 (19%)	6 (2.5%)	237
社会教育	40 (85.1%)	7 (14.9%)	0 (0%)	47
まちづくり	74 (91.4%)	7 (8.6%)	0 (0%)	81
学文芸スポ	73 (82%)	16 (18%)	0 (0%)	89
環境の保全	85 (82.5%)	17 (16.5%)	1 (1%)	103
災害救援	3 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	3
地域安全	8 (66.7%)	4 (33.3%)	0 (0%)	12
人権擁護平和	6 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	6
国際協力	6 (60%)	3 (30%)	1 (10%)	10
男女共同参画	7 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	7
子どもの健全育成	70 (87.5%)	10 (12.5%)	0 (0%)	80
情報化社会	7 (87.5%)	1 (12.5%)	0 (0%)	8
科学技術	4 (80%)	1 (20%)	0 (0%)	5
経済活動	6 (66.7%)	2 (22.2%)	1 (11.1%)	9
職業能力	11 (68.8%)	4 (25%)	1 (6.3%)	16
消費者	3 (50%)	3 (50%)	0 (0%)	6
連絡	12 (85.7%)	2 (14.3%)	0 (0%)	14
無回答	1 (50%)	0 (0%)	1 (50%)	2
合計	602 (81.9%)	122 (16.6%)	11 (1.5%)	735

◆行政と協働で直面した課題・意見

問5では、行政との協働で直面した課題や、協働を経験しての意見を自由に記述してもらい、188の回答があった。「行政側の理解や対応、姿勢へのNPO側の批判と評価」が最も多く47、次いで「各種、行政への要望」24、「事業費や予算に関する要望・意見」21などであった。(表V-5)

表V-5 行政との協働で直面した課題・意見

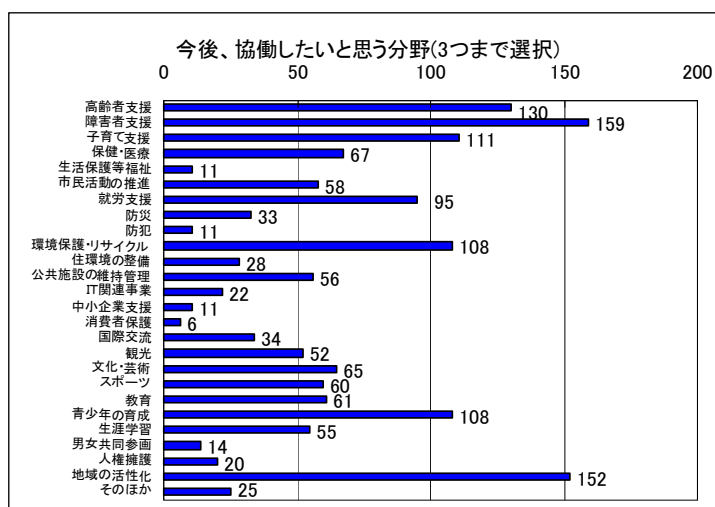
行政側の理解や対応、姿勢へのNPO側の批判と評価	46
各種、行政への要望	24
事業費や予算に関する要望・意見	21
協働したい事業・内容	16
好意的、前向き	12
障害者・高齢者・福祉	11
手続きや書類の煩雑さ	8
内容によっては協働したい	7
実施中・協議中	6
協働無しでは活動していけない	4
行政の補完	3
子育て・青少年教育	3
行政とNPOの双方に問題あり	3
頼まれれば協働しても良い	3
情報	2
協働はできない	2
継続した協働を	2
その他	15
計	188

問5-2. 今後、協働（協力・連携）したいと思う分野

今後、事業の中で協働（協力・連携）したいと思う分野を3つまで選び、その番号と事業内容をお書きください。

『障害者支援』が159で最も多く、次いで『地域の活性化』152、『高齢者支援』130、『子育て支援』111の順となっている。

『そのほか』では、複数の分野にまたがるものや、分野ではなく具体的な事業をあげた回答がほとんどであった。



問6. 『NPOアイデア活用協働推進事業』の認知度。

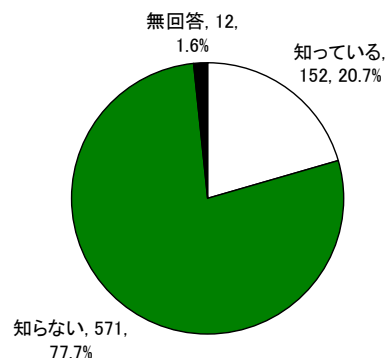
静岡県では、NPOからの企画提案を県の施策に反映させる事業として「NPOアイデア活用協働推進事業」を実施していますが、「NPOアイデア活用協働推進事業」を御存知ですか。

『知らない』571(77.7%)、『知っている』152(20.7%)となっている。

『知っている』の意見は31あり、内訳は「PR・情報の不足」を指摘する意見が9、「アイデアを出した団体と実施団体が異なること」が2、などであった。(表V-6-1)

『知らない』の意見は 29 あり、「PR・情報の不足」を指摘する意見が 19、「趣旨に賛成」とするもの2、などであった。(表V-6-2)

「NPOアイデア活用協働推進事業」を知っているか



表V-6-1 『知っている』と回答した法人の意見

PR・情報不足	9
改善を	8
提案団体と実施団体の不一致	2
具体的な事業内容	2
その他(前向き)	4
その他(後ろ向き)	6
計	31

表V-6-2 知らないと回答した法人の意見

PR・情報不足	19
趣旨に賛成	2
その他	8
計	29

問7. 『NPOと行政・企業との協働』についての意見や希望。

「NPOと行政・企業との協働」について、御意見や御希望があれば簡潔にお書きください。

183 の意見要望があった。大別すると、「行政の施策への提案」78、「NPOと行政、企業の協働」についてなど「協働全般」についてが 57、「行政のNPOへの対応」について16、「NPOと企業の協働について」10 などとなっている。

表 5-7 NPO と行政・企業との協働への意見

行政への意見・要望・提案	78
協働全般について	57
行政の NPO への対応について	16
NPO と企業との協働について	10
NPO に対する協働についての意見・要望・提案	5
その他	17
計	183

※このほか「ない、なし」との回答も19あった。

VI. 思想・理念・ミッションなど

※法人（代表者等運営責任者）の考え

ここでは、思想・理念・ミッションなど、代表者などNPO法人の中心的なメンバーが、活動を展開する中で、どのように感じ、考えているかを調査した。

問1. NPOを若者に勧めるか

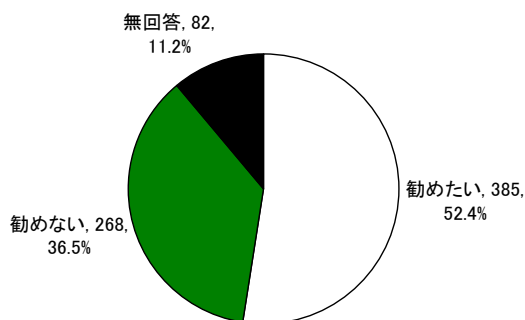
「NPOで働きたい」という若者について、どうお考えになりますか。

『勧めたい』385(52.4%)、『勧めない』268(36.5%)となった。

『勧めたい』理由としては299の回答があり、「生活面で経済的な困難はあるが勧めたい」44、「豊かな人生が送れる」など「若者自身のためになる」36、「社会貢献できる」34、「後継者になって欲しい、参加して欲しい」21などとなっている。(表VI-1-1)

『勧めない』理由としては195の回答があり、「生活面で経済的な困難があるから」149などであった。(表VI-1-2)

NPOで働きたいという若者をどう思うか



表VI-1-1 若者に勧めたいか(勧めたい理由)

生活面で経済的な困難はあるが勧めたい	44
若者自身のためになる	36
社会貢献できる	34
入って欲しい、後継者になって欲しい	21
ボランティアとしてなら勧める	14
やりがいのある仕事だから	13
色々な経験をして欲しい	12
企業を選択するのと同じ・雇用創出	12
自由な職場だから	12
若者が働きたいと希望するのなら勧める	12
NPOを理解してくれるなら	10
社会を知ってほしいから	6
知識・能力の獲得	6
福祉・障害者関係	5
若者に、リーダーになってほしい	5
思想を持って活動できるから	5
NPO団体のため	5
しっかりしたNPOへの就職なら勧めたい	4
参加してほしい	4
NPO就職の前に、企業に就職して経験を積んでほしい	3
利益追求からの脱却	3
起業・事業展開	3
NPOの活動そのものに意義があるから	3
環境保全関係	2
とりあえず体験して、決めてもらえば良い	2
NPOは活動目的が明確だから	2
自団体では受け入れられないが勧めたい	2
若者と活動したい	2
その他	17
計	299

表VI-1-2 若者に働めたいか(働めたくない理由)

生活面で経済的な困難があるから	149
NPO 団体は弱いから	10
経験不足だから	9
NPO は働く場ではないから	7
他の選択肢を検討してほしい	3
若者は要らない	3
若者は夢に向かってほしい	3
その他	11
計	195

表VI-1-3 若者に働めたいか(無回答の理由)

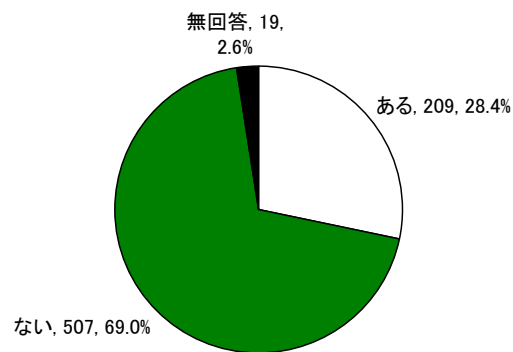
記述が「わからない」のみ	27
雇う体制が無い団体だから答えられない	9
ケースバイケース	7
若者の意思に任せるから	5
社会貢献であるべきだから	2
その他	7
計	57

問2. 活動を辞めたいと思ったか
活動を辞めたいと思ったことは、ありますか。

『ある』209(28.4%)、『ない』507(69.0%)となった。

『ある』理由としては158の回答があり、「負担が大きい」52、「活動資金の確保が困難」35、「内部や外部の人との人間関係のトラブル」28、「会員の減少、高齢化」10などがあった。これらはIからIIIの回答にみられた困難・課題と共通する。

活動を辞めたいと思ったことはあるか



表VI-2-1 辞めたいと思ったことが『ある』理由

負担が大きいから	52
活動資金の確保が困難	35
内部や外部の人との人間関係のトラブル	28
会員の減少・高齢化	10
行政などが非協力的	6
本業との関係	5
現実と理想のギャップなど	5
目標達成が困難	4
体力面・健康面	3
その他	10
計	158

『ない』理由としては 184 の回答があり、「やりがい、喜びがある」29、「必要とされているから」28、「理由は特
にない」20、「仲間がいるから」9などとなっている。

表 VI-2-2 辞めたいと思ったことが『ない』理由

やりがい・喜びがあるから	29
必要とされているから	28
理由無し	20
仲間がいるから	9
うまくいっているから	8
具体的な目的達成のため	8
活動を始めたばかりだから	8
使命だから	8
継続してきたから	7
無理していないから	6
その他(目的のため)	6
自分の引退は近いが、次世代へつなげていきたい	5
前向きではない理由	5
ライフワークだから	4
社会貢献・喜ばれるから	4
自分で始めた事だから	3
自分を高めるため	3
人々の交流	3
自分に合っているから	3
やめる事を考える暇も無かった	2
困難の存在が、やる気を生み出すから	2
その他	9
計	184

問3. 行政から自立した存在であるべきか

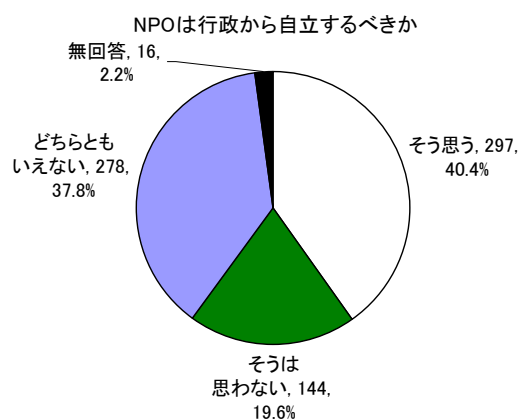
「NPOは、行政から自立した存在であるべきだ」という意見について、どう思いますか。

『そう思う』が 297(40.4%)、『どちらともいえない』が 278(37.8%)、『そうは思わない』が 144(19.6%)となった。

『そう思う』理由としては 183 の回答があり、「相互補完、連携が大切」45、「自立は当然」30、「自由に活動したい」21、「行政の関わり方への批判」20、「行政の下請けではない」16 などがあった。(表VI-3-1)

『どちらともいえない』理由としては 113 の回答があり、「ケースバイケース」36、「相互補完や協力も大切」30 などがあった。(表VI-3-2)

『そうは思わない』理由としては 95 の回答があり、「自立はむずかしい」31、「相互補完していくべき」27 などがあった。(表VI-3-3)



表VI-3-1 NPOは行政から自立しているべきか(そう思う)

相互補完、連携が大切	45
自立は当然	30
自由に活動したい	21
行政批判	20
行政の下請けではない	16
行政とは別の考えを持ちたい	7
自立そのものが大切	6
行政に依存したくない	6
目的達成のため	4
NPO 批判	4
利潤追求はしない	3
地域のため	3
自立のために、利益を得られる独自の活動が必要	3
行政に意見を言える立場に居たい	3
金銭的支援は欲しい	3
その他	10
計	183

表VI-3-2 NPOは行政から自立しているべきか(どちらともいえない)

目的や活動内容により行政との関わりが異なるから	36
相互補完や協力も大切	30
わからない・明確な意見の記述ではない	7
自立したほうが良いとは思うが	7
財政支援は欲しい	6
行政批判	4
下請けはダメだが、協力していきたい	4
現在、行政と協力している	3
完全な自立は難しい	3
その他の支援が欲しい	2
その他	11
計	113

表VI-3-3 NPOは行政から自立しているべきか(そうは思わない)

自立はむずかしい	31
協力していくべきだから	27
行政とのつながりが強過ぎるから	5
ケースバイケース	5
委託を受けている・受けたいから	5
行政とは保管しあうべき・行政を補完するため	4
行政の下請けなどでなければ良い	2
行政批判	2
その他	14
計	95

問4. 先進性・革新性は大切か

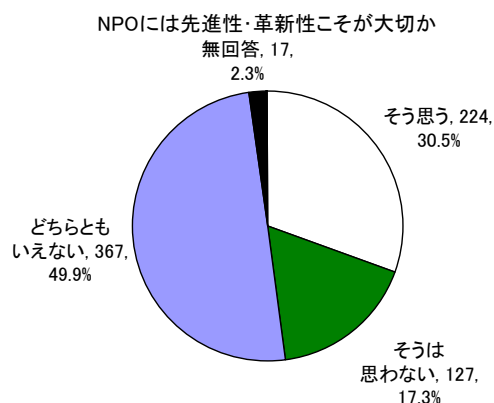
「NPOには、先進性・革新性こそが大切だ」という意見について、どう思いますか。

『そう思う』が224(30.5%)、『どちらともいえない』が367(49.9%)、『そうは思わない』127(17.3%)となった。

『そう思う』理由としては147の回答があり、「行政を補完して課題に対応するため」36が最も多く、次いで「新しいことに着手するため」26、「先進性・革新性は当然」15などとなった。(表VI-4-1)

『どちらともいえない』理由としては121の回答があり、「目的や活動内容により行政との関わりが異なるから」35、「先進性・革新性だけではダメだから」15、「古いものこそ大切」11などがあつた。(表VI-4-2)

『そうは思わない』理由としては75の回答があり、「他に大切なものがある」22、「地道な活動こそが大切」13、「一概にはいえない」10などがあつた。(表VI-4-3)



表VI-4-1 先進性・革新性こそ大切か(そう思う)

行政を補完して課題に対応するため	36
新しいことに着手するため	26
先進性・革新性は当然	15
早い行動のため	12
今のニーズに対応	11
将来のため	11
先進性・革新性は必要だが、他にも必要なものがある	6
先進性・革新性は必要だが、難しい	5
NPOの地位向上のため	2
お金のため	2
下請けには反対	2
批判	2
その他	17
計	147

表VI-4-2 先進性・革新性こそ大切か(どちらともいえない)

目的や活動内容により行政との関わりが異なるから	35
先進性・革新性だけではダメだから	15
古いものこそ大切	11
わからない	10
継続こそ大切	7
地道な活動こそが大切	6
先進性・革新性の定義がハッキリしてないので答えられない	5
NPOに限らない	4
批判	4
行政の補完	3
まだ先進性・革新性に着手できる状態ではない	2
必ずしも必要ではない	2
具体的な活動内容を記述	2
その他	15
計	121

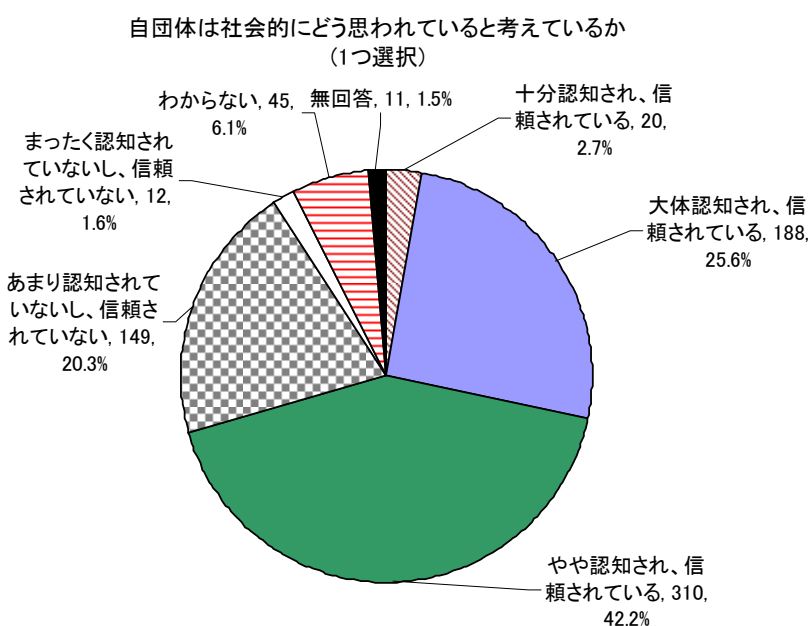
表VI-4-3 先進性・革新性こそ大切か(そう思わない)

他に大切なものがある	22
地道な活動こそが大切	13
一概にはいえない	9
継続こそ大切	7
先進性・革新性はNPOと関係ない	6
先進性・革新性の定義がハッキリしてないので答えられない	3
その他	13
計	73

問5. 認知・信頼されているか

現在、NPOは社会的に認知され信頼されていると思われますか。該当するものを1つ選び、その番号に○をつけてください。

『やや認知され、信頼されている』が 310(42.2%)と最も多く、次いで『大体認知され、信頼されている』が 188(25.6%)、『あまり認知されていないし、信頼されていない』が 149(20.3%)、『十分認知され、信頼されている』が 20(2.7%)、『まったく認知されていないし、信頼されていない』が 12(1.6%)となった。



問6. 「新しい公共」を担う力があるか

現在のNPOに「新しい公共」「これからの町づくり」を担っていく力があると思えますか。

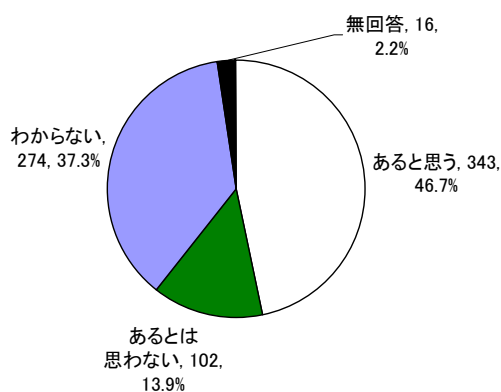
『あると思う』343(46.7%)、『わからない』274(37.3%)、『あるとは思わない』102(13.9%)となった。

『あると思う』理由としては 209 の回答があり、「行政の補完をしなければならないから」22、「あると思う、そうありがたい」22、「地域、社会のために必要な力がNPOにはあるから」21 などがあった。(表VI-6-1)

『わからない』の理由としては 94 の回答があり、「力不足」22、「団体による」19、「行政や法制度に問題」7 などがあった。(表VI-6-2)

『あるとは思わない』理由としては 54 の回答があり、「力不足」26、「行政や法制度に問題」7、「NPOが担うことではない」5 などがあった。(表VI-6-3)

現在のNPOに「新しい公共」「これからの町づくり」を担っていく力があるか



表VI-6-1 新しい公共を担う力があるか(あると思う)理由

行政の補完をしなければならないから	22
地域、社会のために必要な力がNPOにはあるから	21
それぞれの NPO 団体によるが	13
あると思う(根拠無し)	12
色々な事ができるから・素早いから	12
あると思いたい	10
行政が協力してくれれば	10
非営利だから・ボランティアだから・お金がかからないから	9
志が高いなど	7
専門的な知識などがあるから	7
具体的な活動内容を記述	7
自分の団体は、担う力を持っている	6
担っていくしかないから	6
担っている団体はある	6
人の心次第	6
行政などへの批判	5
ただし、特定の人材(若者、主婦、など)が必要	5
行政に協力できるから	5
NPO の能力が向上すれば担える	5
ただし、お金の問題が解決すれば	4
行政から市民へ主導権を移すため	4
担える事を期待したい	4
他団体と協力すれば可能	3
ただし、行政から自立できていれば	2
担う事に NPO の価値がある	2
その他	16
計	209

表VI-6-2 新しい公共を担う力があるか(わからない)

団体による	19
全くわからない	7
何らかの情報を得られていないので、判断できない	4
力不足	22
市民に知られていない	3
他団体と協力が必要	6
人材の問題	5
担えるようになってほしいが	3
行政や法制度に問題	7
公共に関わる必要は無い	2
今は無理だが、今後はわからない	2
「新しい公共」という単語そのものを否定	2
担うのは無理	3
その他(わからない)	4
その他	5
計	94

表VI-6-3 新しい公共を担う力があるか(あるとは思わない)理由

力不足	26
行政や法制度に問題	7
NPO が担う事ではない	5
NPO が悪い	4
「新しい公共」という単語そのものを否定	2
市民意識に問題がある	2
その他	8
計	54

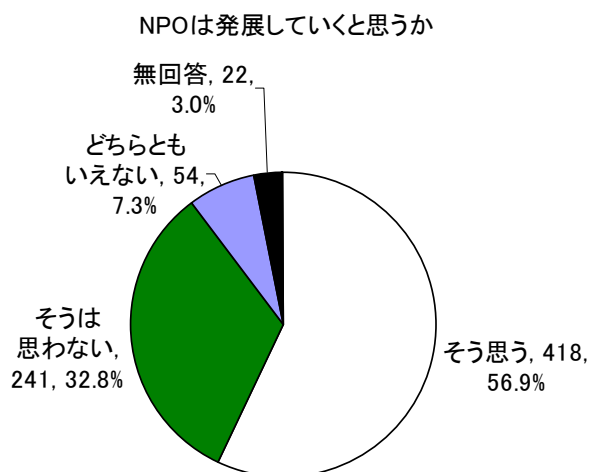
問7. NPOは発展していくか
NPOは、これからますます発展していくと思いますか。

『そう思う』が 418(56.9%)、『そうは思わない』は 241(32.8%)、『どちらともいえない』は 54(7.3%)となった。

『そう思う』理由としては226の回答があり、「発展していくべきだし、発展する」133、「発展することを期待したい」30、「社会がそれを求めている」17 などがあった。(表VI-7-1)

『どちらともいえない』理由としては 35 の回答があり、「先行き不透明でわからない」15、「社会の認知度にかかっている」5 などがあった。(表VI-7-2)

『そうは思わない』理由としては 132 の回答があり、『実力・支援・人材などすべての点で未成熟』36、「組織力・資金・人材などの不足」35、「淘汰され衰退する」26 などがあった。(表VI-7-3)



表VI-7-1 NPOは発展していくか(そう思う)理由

発展していくべきだし、発展する	133
発展することを期待したい	30
社会がそれを求めている	17
その他	46
計	226

表VI-7-2 NPOは発展していくか(どちらともいえない)理由

わからない	15
活動内容による	3
社会の認知・意識	5
財政問題	3
その他	9
計	35

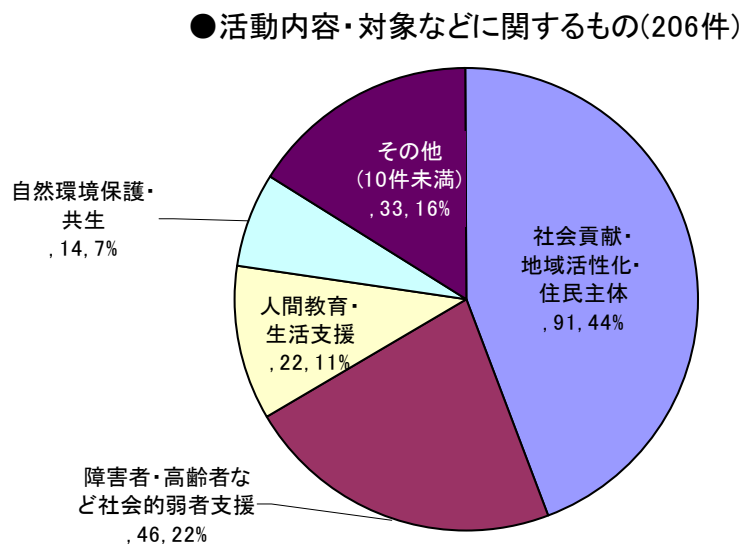
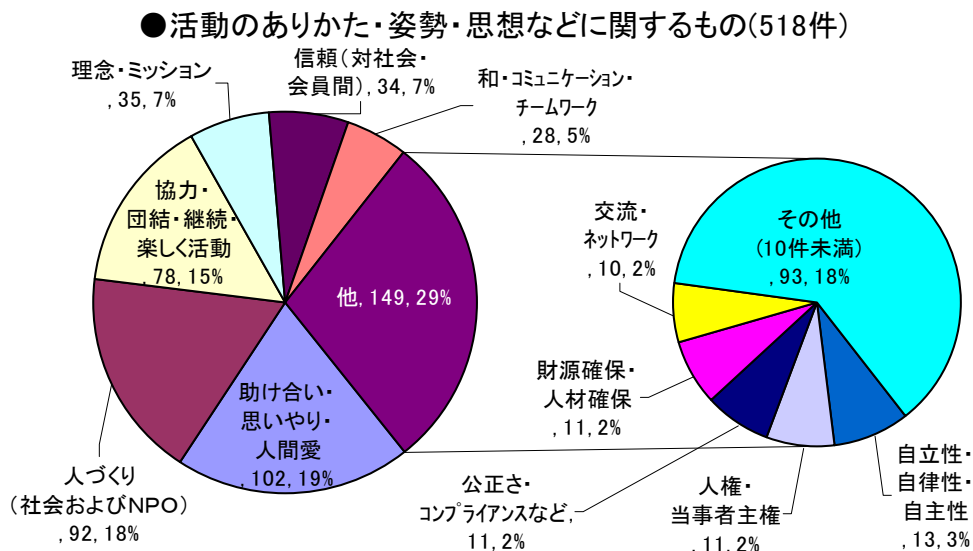
表VI-7-3 NPOは発展していくか(そう思わない)理由

実力・支援・人材などすべての点で未成熟	36
組織力・資金・人材などの不足	35
淘汰され衰退する	26
行政の理解・対応に課題	15
発展は無い(理由有り)	4
発展は無い(理由無し)	4
わからない・答えられない	2
その他	10
計	132

問8. 大切にしていること

活動を進めるうえで、あなたの団体が大切にしているのは、どんなことですか。（自由記述、単語や短い言葉でお答えください）

724 の回答があり、「活動のありかた・姿勢・思想などに関するもの」518 と「活動内容・対象などに関するもの」206 のグループに分かれた。前者では、「助け合い・思いやり・人間愛」102、「人づくり（社会およびNPO）」92、「協力・団結・継続・楽しく活動」78 などがあった。後者では、「社会貢献・地域活性化・住民主体」91、「障害者・高齢者などへの社会的弱者への支援」46 などがあった。



表VI-8-1 大切にしていること ●活動のありかた・姿勢・思想などに関するもの(518件)

助け合い・思いやり・人間愛				102	
人づくり(社会およびNPO)				92	
協力・団結・継続・楽しく活動				78	
理念・ミッション				35	
信頼(対社会・会員間)				34	
和・コミュニケーション・チームワーク				28	
他	公正さ・コンプライアンスなど		16	155	
	自立性・自律性・自主性		13		
	人権・当事者主権		11		
	財源確保・人材確保		10		
	交流・ネットワーク		10		
	その他(10件未満)	無理のない活動	9		95
		情報共有・透明性	9		
		行動力・実践力	9		
		開拓性・創造性	8		
		協働	8		
		誠実さ	8		
		自由意思・柔軟性	7		
		組織運営・管理	6		
		NPOの社会的認知	6		
		専門性・プロ意識	5		
		ニーズ尊重(市民・会員とも)	5		
		感謝の心	3		
バランス感覚	2				
学習・自己啓発	2				
自己実現・やりがい	2				
差別・偏見をなくす	2				
夢	1				
多様な価値観	1				

表VI-8-2 大切にしていること ●活動内容・対象などに関するもの(206件)

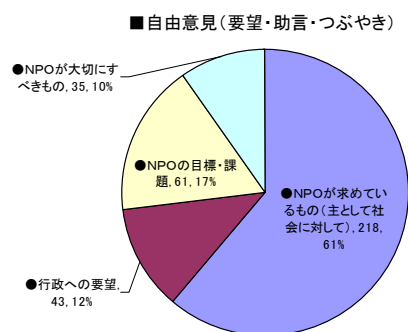
社会貢献・地域活性化・住民主体			91
障害者・高齢者など社会的弱者支援			46
人間教育・生活支援			22
自然環境保護・共生			14
その他(10件未満)	社会的課題の解決	8	33
	スポーツ振興・普及	5	
	地域の安全・安心	3	
	国際交流	3	
	市民参画	3	
	子育て支援	3	
	文化の向上	2	
	中間支援・NPO育成	2	
	防災・防犯	2	
	地域の歴史・文化継承	1	
	産業支援	1	

問9. これからNPO活動を始める人への助言・その他の意見
 あなたの団体の活動や経験を通じて、今後、同様の活動をする方や団体への助言、行政などを知って
 もらいたい内情、あるいは御提案などがございましたら、お聞かせください。

361 の回答があり、「NPOが社会に求めているもの」に関するものが152と最も多かった。次いで「行政への要望」85、「NPOが大切にすべきもの」76、「NPOの目標・課題」48、の3グループに分かれる。

「NPOが社会に求めているもの」では、「NPOに対する理解・支援・広報啓発」が 67、次いで「活動資金・財源の確保と支援」37、「後継者育成・人材確保と育成」15、「行政との協働・連携と行政の支援」13 などとなっている。

残り3グループの中では、「自治体・職員の意識改革と学習」18、「諸手続き・規則・書類などの簡素化」13、「NPOの交流・連携・ネットワーク化」12 などがあった。



表VI-9 これからNPO活動を始める人への助言・その他の意見

●NPOが求めているもの(主として社会に対して)

NPOに対する理解・支援・広報啓発	67
活動資金・財源の確保と支援	37
後継者育成・人材確保と育成	15
行政との協働・連携、行政の支援	13
その他	20
計	152

●行政への要望

自治体・職員の意識改革と学習	18
諸手続き・規則・書類などの簡素化	13
資金・税制面での支援	8
PR・情報などの支援	6
このアンケートに関して	6
そのほか	32
計	85

●NPOが大切にすべきもの

志・理念	12
連携	8
自立	8
計画性	8
きっちり運営	6
資金面	5
柔軟・無理なく	4
行政等外部の活用	4
PR情報	3
そのほか	18
計	76

●NPOの目標・課題

人材の開発・確保	10
資金の開発・確保	9
広報・PR	4
交流・連携	4
そのほか	21
計	48

まとめ

平成 18 年に実施された「静岡県 NPO 法人等実態調査」（以下、「18 年調査」という。）は、NPO 法人と任意団体 606 団体を対象に 346 団体から回答を得てとりまとめられたが、今回の調査は、NPO 法人に特化し、調査項目も増やし、回答率も 79.6% となったことから、NPO 法人の現状を具体的に捉えることができた。

財務状況を見ると、財源を法人独自の事業収入（業務委託費を除く）とする法人の割合が高く、将来的な収入源を、「独自の事業収入を中心としていきたい」と考える法人の割合が最も高いことがわかった。

財政規模は 1000 万以上の法人の割合が最も高いが、100 万円～500 万円未満の割合も高く、大きく 2 つに分かれている。

財政的に困窮しているといわれる NPO 法人であるが、今回の調査では活動資金の備蓄（内部留保）がある法人は 73.7% にのぼり、直近の決算が赤字となった法人は 20.8% で、その要因として事業計画と実際の活動に乖離があったと考える法人が多いことも判明した。

社会の課題解決等に取り組みながら、課題を解決できない原因として資金不足をあげる法人が多いことから、単なる決算上の収支ではなく、このような点で財政的に困窮しているとも考えられる。

NPO 法人への寄付がなかなか普及しないことが話題になることがあるが、今回の調査で 53.2% の法人が寄付を受けた実績があることがわかった。

協働に関する意識についても調査したが、法人が公共分野で担っていると思う役割については、18 年調査と比較し「公共サービスの質を向上させる役割」があると考えた法人の割合が 18.4% 減少し、「地域の課題やニーズの解決に主体的に取り組む役割」が 16.0% も増加するなど意識の変化を見ることができた。

また、回答者の 7 割が協働を新たに行いたいと考えており、その相手先として、多くが県や市町などの地方公共団体、企業、自治会などの組織を選択している。特に国を含めた行政を選択したものは 69.9% となった。一方で行政と協働を行う意思がある法人の割合は 81.9% あった。

行政に求める支援について、県、市町とに分けて確認したが両者とも財政的な支援が最も多い結果となった。場所や機材の提供というハードの支援については県より市町に求め、情報や相談などソフトの支援を県に求める割合が高いことが明確になった。

行政は今後の NPO 施策を考える上で、NPO 法人にとっては自らの存在を客観的に捉える上で、今回の調査結果が参考となることを期待したい。